

ConsoleDA UI 操作マニュアル

マニュアルはよく読み、大切に保管してください。
製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

-目次-

1 動作環境	1
2 初期設定	3
2-1 画面の構成	3
2-2 「ConsoleDA Manager」への接続	4
2-3 JP 宛先ファイルのインポート	5
2-4 CSV ファイルのインポート	7
2-5 新規グループの作成方法	9
2-6 新規設置場所の作成方法	10
2-7 新規ラックの作成方法	11
2-8 新規シャーンシの作成方法	12
2-9 新規ブレードの作成方法	13
3 運用管理	16
3-1 状態・情報の表示	16
3-1-1 アイテム情報表示	16
3-1-1-1 状態表示	16
3-1-1-2 表示列の選択	18
3-1-2 ブレード情報表示	19
3-1-3 ConsoleDA の構成表示	20
3-1-4 ブレードの省電力設定表示	21
3-1-4-1 省電力設定の一覧表示	21
3-1-4-2 省電力設定の個別表示	22
3-2 情報の編集	24
3-2-1 グループ・設置場所・ブレードの移動	24
3-2-1-1 ドラッグ&ドロップ	24
3-2-1-2 カット&ペースト	25
3-2-2 名前の変更	26
3-2-3 削除	27
3-2-3-1 グループ・設置場所・ラック・シャーンシ	27
3-2-3-2 ブレードの削除	28
3-3 省電力設定の操作・設定	30
3-3-1 カレンダーと休日スケジュール設定	30
3-3-2 スケジュール設定	33
3-3-2-1 曜日別設定	34
3-3-2-2 日別設定	35
3-3-2-3 特異期間設定	36
3-3-2-4 その他設定	37
3-3-3 ピーク時消費電力抑止設定	38
3-3-4 配信	40
3-4 省電力効果レポートの表示	41

3-4-1	グループごとの省電力効果レポート表示	41
3-4-2	ブレードごとの省電力効果レポート表示	43
3-5	ブレードの利用履歴表示	44
3-5-1	ブレードの接続履歴	44
3-5-2	ブレードの稼働履歴	46
3-5-3	ユーザーの接続履歴	48
3-5-4	履歴データのエクスポート	50
3-6	ブレードの検索	52
3-7	ログの管理	54
3-7-1	表示	54
3-7-2	保存期間の変更	55
3-8	シャーシアラート情報	56
3-9	アラートメールの管理	57
3-10	CALL ランプ制御	59
3-11	SOL (Serial Over LAN) 画面の表示	61
3-11-1	SOL による BIOS セットアップメニュー画面の表示	63
3-11-2	SOL によるブートデバイス選択画面の表示	64
3-12	電源制御	65
3-13	起動デバイスの変更	67
3-14	CPU 制御	68
3-15	外部ツール起動	70
3-16	サーバブレードの管理	73
3-16-1	サーバステータス	73
3-16-2	サービス一覧	74
3-16-3	イベントログ	74
3-16-4	アラート設定	75
3-17	データセンターのビジュアル表示 (VDC Viewer)	78
3-18	デプロイ機能	79
3-19	アップデート機能	80
3-19-1	アップデートパッケージの作成	81
3-19-2	アップデートパッケージの簡易作成	83
3-19-3	アップデートパッケージの割り当て	85
3-19-4	ConsoleDA Agent のアップデート	87
3-20	コマンドラインインタフェース	89
4	環境設定	92
4-1	接続先の管理	92
4-1-1	接続先の登録設定	92
4-1-2	接続先の切り替え	94
4-2	IPMI の設定	95
4-3	接続認証の設定	96
5	困ったときは	97

6 制限事項	100
7 付録	101

重要なお知らせ(注意事項)

- 本書をよくお読みになってから、製品をご使用ください。
- 本書の内容は、将来予告なしに変更される場合があります。
- 本書の内容の一部、または全てを無断で転載することを禁止します。

Copyright © Hitachi, Ltd. 2012 all rights reserved.

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- Citrix、XenDesktop は Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
- インテル、Intel、Pentium、Xeon、Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- ActiveReports for .NET 3.0J

Copyright (C) 2007-2008 DataDynamics, Ltd.

- その他、会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

1 動作環境

ConsoleDA Manager (Ver. 3.11)

OS	Citrix® XenDesktop®4 をご使用の場合： Microsoft® Windows Server® 2003 SP2 Microsoft® Windows Server® 2003 R2 SP2 (32bit) Citrix® XenDesktop®5 SP1 以降をご使用の場合： Microsoft® Windows Server® 2008 SP2 (32bit/64bit) Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1
CPU	Hitachi bd Link の管理コンソールとしてご使用の場合： Intel® Xeon® プロセッサ 2GHz 以上 (4コア以上推奨) SAVINGDA Pro の管理コンソールとしてご使用の場合： Intel® Pentium® プロセッサ 1GHz 以上 (2コア以上推奨)
HDD	Hitachi bd Link の管理コンソールとしてご使用の場合： 空き容量4GB 以上 SAVINGDA Pro の管理コンソールとしてご使用の場合： 空き容量1GB 以上
メモリ	Hitachi bd Link の管理コンソールとしてご使用の場合： 4GB 以上 SAVINGDA Pro の管理コンソールとしてご使用の場合： 1GB 以上
ネットワーク I/F	100Base-TX 以上の Ethernet
必須ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack Citrix® XenDesktop® 4 をご使用の場合： Microsoft® SQL Server® 2005 SP3 Citrix® XenDesktop® 5 SP1 以降をご使用の場合： Microsoft® SQL Server® 2008 SP2 Microsoft® SQL Server® 2008 R2

ConsoleDA UI (Ver. 3.11)

OS	Microsoft® Windows Server® 2003 SP2 Microsoft® Windows Server® 2003 R2 SP2 (32bit) Microsoft® Windows Server® 2008 SP2 (32bit/64bit) Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1 Microsoft® Windows® XP Professional SP3 Microsoft® Windows Vista® Business SP2 (32bit) Microsoft® Windows® 7 Professional SP1 (32bit)
CPU	Intel® Celeron® プロセッサ 540(1.8GHz)以上
HDD	空き容量1GB以上
メモリ	512MB以上
ネットワーク I/F	100Base-TX 以上の Ethernet
必須ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

ConsoleDA Agent (Ver. 3.11)

OS	Microsoft® Windows® XP Professional SP3 Microsoft® Windows Vista® Business SP2 (32bit) Microsoft® Windows® 7 Professional SP1 (32bit/64bit)
適用機種	FLORA bd100 X6 モデル、FLORA bd500 X7 モデル、FLORA bd500 X8 モデル、 FLORA bd500 X9 モデル ^{注1} 、FLORA gd500 X9 モデル ^{注1}
HDD	空き容量1GB以上
必須ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

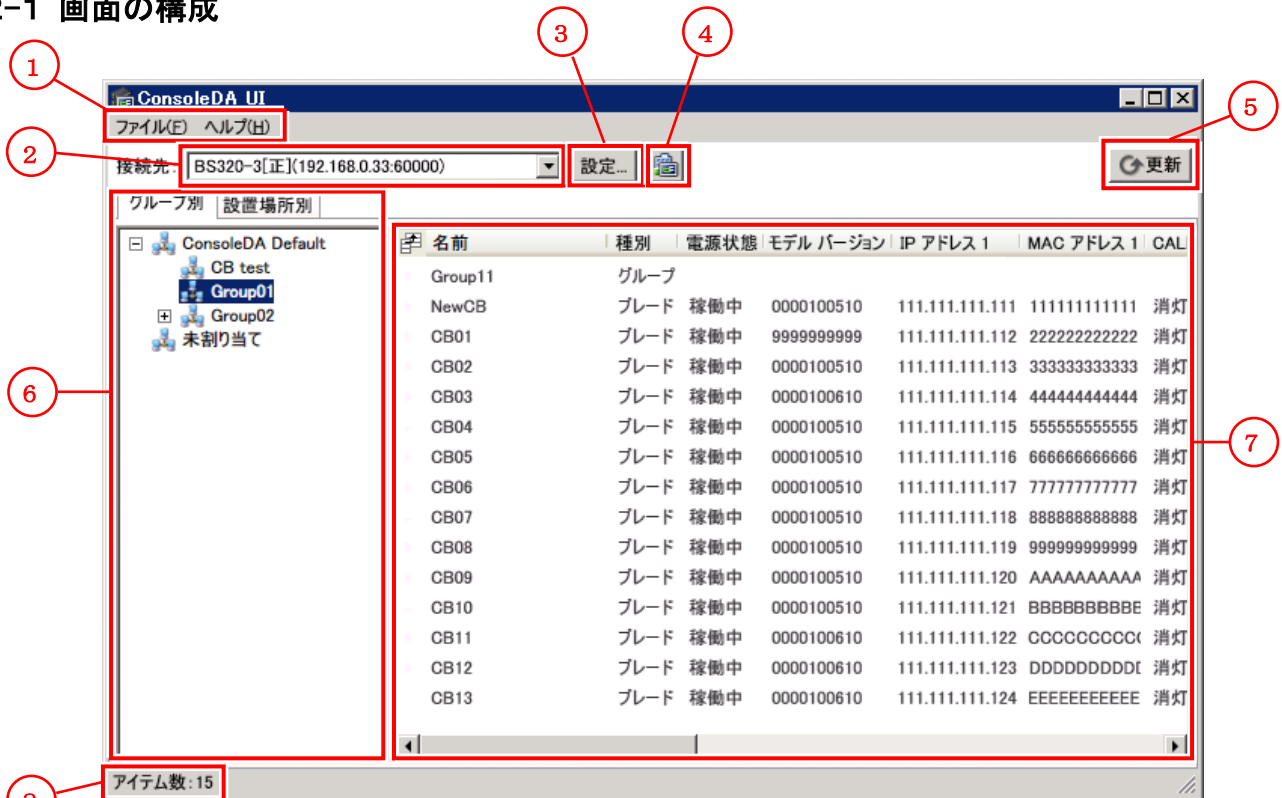
ConsoleDA Agent For Server (Ver. 3.11)

OS	Microsoft® Windows Server® 2003 SP2 Microsoft® Windows Server® 2003 R2 SP2 (32bit) Microsoft® Windows Server® 2008 SP2 (32bit) Microsoft® Windows Server® 2008 R2 SP1
適用機種	FLORA gd500 X7 モデル、HA8000-bd/BD10 X1 モデル、HA8000-bd/BD10 X2 モデル ^{注1}
HDD	空き容量1GB以上
必須ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

注1) 当機種ではLANポートはフロント側1ポートとリア側2ポートの計3ポート存在しますが、2ポートまでのサポートとなります。また、フロント側LANポートを管理ポート(ConsoleDA Managerと通信するポート)としてのご使用はサポートしておりません。

2 初期設定

2-1 画面の構成



ConsoleDA UI 基本画面(管理コンソール画面)

①メインメニュー

ファイルのインポート, 接続先管理, 外部ツール・デプロイ機能・アップデート機能の使用などを行います。

②接続先

接続中の ConsoleDA Manager を表示します。[▼]ボタンをクリックすると、接続先を切り替えることができます。

③設定ボタン

接続先 ConsoleDA Manager の設定画面を表示します。

④「VDC Viewer」起動ボタン

データセンターのビジュアル表示を行う「VDC Viewer」を起動します。

(この機能は「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)

⑤「更新」ボタン

ConsoleDA Manager と通信を行い、画面の表示内容を最新の情報に更新します。

⑥ツリー構成表示エリア

ユーザー定義のグループまたは設置場所の登録情報をツリー状に表示します。

タブで グループ別表示/設置場所別表示 を切り替えます。

⑦アイテムリスト

登録されているグループ・設置場所・ラック・シャーシ・ブレードを一覧表示します。

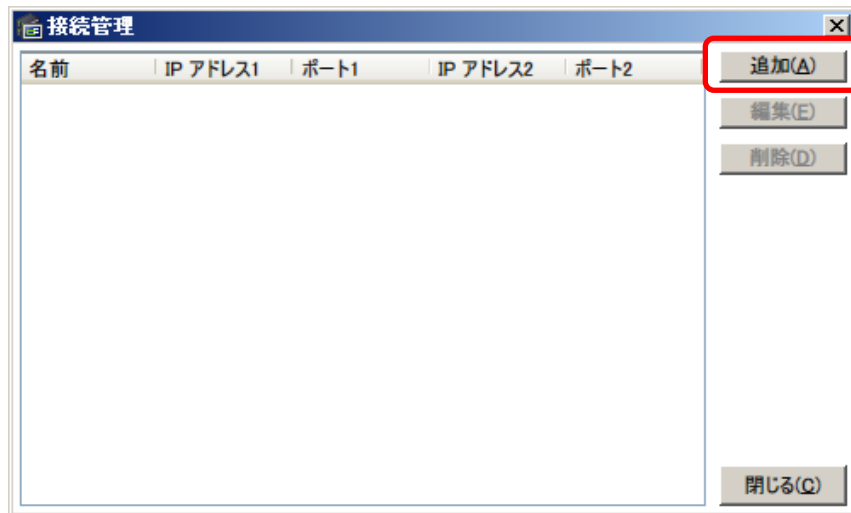
⑧ステータス

ツリー構成表示エリアにて選択されているアイテムの下層に属するアイテム数、またはアイテムリストにてユーザーが選択中のアイテムの数を表示します。

2-2 「ConsoleDA Manager」への接続

・ConsoleDA Manager に接続するには次のように操作します。

1. デスクトップ上のショートカットまたは、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「ConsoleDA」→「ConsoleDA UI」を選択して ConsoleDA UI を起動してください。
2. ConsoleDA UI が起動すると、次の接続管理画面が表示されます (初回起動時)。「追加」ボタンをクリックしてください。



3. 接続設定画面が表示されます。以下の各項目を入力してください。

- ・「名前」欄 接続先の管理用の、任意の名前 (サーバのコンピューター名など)
- ・「IP アドレス 1」欄 ConsoleDA Manager がインストールされているサーバの IP アドレス
- ・「ポート 1」欄 ConsoleDA Manager の受信ポート

正副冗長構成を組んでいる場合は「冗長構成」にチェックを入れ、以下の各項目を追加設定してください。

- ・「IP アドレス 2」欄 副側の ConsoleDA Manager がインストールされているサーバの IP アドレス
- ・「ポート 2」欄 副側の ConsoleDA Manager の受信ポート

4. 「OK」ボタンをクリックし接続設定画面を閉じてください。
5. 「閉じる」ボタンをクリックして接続管理設定を終了してください。

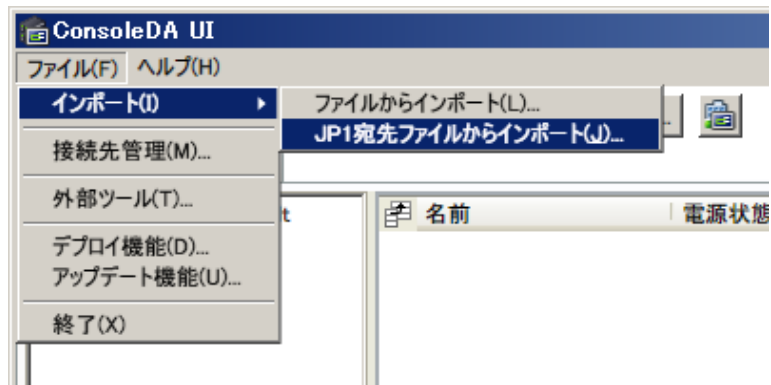
注意	<ul style="list-style-type: none"> 各ブレードにてBMC (Baseboard Management Controller) のパスワードが出荷状態から変更されている場合は、パスワードの設定が必要です。「4-2 IPMIの設定」を参照して、パスワードを設定してください。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 接続先情報が未設定の状態では ConsoleDA UI を起動すると、初回起動時と同様に接続設定画面が表示されます。 「ConsoleDA Manager」に設定されるポートのデフォルト値は「60000」です。 複数の ConsoleDA Manager と接続可能です。設定方法については、「4-1 接続先の管理」を参照してください。

2-3 JP宛先ファイルのインポート

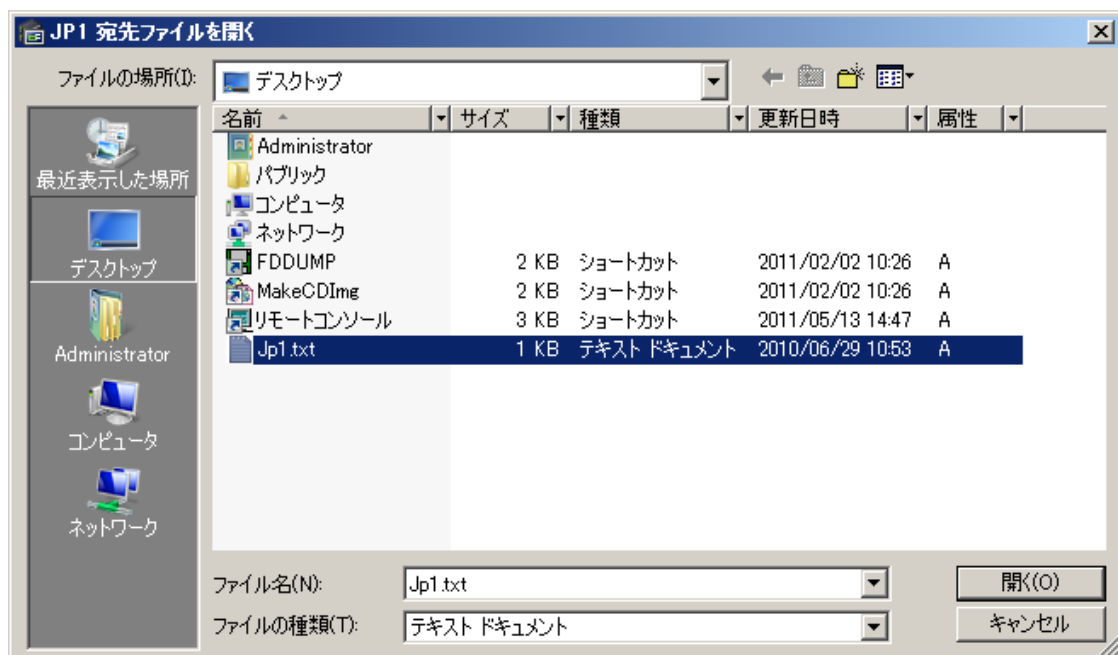
データベースが初期状態の時のみ、JP1 宛先ファイルをインポートすることができます。

・JP1 宛先をインポートするには次のように操作します。

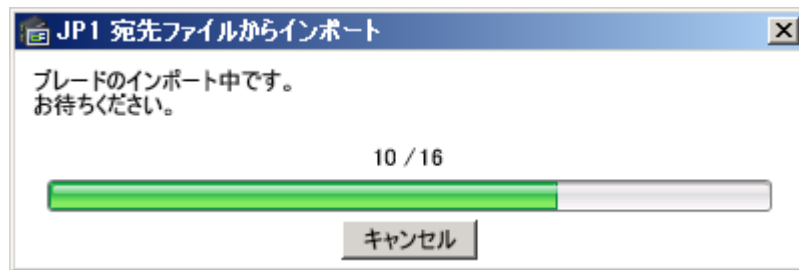
1. メインメニューの「ファイル」を選択し、「インポート」の「JP1 宛先ファイルからインポート」を選択してください。



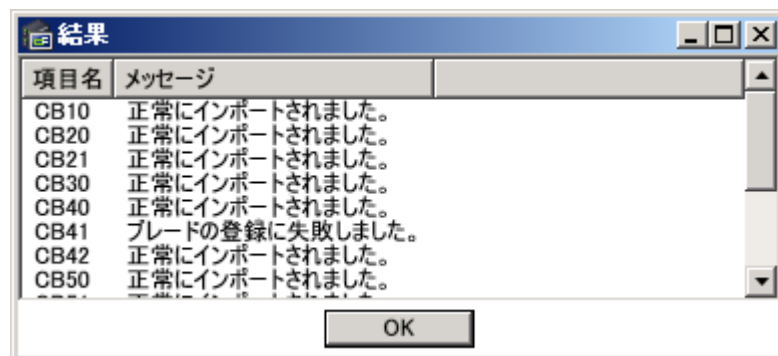
2. 「JP1 宛先データ」が入っているテキスト形式のファイルを選択して、「開く」をクリックしてください。



3. インポート進行ダイアログが次のように表示されます。



4. インポートが完了すると、その結果が表示されます。

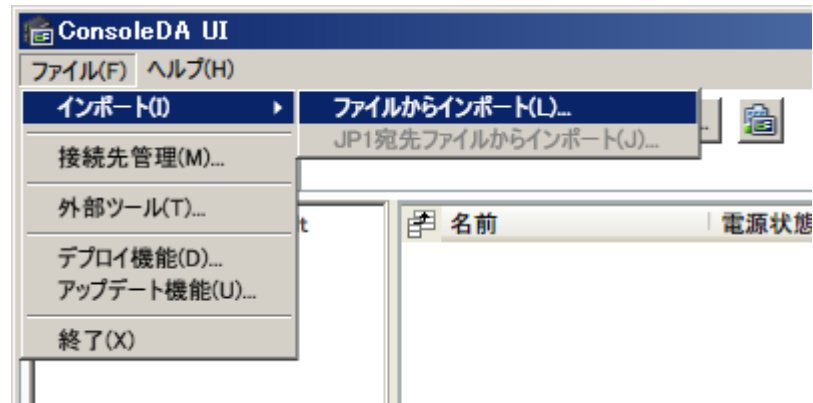


2-4 CSVファイルのインポート

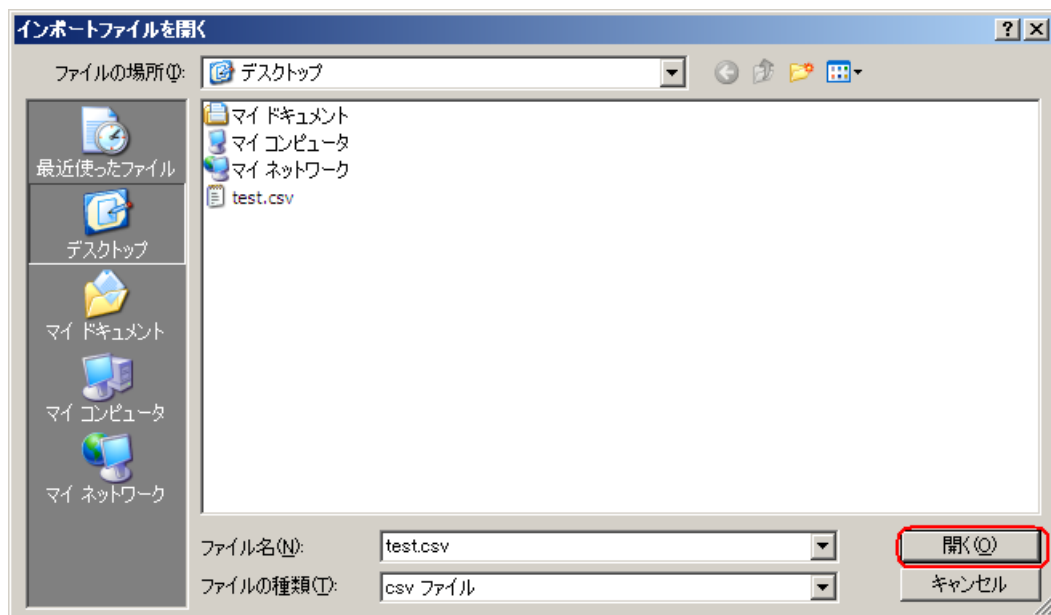
・CSV ファイルからブレードをインポートするには次のように操作します。

(「ConsoleDA Agent」または「ConsoleDA Agent For Server」を用いない場合、この方法が手動登録([2-9 新規ブレードの作成方法](#))を行ってブレード情報を作成してください。)

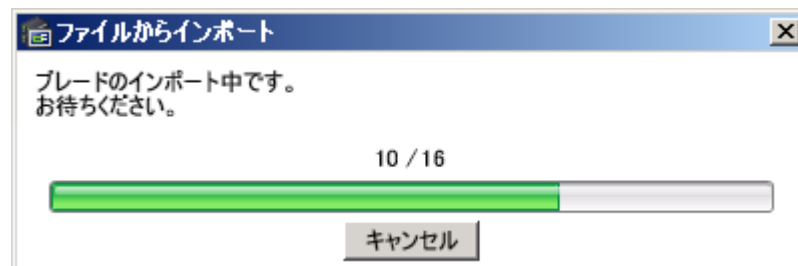
1. メインメニューの「ファイル」から、「インポート」を選択し、「ファイルからインポート」を選択してください。



2. CSV 形式のファイルを選択して、「開く」をクリックしてください。



3. インポート進行ダイアログが次のように表示され、インポートが完了するとダイアログが消えます。



以下、「CSV ファイル」のフォーマット形式です。

NEWCB01,9999999999,192.168.1.1,11-22-33-44-55-66,192.168.1.1,11-22-33-44-55-66,
新しいフォルダ,PLACE01,RACK01,CHASSIS1,1,192.168.1.1,11-22-33-44-55-66

※ 上図では折り返しがされていますが、実際には 1 行で入力してください。

カラム列数	図表示	項目	必須
1	NEWCB01	PC 名	○
2	9999999999	モデル バージョン	
3	192.168.1.1	IP アドレス 1	○
4	11-22-33-44-55-66	MAC アドレス 1	○
5	192.168.1.1	IP アドレス 2	
6	11-22-33-44-55-66	MAC アドレス 2	
7	新しいフォルダ	グループ名(グループのフルパス)	
8	PLACE01	設置場所名	
9	RACK01	ラック名	
10	CHASSIS1	シャーシ名	
11	1	スロット No	
12	192.168.1.1	BMC IP アドレス	△※
13	11-22-33-44-55-66	BMC MAC アドレス	△※

※ …… FLORA bd500 X8/X9 および HA8000-bd/BD10 は入力必須

表中の必須の欄にマークが入っていない項目は記述を省略できます。

以下に、最小限の記述例を示します。

NEWCB01,,192.168.1.1,11-22-33-44-55-66,,,,,,,,

注意	<ul style="list-style-type: none"> • FLORA bd500 X8/X9、FLORA gd500 X9、HA8000-bd/BD10 については、「BMC IP アドレス」と「BMC MAC アドレス」の入力が必須です。 • FLORA bd100 X6、FLORA bd500 X7、FLORA gd500 X7 については、「BMC IP アドレス」と「BMC MAC アドレス」を入力する場合は「IP アドレス 1」「MAC アドレス 1」と同じ値にしてください。 • 「BMC IP アドレス」と「BMC MAC アドレス」のどちらか一方のみの記述はしないでください。 • 「BMC IP アドレス」と「BMC MAC アドレス」を省略する場合は、行末の 2 つのコンマ(,)も省略してください。 • モデルバージョンについては、自動で上書き設定されるため、設定する必要がありません。 • モデルバージョンの情報取得に失敗した場合、9999999999 (不明) に自動設定されます。 • IP アドレスの各値には、0 から始まる表記を使用しないでください。 (例. 誤:192.168.002.010 正:192.168.2.10) • 複数のブレードを同時に登録する場合、ファイルの順番通りに登録されないことがあります。
制限	<ul style="list-style-type: none"> • ConsoleDA Manager をインストールしているサーバブレード自身の情報を登録すると、モデルバージョン番号およびスロット No. は自動設定されません。この場合、モデルバージョン番号は 9999999999 (不明) のままになりますが、スロット No. は手動設定が可能です。

2-5 新規グループの作成方法

・新しく「グループ」を作成するには次のように操作します。

1. 正常に「ConsoleDA Manager」に接続できると管理コンソール画面が表示されます。「グループ別」タブが選択されていることを確認し、「ConsoleDA Default」を右クリックして、メニューから「新規作成」→「グループ」を選択してください。



2. 新しく作成するグループの名前を入力してください。



3. 入力した名前のグループが作成されます。

制限	<ul style="list-style-type: none">・作成できるグループは最大「6階層」までです。・グループ階層上の位置に関係なく、同じ名前のグループを作成することはできません。・グループ名として設定できる文字数は、全角 16 文字、半角 32 文字までです。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

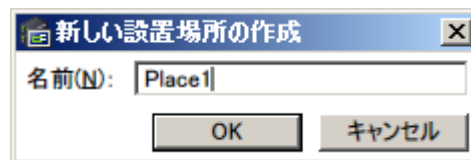
2-6 新規設置場所の作成方法

・新しく「設置場所」を作成するには次のように操作します。

1. 画面の「設置場所別」タブをクリックしてください。
2. 「設置場所別」画面が表示されるので、「設置場所の管理」を右クリックし、「新規作成」→「設置場所」を選択してください。



3. 新しく作成する設置場所の名前を入力してください。



4. 入力した名前の設置場所が作成されます。

制限	<ul style="list-style-type: none">・階層上の位置に関係なく、同じ名前の設置場所を作成することはできません。・設置場所名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 8 文字までです。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

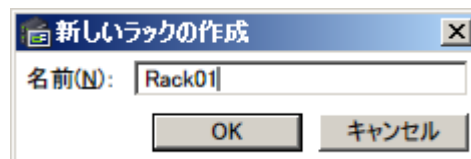
2-7 新規ラックの作成方法

・新しく「ラック」を作成するには次のように操作します。

1. 「設置場所別」タブをクリックし、階層表示を展開して「既定の設置場所」または新しく作成した設置場所を表示してください。
2. 「既定の設置場所」または、新しく作成した設置場所を右クリックし、「新規作成」→「ラック」を選択してください。



3. 新しく作成するラックの名前を入力してください。



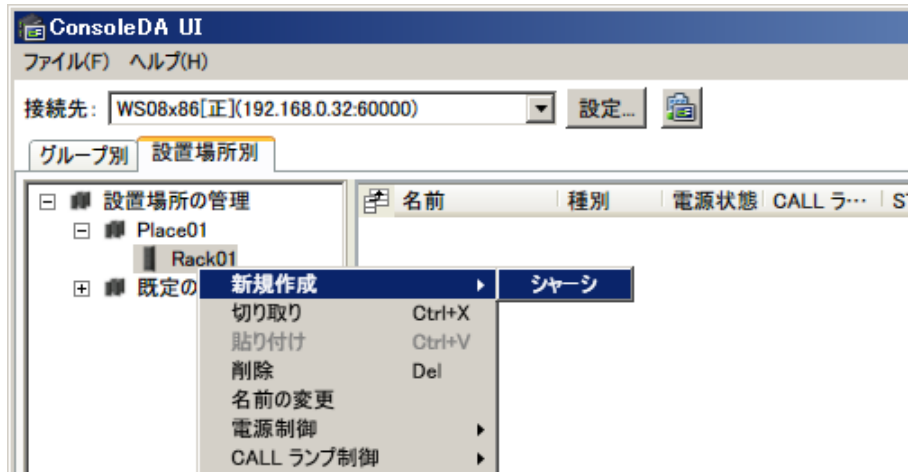
4. 入力した名前のラックが作成されます。

制限	<ul style="list-style-type: none">・階層上の位置に関係なく、同じ名前のラックを作成することはできません。・ラック名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 10 文字までです。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

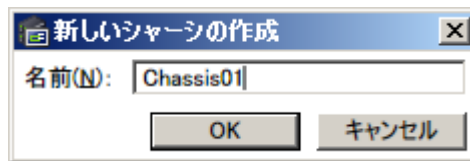
2-8 新規シャーシの作成方法

・新しく「シャーシ」を作成するには次のように操作します。

1. 「設置場所別」タブをクリックし、階層表示を展開して「既定のラック」または新しく作成したラックを表示してください。
2. 「既定のラック」または、新しく作成したラックを右クリックし、「新規作成」→「シャーシ」を選択してください。



3. 新しく作成するシャーシの名前を入力してください。



4. 入力した名前のシャーシが作成されます。

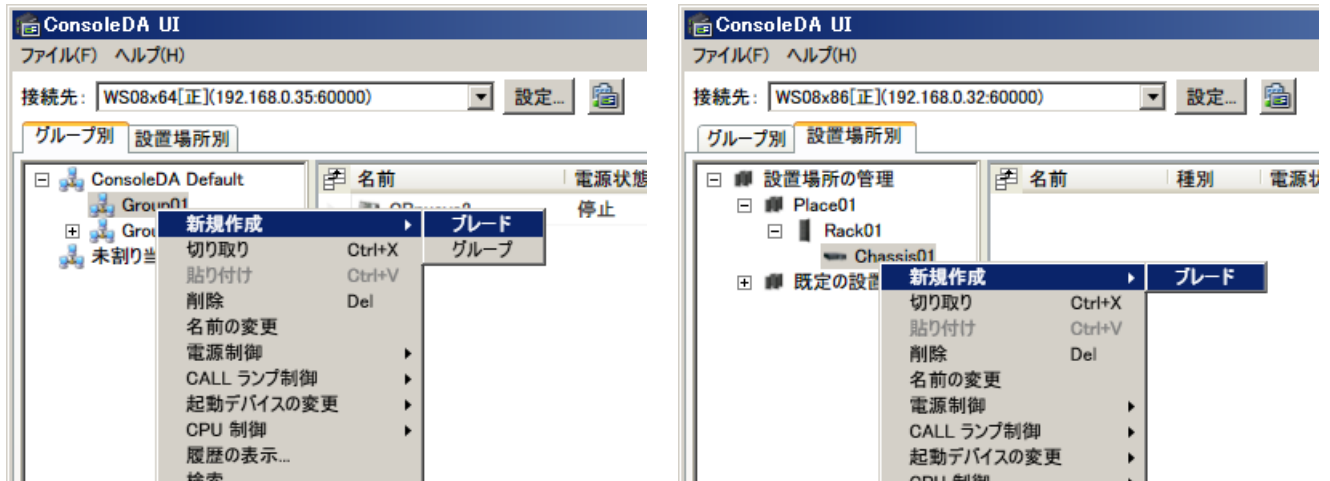
制限	<ul style="list-style-type: none">・階層上の位置に関係なく、同じ名前のシャーシを作成することはできません。・シャーシ名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 10 文字までです。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2-9 新規ブレードの作成方法

・新しく「ブレード」を作成するには次のように操作します。

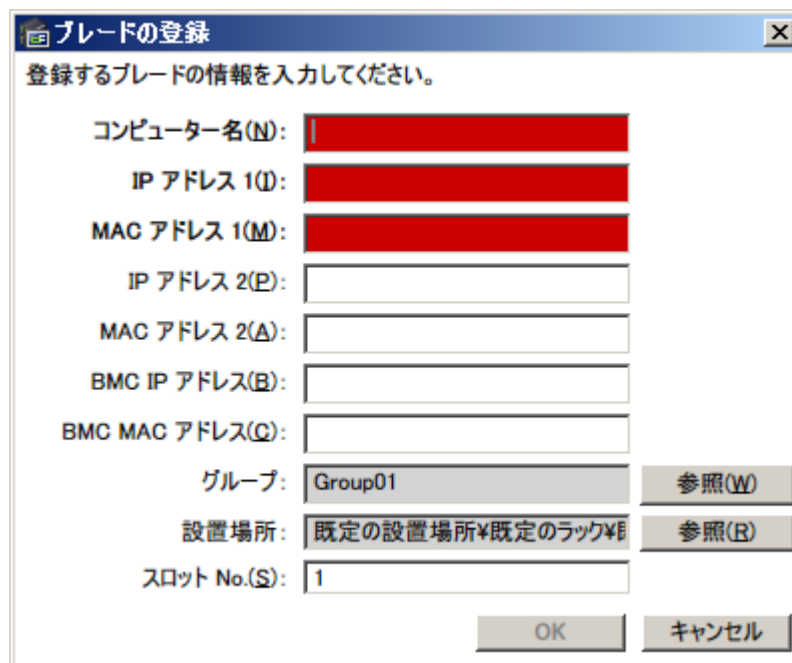
(ブレードに「ConsoleDA Agent」または「ConsoleDA Agent For Server」をインストールしておく自動的に登録されますので、この操作は不要になります。また、CSVファイルによる一括登録もできます(2-4 CSVファイルのインポート。))

1. 「グループ」または「シャーシ」を右クリックして、メニューから「新規作成」→「ブレード」を選択してください。



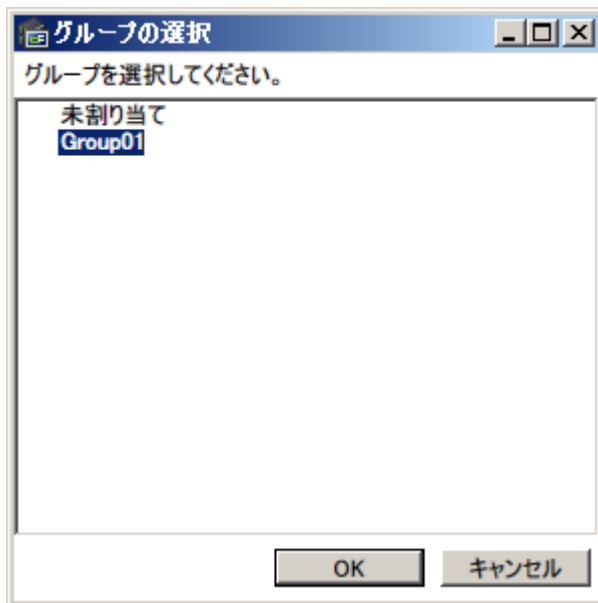
2. 選択すると、「ブレードの登録」画面が次のように表示されます。各入力欄に必要な情報を入力してください。

(入力欄が赤色の項目は入力必須です。)

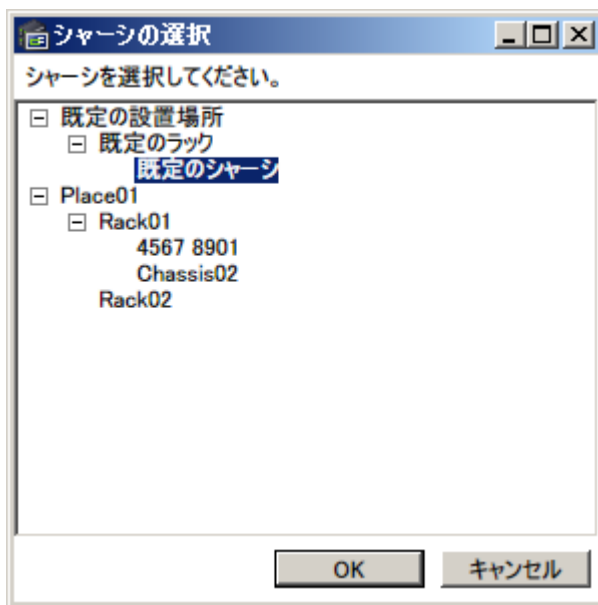


コンピューター名(N):	<input type="text"/>
IP アドレス 1(I):	<input type="text"/>
MAC アドレス 1(M):	<input type="text"/>
IP アドレス 2(P):	<input type="text"/>
MAC アドレス 2(A):	<input type="text"/>
BMC IP アドレス(B):	<input type="text"/>
BMC MAC アドレス(Q):	<input type="text"/>
グループ:	Group01 <input type="button" value="参照(W)"/>
設置場所:	既定の設置場所¥既定のラック¥ <input type="button" value="参照(R)"/>
スロット No.(S):	1
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

3. 作成中のブレードの登録グループを変更する場合は、グループの「参照」ボタンをクリックし、一覧から登録したいグループを選択し、「OK」ボタンをクリックして設定を反映してください。



4. 作成中のブレードの登録設置場所の変更は設置場所の「参照」ボタンをクリックし、一覧から登録したいシャーシを選択し、「OK」ボタンをクリックして設定を反映してください。



5. 入力必須項目（「PC 名」、「IP アドレス 1」、「MAC アドレス 1」）の設定が完了すると「登録」ボタンが有効になりますので、「登録」ボタンをクリックして登録を完了してください。

6. 登録が完了すると、登録したブレードが次のように表示されます。

名前	電源状態	CALL ランプ	STATUS ランプ	IP アドレス 1	MAC
CBnuova1	停止	消灯	消灯	192.168.0.101	19216...

<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> FLORA bd500 X7 以降のモデルではスロット番号が自動設定されます。ただし、ブレードをシャーシに取り付けた直後は表示されるスロット番号が正しくない場合があります。その場合、ブレードを一度再起動するか、休止状態に移行するとスロット番号が正しく表示されます。 FLORA bd500 X7 以降のモデルでは、スロット No.を手動設定できません。手動設定を行っても、電源状態が変わると自動で上書き設定されます。 「コンピューター名」には、半角英数字および「-」（ハイフン）以外の文字は使用しないでください。 「コンピューター名」にはアルファベットの太文字・小文字が使用できますが、ConsoleDA 内部の処理では太文字・小文字が区別されません。 同じコンピューター名、または太文字・小文字のみの差異しかないコンピューター名を持つブレードがないようにしてください。 IP アドレスの各値には、0 から始まる表記を使用しないでください。 (例. 誤:192.168.002.010 正:192.168.2.10)
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> モデルバージョン番号は自動設定されます。 未設定の IP アドレス, MAC アドレス, スロット No.の値はそれぞれ 255.255.255.255, FFFFFFFF, 255 になります。 BMC IP アドレス・BMC MAC アドレスが未設定の場合、代替アドレスとして IP アドレス 1・MAC アドレス 1 が用いられます。
<p>制限</p>	<ul style="list-style-type: none"> ConsoleDA Manager をインストールしているサーバブレード自身の情報を登録すると、モデルバージョン番号およびスロット No.は自動設定されません。この場合、モデルバージョン番号は 999999999(不明)のままになりますが、スロット No.は手動設定が可能です。

3 運用管理

3-1 状態・情報の表示

3-1-1 アイテム情報表示

3-1-1-1 状態表示

・登録されているブレードの状態は「グループ別」または「設置場所別」に一覧表示されます。

名前	電源状態	CALL ランプ	STATUS ランプ	IP アドレス 1	MAC アドレス 1	IP アドレス 2	MAC アドレス 2	BM
CBnuova2	稼働	消灯	消灯	192.168.0.102	192168000102	255.255.255.255	FFFFFFFFFFFF	192

カラム列数	カラム列名	内容
①	名前	アイテム名
②	種別	アイテムの種類（設置場所・ラック・シャーシ・ブレード・グループ）
③	電源状態	電源状態 (起動処理中・稼働・停止処理中・停止・休止処理中・休止・復帰処理中・不明)
④	モデル バージョン	ブレードのモデルバージョン番号
⑤	IP アドレス 1	LAN1 に割り当てた IP アドレス
⑥	MAC アドレス 1	LAN1 の MAC アドレス
⑦	CALL ランプ	CALL ランプの点灯状態
⑧	STATUS ランプ	STATUS ランプの点灯状態
⑨	BMC IP アドレス	BMC に割り当てた IP アドレス
⑩	BMC MAC アドレス	BMC の MAC アドレス
⑪	IP アドレス 2	LAN2 に割り当てた IP アドレス
⑫	MAC アドレス 2	LAN2 の MAC アドレス
⑬	グループ	ブレードが登録されているグループ
⑭	設置場所	ブレードが設置されている設置場所
⑮	ラック	ブレードが格納されているラック
⑯	シャーシ	ブレードがインストールされているシャーシ
⑰	スロット No	ブレードがインストールされているシャーシのスロット番号
⑱	最終更新	ブレードの情報が最後に更新された日付
⑲	最終配信	省電力スケジュールが最後に配信された日付
⑳	Agent バージョン	ブレードにインストールされている ConsoleDA Agent のバージョン

ブレードのモデルとモデルバージョン番号の対応は次の通りです。

モデル	番号
FLORA bd100 X6	0000100410
FLORA bd500 X7	0000100510
FLORA gd500 X7	0000100511
FLORA bd500 X8	0000100613
FLORA bd500 X9	0000100713
FLORA gd500 X9	0000100714
HA8000-bd/BD10 X1	0000100610～0000100612
HA8000-bd/BD10 X2	0000100710～0000100712 0000100720～0000100729
モデル不明	9999999999

また、一覧画面のブレードの行は、状態により背景色が変わります。状態が重なった場合は、原則として優先順位の高い色になります。

色	優先順位	ステータス
赤	1	異常状態 (STATUS ランプ点滅状態)
黄	2	電源状態 不明 (ネットワーク切断等によりブレードの電源情報が得られない状態)
白	3	通常状態

名前	電源状態	CALL ランプ	STATUS ランプ	IP アドレス 1	MAC アドレス 1
Group02					
CBnuova1	不明	消灯	消灯	192.168.0.101	192168000101
CBnuova2	停止	消灯	点滅 (3Hz)	192.168.0.102	192168000102

注意	
	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク接続不良の状態から STATUS ランプが点滅状態になった場合は、STATUS ランプの情報が得られないため、表示は黄色のままとなります。このように表示が優先順位通りにならない場合もありますので、ご注意ください。 表示されるブレードの「電源状態」や CALL ランプ、STATUS ランプの状態は実機とは異なることがあります。「F5」キーや「更新」ボタンなどで最新の状態を取得してください。 ブレードが LAN に接続されていない状態で電源操作などを行った場合、「ConsoleDA UI」で表示される「電源状態」表示は正しくない場合があります。 ブレードの再起動中は、ブレードの「電源状態」は「停止処理中」と表示されます。 ブレードの BIOS セットアップ画面またはブートデバイス選択画面の表示中は、ブレードの「電源状態」は「起動処理中」または「停止処理中」と表示されます。 ブレードのサービス「ConsoleDA Agent」を停止した時、およびブレードから ConsoleDA Agent をアンインストールした時は、ブレードの「電源状態」は「停止処理中」と表示されます。ConsoleDA Agent For Server についても同様です。

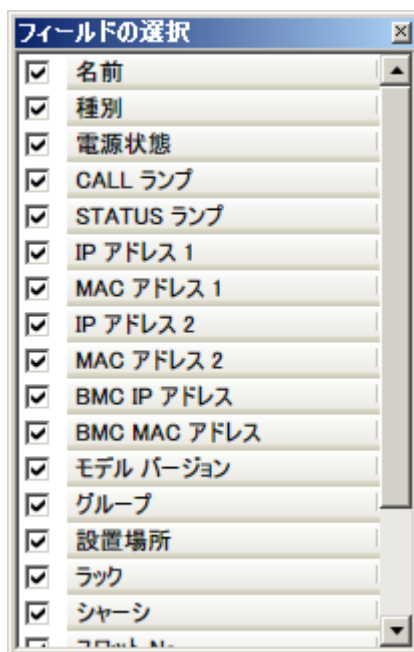
3-1-1-2 表示列の選択

・表示させる列を選択するには次のように操作します。

1. 管理コンソール画面の、次の図の赤枠部分のボタンをクリックしてください。



2. 表示させたい項目にはチェックを入れ、非表示にさせたい項目はチェックを外して、[×]ボタンをクリックしてください。

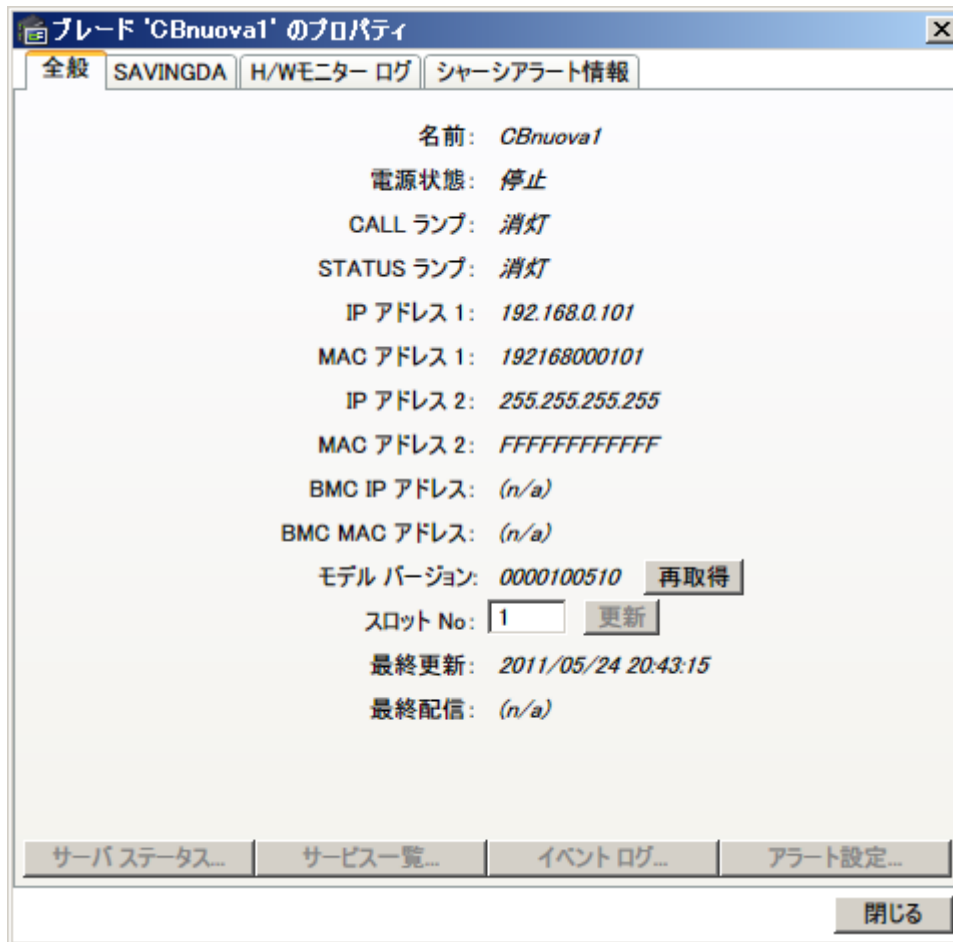


<p>制限</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「フィールドの選択」画面における表示列の並び順は固定です。 ・「フィールドの選択」画面において表示列のドラッグを行おうとするとマウスポインターが変化しますが、ドラッグ&ドロップによる操作はできません。
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各表示列は、列のヘッダー部分の区切り線をドラッグして表示幅を変更したり、列のヘッダー部分を別の列のヘッダーの区切りにドラッグ&ドロップすることにより並び順を変更したりすることができます。

3-1-2 ブレード情報表示

・ブレードの各種情報を見るには次のように操作します。

1. ブレードを選択して、右クリックメニューから「プロパティ」を選択してください。
2. ブレードの状態やネットワーク情報などが次のように表示されます。



3. モデルバージョン番号・スロット No.・シャーシ名情報をブレードから取得し、更新することができます。更新する場合は、「再取得」ボタンをクリックしてください。
4. FLORA bd100 X6 では、スロット No.を変更することができます。変更する場合は、変更する番号を入力して「更新」ボタンをクリックしてください。

補足	<ul style="list-style-type: none">・ FLORA bd100 X6 では、スロット No.およびシャーシ名情報をブレードから取得することができません。モデルバージョン番号のみ取得することができます。・ FLORA bd500 X7 以降のモデルでは、スロット No.を変更できません。手動設定を行っても、電源状態が変わるか、上記のブレード情報取得操作を行うと自動で上書き設定されます。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3-1-3 ConsoleDA の構成表示

・ConsoleDAの構成を見るには次のように操作します。

1. 管理コンソール画面の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 接続先の設定画面が開き、構成情報が表示されます。



3-1-4 ブレードの省電力設定表示

・ブレードに設定されている省電力設定を確認するには次のように操作します。

(※この機能は、ブレードに SAVINGDA Pro がインストールされている場合に有効です。また、サーバブレードでは本機能はご使用できません。)

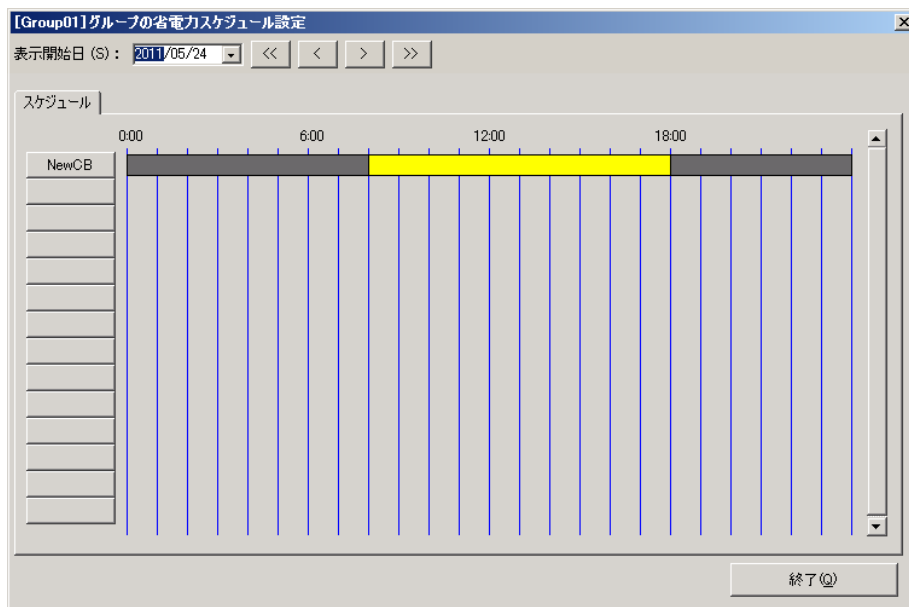
3-1-4-1 省電力設定の一覧表示

・1つのグループに登録されているブレードの省電力設定を一覧で表示するには次のように操作します。

1. グループのプロパティを表示し、「SAVINGDA」タブを選択してください。
2. 次の画面の「ブレードの省電力設定 表示」をクリックしてください。



3. 選択しているグループに登録されているブレードの省電力設定が次の画面のように表示されます。



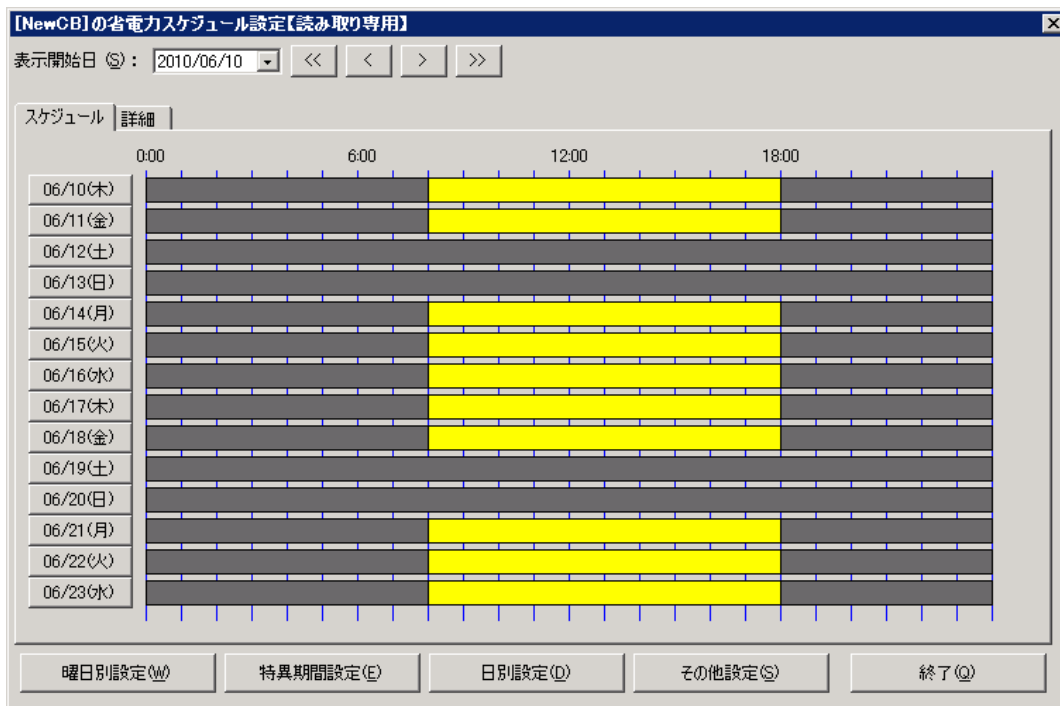
3-1-4-2 省電力設定の個別表示

・各ブレードの詳細な省電力設定を表示するには次のように操作します。

1. ブレードのプロパティを表示し、「SAVINGDA」タブを選択してください。
2. 「省電力スケジュール」の「スケジュールを表示」ボタンをクリックしてください。



3. ブレードの省電力設定が次の画面のように表示されます。



4. 「曜日別設定」、「特異期間設定」、「日別設定」以外の設定情報を見るには「その他設定」をクリックしてください。
 (「ファイルを保存」ボタンをクリックすると、「その他設定」情報ファイルを出力することができます。)

5. 「SAVINGDA」タブの「ピーク時消費電力抑止設定を表示」ボタンをクリックすると、「ピーク時消費電力抑止設定」が表示されます。
 (「ファイルを保存」ボタンをクリックすると、「ピーク時消費電力抑止設定」情報ファイルを出力することができます。)

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・省電力設定の個別表示は読み取りのみで、設定変更はできません。 ・「未割り当て」グループでは、「省電力設定の一覧表示」を行うことができません。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・「ピーク時消費電力抑止設定」の設定については、「3-3-3 ピーク時消費電力抑止設定」を参照してください。 ・「曜日別設定」・「特異期間設定」・「日別設定」・「その他設定」の設定については、「3-3-2 スケジュール設定」を参照してください。 ・各設定画面について、「SAVINGDA Pro 取扱説明書」も併せて参照してください。

3-2 情報の編集

3-2-1 グループ・設置場所・ブレードの移動

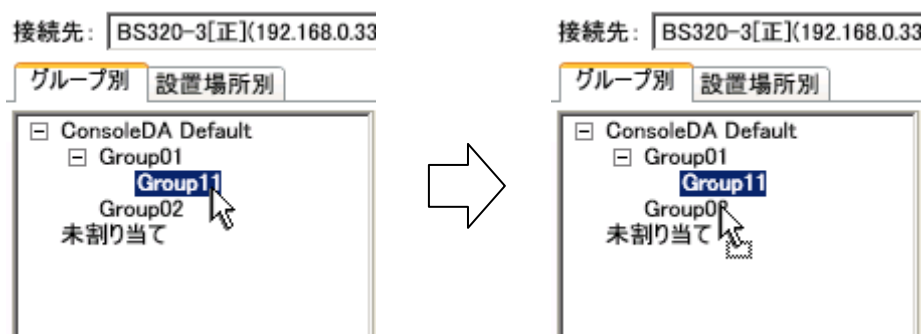
・ドラッグ&ドロップやカット&ペーストでグループ・設置場所・ブレードの移動ができます。

3-2-1-1 ドラッグ&ドロップ

・ドラッグ&ドロップでグループを他の場所に移動するには、次のように操作します。

(設置場所・ラック・シャーシ・ブレードについても同様の操作で移動ができます。)

1. 「グループ別」タブ選択し、移動する「グループ」と移動先である「グループ」を展開してください。
2. 移動する「グループ」をドラッグしたまま、移動先の「グループ」に持っていきます。
3. マウスポインターの右下に「□」が表示されたらドロップしてください。



4. 移動先の「グループ」に移動した「グループ」が表示されていれば、完了です。

制限	<ul style="list-style-type: none">・ デフォルトである「ConsoleDA Default」と「未割り当て」は移動することができません。・ 下位のグループから上位グループへの移動はできますが、上位グループから下位グループへの移動はできません。(他の下位グループに他の上位グループを移動することは可能)・ 「未割り当て」にグループを移動することはできません。・ デフォルトである「設置場所の管理」、「既定の設置場所」、「既定のラック」、「既定のシャーシ」または、「作成した設置場所」は移動できません。・ 設置場所の移動ができるのは「シャーシ」→「ラック」、「ラック」→「設置場所」のみとなっています。・ ブレードを「ConsoleDA Default」に移動することはできません。・ ブレードを設置場所・ラックに移動することはできません。
注意	<ul style="list-style-type: none">・ 移動するグループのサブグループとブレードも一緒に移動します。・ 移動する「ラック」・「シャーシ」に登録されているブレードも一緒に移動します。・ FLORA bd500 X7 以降のモデルでは、コントロールボックスにシャーシ ID が設定されている場合、自動でシャーシが作成されブレードが配置されます。ブレードを再び「既定のシャーシ」へ手動で移動しても、電源状態の変更時に自動で元のシャーシに配置されます。(シャーシ ID が設定されていない場合、および ConsoleDA Manager をインストールしたサーバブレードの場合は、自動配置は行われません。) シャーシ ID の設定については、各ブレードの「ユーザーズガイド」を参照してください。

3-2-1-2 カット&ペースト

・カット&ペーストでグループを他の場所に移動するには次のように操作します。

(設置場所・ラック・シャーシ・ブレードについても同様の操作で移動ができます。)

1. 「グループ別」画面を開き、次の画面のように移動する「グループ」と移動先である「グループ」を展開してください。
2. 移動する「グループ」の上で右クリックし、「切り取り」を選択してください。
3. 移動先の「グループ」または「詳細表示領域」で右クリックし、「貼り付け」を選択してください。



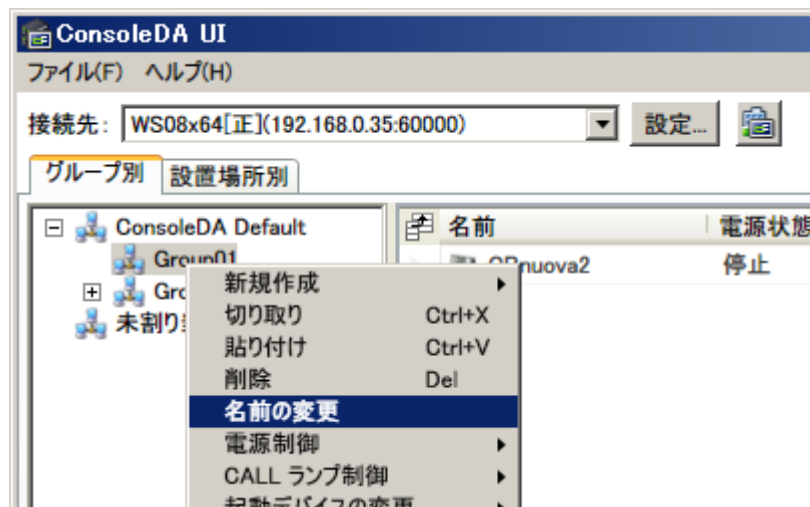
4. 移動先の「グループ」に移動した「グループ」が表示されていれば、完了です。

<p>制限</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ デフォルトである「ConsoleDA Default」と「未割り当て」は移動することができません。 ・ 下位のグループから上位グループへの移動はできますが、上位グループから下位グループへの移動はできません。(他の下位グループに他の上位グループを移動することは可能) ・ デフォルトである「設置場所の管理」, 「既定の設置場所」, 「既定のラック」, 「既定のシャーシ」または、「作成した設置場所」は移動できません。 ・ 「未割り当て」にグループを移動することはできません。 ・ 設置場所の移動ができるのは「シャーシ」→「ラック」、 「ラック」→「設置場所」のみとなっています。 ・ ブレードを「ConsoleDA Default」に移動することはできません。 ・ ブレードを設置場所・ラックに移動することはできません。
<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動するグループのサブグループとブレードも一緒に移動します。 ・ 移動する「ラック」・「シャーシ」に登録されているブレードも一緒に移動します。 ・ FLORA bd500 X7 以降のモデルでは、コントロールボックスにシャーシ ID が設定されている場合、自動でシャーシが作成されブレードが配置されます。ブレードを再び「既定のシャーシ」へ手動で移動しても、電源状態の変更時に自動で元のシャーシに配置されます。(シャーシ ID が設定されていない場合、および ConsoleDA Manager をインストールしたサーバブレードの場合は、自動配置は行われません。) シャーシ ID の設定については、各モデルの「ユーザーズガイド」を参照してください。
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボードの「Ctrl + X」(切り取り)と「Ctrl + V」(貼り付け)でも操作可能です。

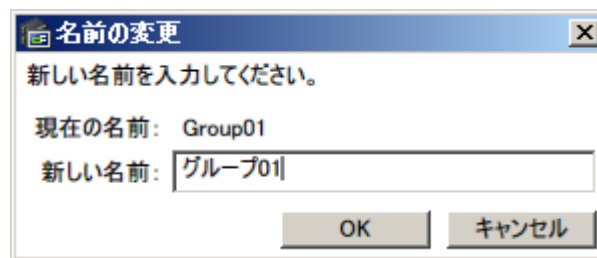
3-2-2 名前の変更

・グループ・設置場所・ラック・シャーシの名前を変更するには次のように操作します。

1. 名前を変更したいアイテムの上で右クリックし、「名前の変更」を選択してください。



2. 名前を入力後「OK」ボタンをクリックしてください。



3. 以上で名前の変更は完了です。

制限	<ul style="list-style-type: none">・グループ名として設定できる文字数は最大、半角 32 文字、全角 16 文字までです。・設置場所名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 8 文字までです。・ラック・シャーシ名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 10 文字までです。
注意	<ul style="list-style-type: none">・ブレードの名前は変更できません。

3-2-3 削除

3-2-3-1 グループ・設置場所・ラック・シャーシ

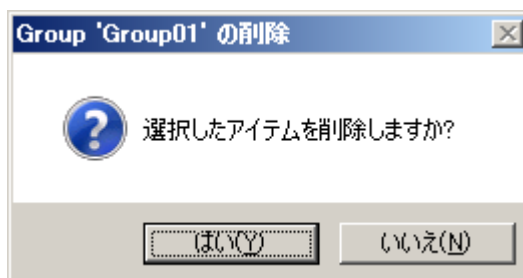
・グループを削除するには次のように操作します。

(設置場所・ラック・シャーシについても同様の操作で削除ができます。)

1. 削除したいグループの上で右クリックし、「削除」を選択してください。



2. 確認画面が次のように表示されるので、「はい」を選択してください。



3. 削除操作を行ったグループが表示されていないなければ完了です。

制限	<ul style="list-style-type: none">・「ConsoleDA Default」・「未割り当て」は削除することができません。・「設置場所の管理」・「既定の設置場所」・「既定のラック」・「既定のシャーシ」は削除することができません。
注意	<ul style="list-style-type: none">・削除する「グループ」にブレードが登録されている場合、「未割り当て」に移動されます。・削除する「グループ」に「サブグループ」がある場合、「サブグループ」も含めて「グループ」が削除されます。・削除する「シャーシ」にブレードが登録されている場合、「既定のシャーシ」に移動されます。・削除する「ラック」に「シャーシ」が登録されている場合、「既定のラック」に移動されます。・削除する「設置場所」に「ラック」が登録されている場合、「既定の設置場所」に移動されます。・「グループ別」からブレードの削除を行った場合、ブレードは「未割り当て」に移動されます。・「設置場所別」からブレードの削除を行った場合、ブレードは「既定のシャーシ」に移動されます。

3-2-3-2 ブレードの削除

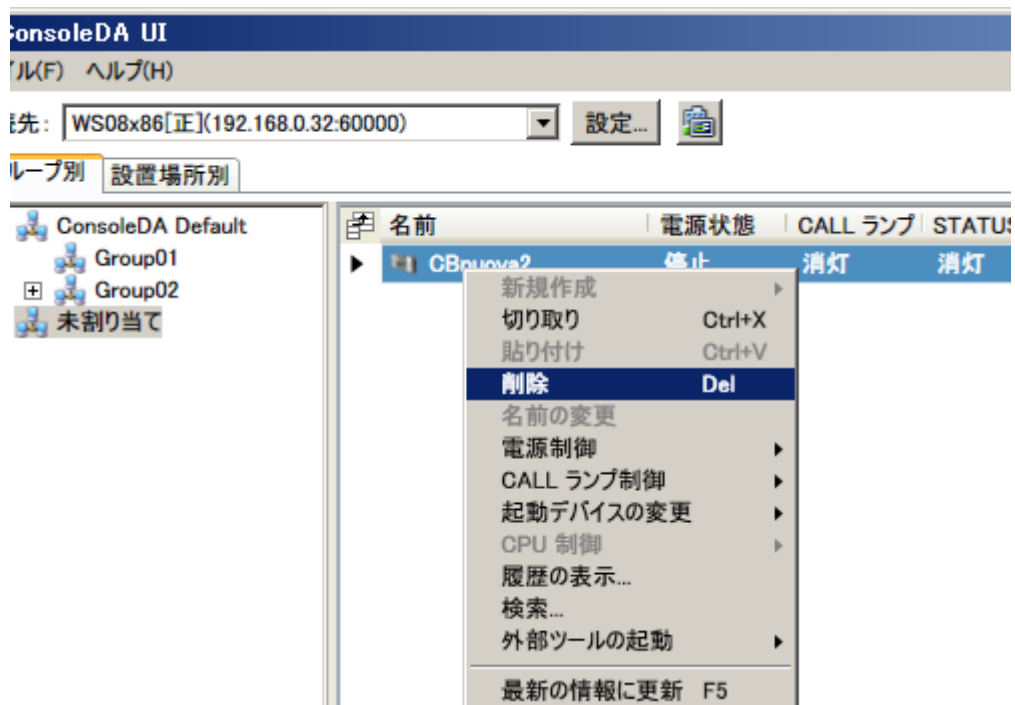
・ブレードを削除するには次のように操作します。

1. 「グループ別」タブをクリックしてください。

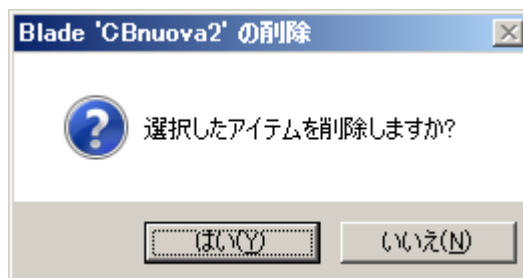


2. 削除したいブレードを「未割り当て」グループに移動してください。

3. 削除したいブレードの上で右クリックし、「削除」を選択してください。



4. 確認画面が次のように表示されるので、「はい」を選択してください。



5. 削除操作を行ったブレードが表示されていない場合は完了です。

注意	<ul style="list-style-type: none">・「グループ別」において「未割り当て」に登録されているブレードのみ、情報を消去することができます。それ以外のユーザー定義のグループに登録されているブレードの削除を行った場合、ブレードは「未割り当て」に移動され、残ります。・「設置場所別」からブレードの削除を行った場合、ブレードは「既定のシャーシ」に移動され、残ります。「既定のシャーシ」に登録されているブレードは、削除をすることができません。
補足	<ul style="list-style-type: none">・ブレードの移動方法については、3-2-1 グループ・設置場所・ブレードの移動を参照してください。

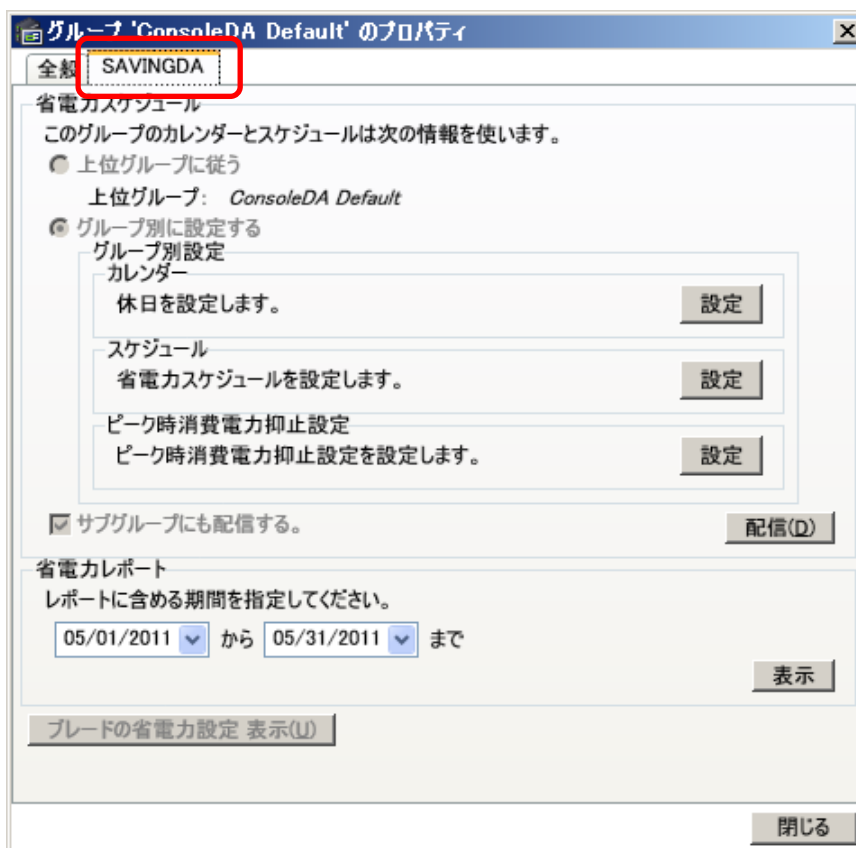
3-3 省電力設定の操作・設定

(※この機能は、クライアントブレードに SAVINGDA Pro がインストールされている場合に有効です。また、サーバブレードでは本機能はご使用できません。)

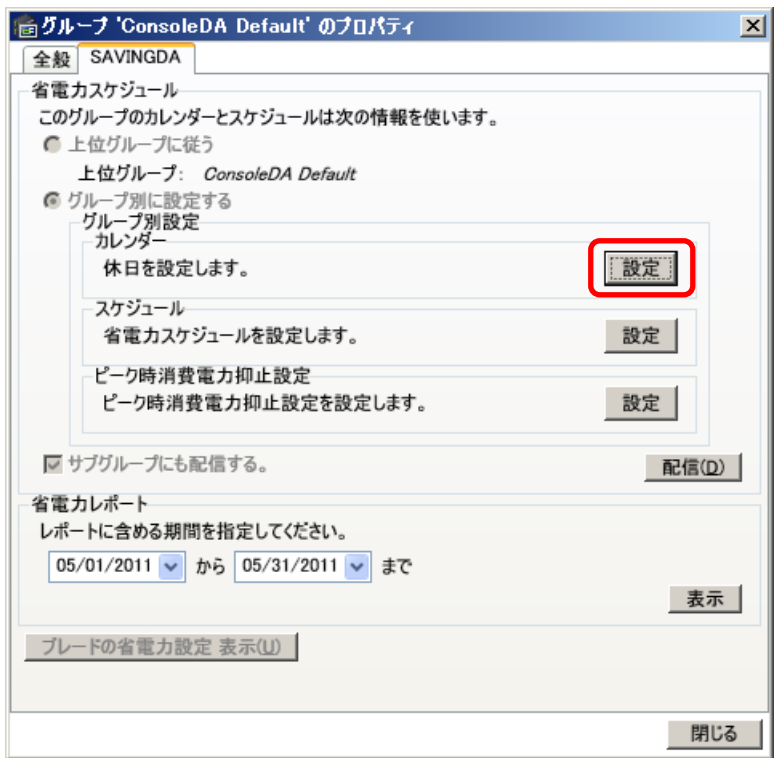
3-3-1 カレンダーと休日スケジュール設定

- ・カレンダー設定では、祝祭日などの不定期な休日のスケジュールを設定します。
土日など、定期的な休日はスケジュール設定の「[3-3-2-1 曜日別設定](#)」で行ってください。
- ・「カレンダー設定」で省電力設定をするには次のように操作します。

1. 「ConsoleDA Default のプロパティ」または、「各グループのプロパティ」で「SAVINGDA」タブをクリックしてください。

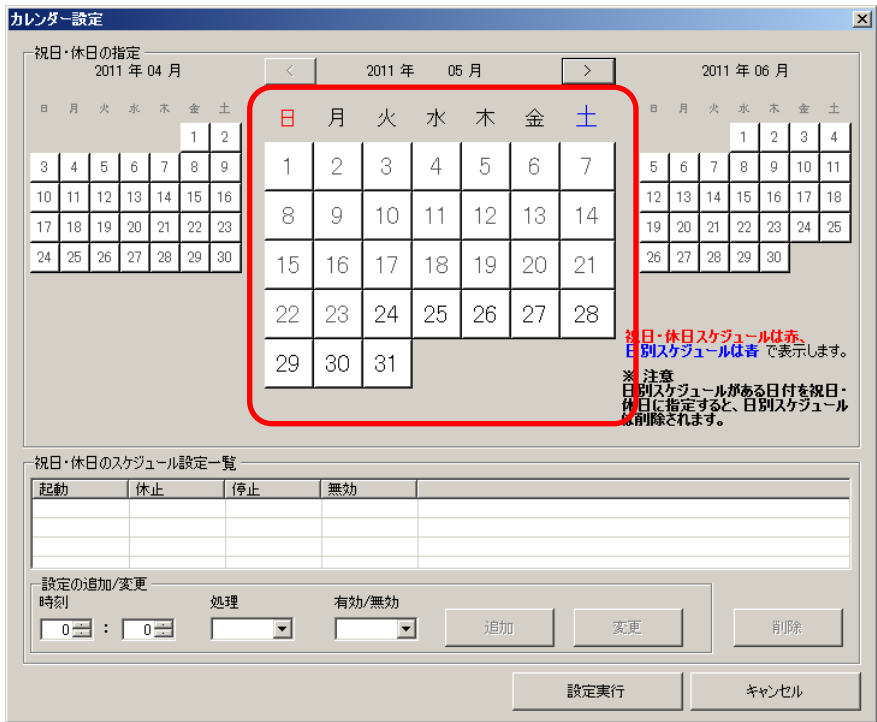


2. 「カレンダー」の「設定」ボタンをクリックしてください。



補足	<ul style="list-style-type: none"> ・「ConsoleDA Default」以外のグループは初期状態では「ConsoleDA Default」のスケジュールを使用します。 ・グループ別にカレンダーを設定する場合には上記の画面で「グループ別に設定する」にチェックを入れてください。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 祝日・休日に当てはまる日付を選択してください。



4. 指定した祝日・休日のスケジュールを「設定の追加/変更」にて設定してください。



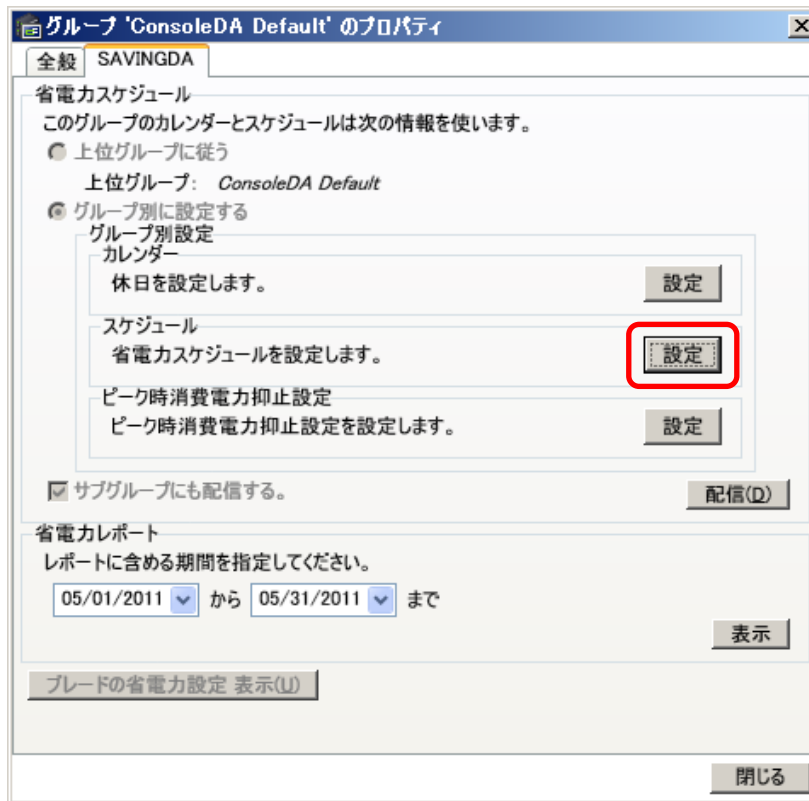
5. すべて入力が完了していることを確認し、「設定実行」ボタンをクリックしてください。

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・「未割り当て」グループには、グループ独自の「カレンダー」、「スケジュール」は割り当てられません。 ・日別スケジュールがある日付を祝日・休日に指定すると、日別スケジュールは削除されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・既に設定しているスケジュールを変更する場合はそのスケジュールを選択し、「変更」ボタンをクリックしてください。(削除についても同様です。) ・スケジュール設定一覧に「停止」列がありますが、「停止」機能を使うことはできません。 ・過去の日付に対して設定を行うことはできません。

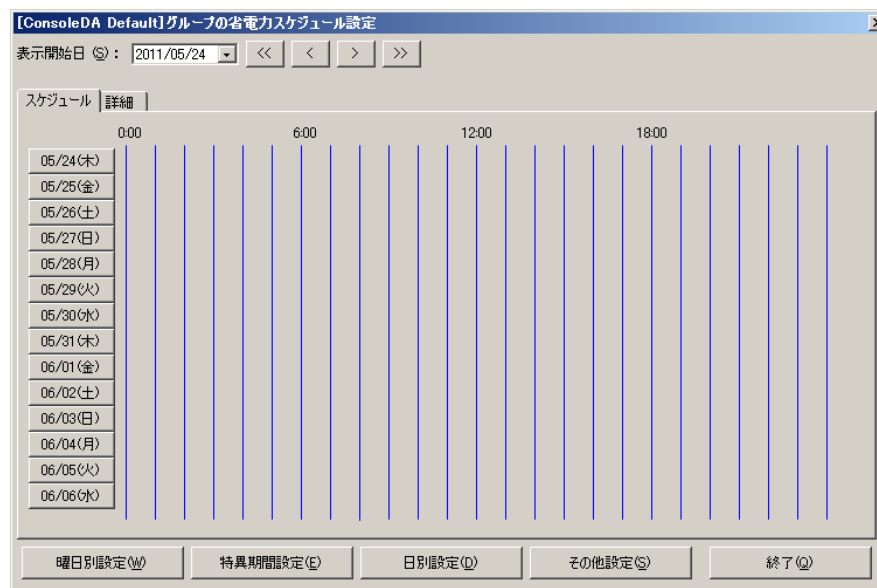
3-3-2 スケジュール設定

・省電力スケジュールを設定するには次のように操作します。

1. 「ConsoleDA Default のプロパティ」または、「各グループのプロパティ」で「SAVINGDA」タブをクリックしてください。
2. 「スケジュール」の「設定」ボタンをクリックしてください。



3. 「グループの省電力スケジュール設定」画面が次のように表示されます。



補足

・この「グループの省電力スケジュール設定」画面は初期状態の画面です。

3-3-2-1 曜日別設定

・起動/休止時刻を曜日別(月・火・水・木・金・土・日)で設定します。

曜日	起動	休止	停止	無効
月	08:30	17:20		有効
火	08:30	17:20		有効
水	08:30	17:20		有効
木	08:30	17:20		有効
金	08:30	17:20		有効

設定の追加/変更

曜日: 金 時刻: 8 : 30 処理: 起動 有効/無効: 有効

追加 変更 削除

設定実行 キャンセル

・平日(月曜～金曜)の8:30に起動し17:20に休止するように設定するには次のように操作します。

1. 「グループの省電力スケジュール設定」画面から「曜日別設定」を選択してください。「曜日別設定」画面が表示されます。
2. [設定追加/変更]欄の各項目を設定します。[曜日]を「月」、[時刻]を「8:30」、[処理]を「起動」、[有効/無効]を「有効」に設定してください。
3. 「追加」ボタンをクリックすると、[設定追加/変更]欄の内容が曜日別設定一覧に追加されます。
4. [時刻]を 17:20、[処理]を休止に設定して「追加」ボタンをクリックしてください。
5. [曜日]を「火」、「水」、「木」、「金」に変更し、それぞれ 2.～4. の操作を行ってください。
6. 追加した設定を変更する場合は、曜日別設定一覧表の変更したい行を選択してください。すると選択した設定内容が[設定追加/変更]欄の各ボックスに反映されます。変更したい項目の値を編集し「変更」ボタンをクリックすると、曜日別設定一覧表の選択していた行の設定内容が変更されます。
7. 一覧にあるスケジュールを削除する場合は、曜日別設定一覧表の削除したい行を選択して「削除」ボタンをクリックしてください。すると曜日別設定一覧表の選択していた行の設定内容が削除されます。複数行を選択した場合、選択した全ての設定が削除されます。
8. 最後に「設定実行」ボタンをクリックして、設定内容をスケジュールとして反映してください。

制限	・各曜日に登録できるスケジュールは2つまでです。
注意	<ul style="list-style-type: none"> ・設定の追加/変更を行う際、[設定追加/変更]欄に空白の項目があると処理が実行できません。 ・有効/無効の設定を「無効」にすると、無効なスケジュールとして登録されますので、通常は「有効」にしてください。 ・「設定実行」ボタンをクリックすることで設定が反映されますので、必ず設定を完了するときは「設定実行」ボタンをクリックしてください。
補足	・曜日別設定一覧に「停止」列がありますが、「停止」機能を使うことはできません。

3-3-2-2 日別設定

・起動/休止時刻を日別(年月日単位)で設定します。

・特定の日に対し 8:50 に起動し 17:20 に休止するよう設定するには次のように操作します。

1. 「グループの省電力スケジュール設定」画面から「日別設定」を選択するか、設定したい日のボタンをクリックしてください。日別設定画面が表示されます。
2. 起動時間を追加します。[設定追加/変更]欄の各項目を設定し、「追加」ボタンをクリックしてください。日別設定一覧および、設定内容一覧(曜日別、特異期間設定と組みあわせた設定内容)に設定内容が追加されます。
3. 同様に休止時間を追加します。[設定追加/変更]欄の各項目を設定し、「追加」ボタンをクリックしてください。
4. 追加した設定を変更する場合は、日別設定一覧表の変更したい行を選択してください。すると選択した設定内容が[設定追加/変更]欄の各ボックスに反映されます。変更したい項目の値を編集し「変更」ボタンをクリックすると、日別設定一覧表の選択していた行の設定内容が変更されます。
5. 一覧にあるスケジュールを削除する場合は、日別設定一覧表の削除したい行を選択して「削除」ボタンをクリックしてください。すると日別設定一覧表の選択していた行の設定内容が削除されます。複数行を選択した場合、選択した全ての設定が削除されます。
6. 最後に「設定実行」ボタンをクリックして、設定内容を起動/休止スケジュールとして反映してください。

制限	・各日に登録できるスケジュールは2 つまでです。
注意	<ul style="list-style-type: none"> ・設定の追加/変更を行う際、[設定追加/変更]欄に空白の項目があると処理が実行できません。 ・曜日別設定を行ってから日別設定を行ってください。日別設定のみの場合、最後のスケジュール以降は通常時間帯として扱われます。 ・祝日・休日スケジュールがある日付を指定すると、祝日・休日スケジュールは削除されます。
補足	・一覧に「停止」列がありますが、「停止」機能を使うことはできません。

3-3-2-3 特異期間設定

・開始日時と終了日時を指定し、その期間が起動状態または休止状態となるように設定します。

開始日	開始時刻	終了日	終了時刻	状態	終了状態
2011/08/07	17:20	2011/08/17	08:30	休止	起動

・2011/08/07 の 17:20 から 2011/08/17 の 8:30 までの期間を休止状態にするには次のように操作します。

1. 「グループの省電力スケジュール設定」画面から、「特異期間設定」を選択してください。特異期間設定画面が表示されます。
2. [設定追加/変更]欄の各項目を下図のように選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。

設定追加/変更
開始日: 2011/08/07, 開始時刻: 17:20, 終了日: 2011/08/17, 終了時刻: 8:30, 開始後状態: 休止, 終了後状態: 起動
追加, 変更

3. 追加した設定を変更する場合は、特異期間設定一覧表の変更したい行を選択してください。すると選択した設定内容が[設定追加/変更]欄の各ボックスに反映されます。変更したい項目の値を編集し「変更」ボタンをクリックすると、特異期間設定一覧表の選択していた行の設定内容が変更されます。
4. 一覧にあるスケジュールを削除する場合は、特異期間設定一覧表の削除したい行を選択して「削除」ボタンをクリックしてください。特異期間設定一覧表の選択していた行の設定内容が削除されます。複数行を選択した場合、選択した全ての設定が削除されます。
5. 最後に「設定実行」ボタンをクリックして、設定内容を起動/休止スケジュールとして反映してください。

注意	・設定の追加/変更を行う際、[設定追加/変更]欄に空白の項目があると処理が実行できません。
-----------	-----------------------------------------------

3-3-2-4 その他設定

・SAVINGDA Pro に関するオプション設定を行います。

- ・ 休止状態に入るまでのアイドル時間

「休止時間帯」と「通常時間帯」それぞれについて、休止状態に移行するアイドル時間（ユーザー無操作時間）を設定します。ユーザーが何も操作をしない状態で設定した時間が経過すると、クライアントブレードが休止状態に移行します。

- ・ PC 復帰時に起動するプログラム

クライアントブレードが休止状態から復帰した直後にプログラムを起動させることができます。

「変更」ボタンをクリックして、起動させたいプログラムの実行ファイルを指定してください。

「削除」ボタンをクリックすると、設定を解除します。

プログラムの起動時にコマンドラインを指定する場合は、「プログラムに指定するコマンドライン」に入力してください。

- ・ ホットキー設定

「今すぐ休止状態」画面を呼び出すホットキーを設定することができます。ボックスをクリックして、設定したいホットキーの組み合わせでキーを押してください。設定することができるのは次の組み合わせです。

- ・Ctrl キー＋Alt キー＋アルファベットキー
- ・Ctrl キー＋Shift キー＋アルファベットキー
- ・Shift キー＋Alt キー＋アルファベットキー
- ・Ctrl キー＋Shift キー＋Alt キー＋アルファベットキー

ホットキー設定を解除する場合は、ボックス上で Delete キーを押してください。

- ・ 「今すぐ休止状態」後の復帰時間

「今すぐ休止状態」画面の「帰宅」以外の選択項目について、それぞれ復帰時間を設定することができます。

注意	<ul style="list-style-type: none">・ 各設定を行った後は、必ず「設定実行」ボタンをクリックしてください。・ 「休止状態に入るまでのアイドル時間」の設定は、コントロールパネルの「電源オプション」の設定とは独立しています。
補足	<ul style="list-style-type: none">・ 「今すぐ休止状態」画面については、SAVINGDA Pro のマニュアルを参照してください。

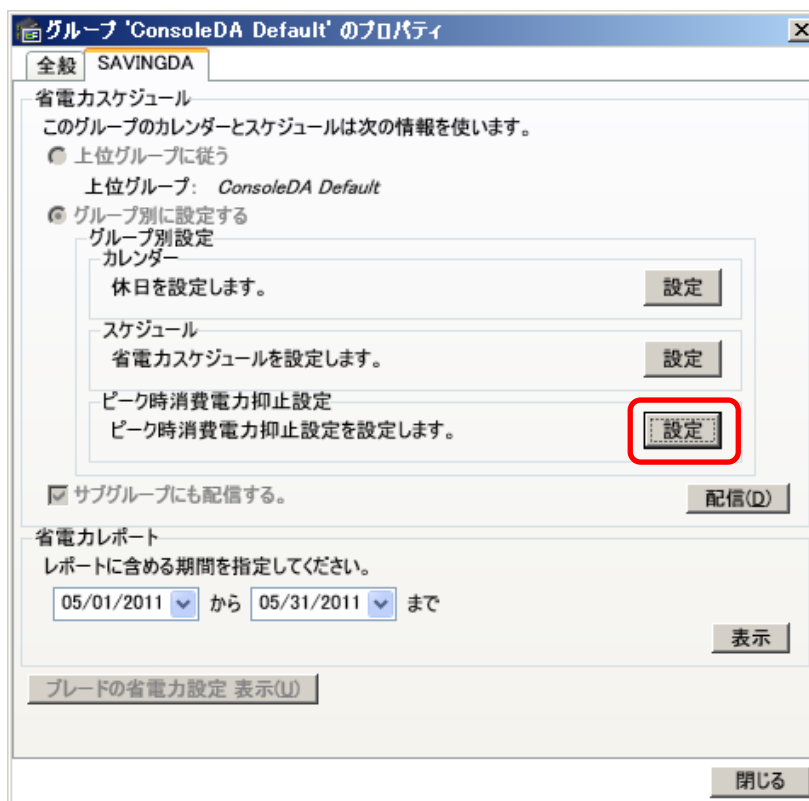
3-3-3 ピーク時消費電力抑止設定

(※この機能は、クライアントブレードに SAVINGDA Pro 2.40 以降がインストールされている場合に有効です。)

電力の需要が集中する時間帯に、休止状態の利用や CPU 稼働率に上限を設けることで、クライアントブレードの消費電力が集中的に高まらないようにします。

・ピーク時消費電力抑止設定を行うには、次のように操作します。

1. 「ConsoleDA Default のプロパティ」または、「各グループのプロパティ」で「SAVINGDA」タブをクリックしてください。
2. 「ピーク時消費電力抑止設定」の「設定」ボタンをクリックしてください。



3. 「ピーク時消費電力抑止設定」画面が表示されます。各種設定を行ってください。

ピーク時消費電力抑止設定

ピーク時消費電力抑止設定を有効にする

期間 2011/07/01 ~ 2011/09/30

時間帯 11:00 ~ 16:00

休止状態を有効にする

モニタの電源を切る 5分

ハードディスクの電源を切る 10分

スタンバイ/休止状態 45分

CPU パフォーマンスの制限 制限:中

設定実行 キャンセル

- ・ ピーク時消費電力抑止設定を有効にする
「期間」および「時間帯」で指定した時間帯において、ピーク時消費電力抑止設定を有効にします。チェックを外して「OK」ボタンをクリックすると、設定は無効になります。
- ・ 休止状態を有効にする
無効にすると、ユーザー操作がない状態で「スタンバイ/休止状態」で指定した時間が経過した場合に、休止状態ではなくスタンバイ状態に移行します。有効にすると、休止状態に移行します。
- ・ モニタの電源を切る
ピーク時消費電力抑止期間中、ユーザー操作がない状態で指定した時間が経過すると、モニターをオフにします。
- ・ ハードディスクの電源を切る
ピーク時消費電力抑止期間中、ユーザー操作がない状態で指定した時間が経過すると、ハードディスクの電源をオフにします。
- ・ スタンバイ/休止状態
ピーク時消費電力抑止期間中、ユーザー操作がない状態で指定した時間が経過すると、「休止状態を有効にする」の設定によりスタンバイまたは休止状態に移行します。
- ・ CPU のパフォーマンス制限
ピーク時消費電力抑止期間中、CPU の稼働率に上限を設けます。制限が大きいほど上限が低くなります。

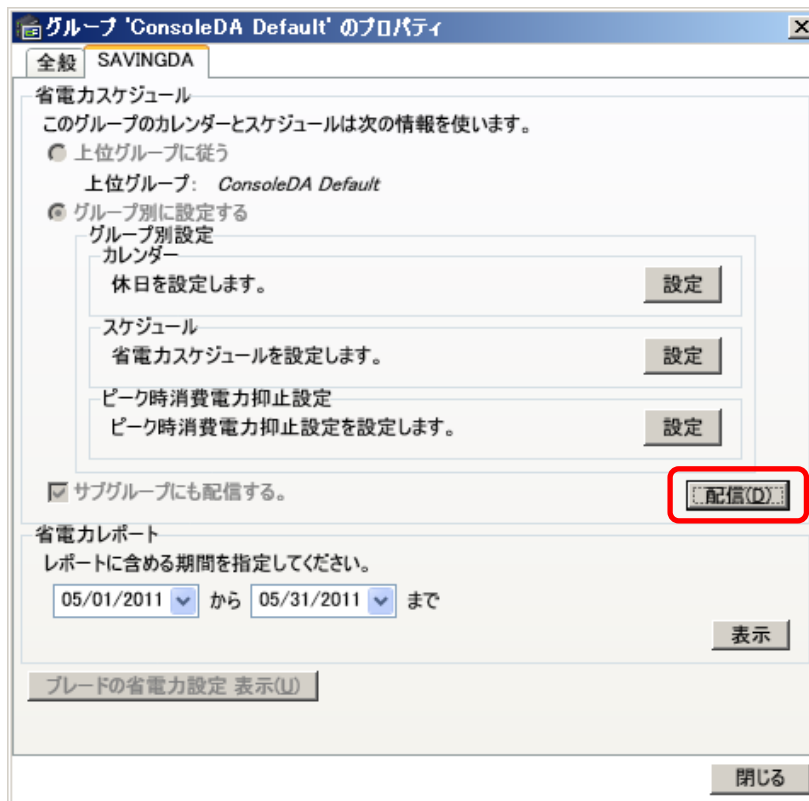
4. 全ての設定が完了していることを確認し、「設定実行」ボタンをクリックしてください。

注意	・ ユーザー操作がない状態で指定した時間が経過しても、動作しているアプリケーションなどの OS の状態により、スタンバイまたは休止状態に移行しない場合があります。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------

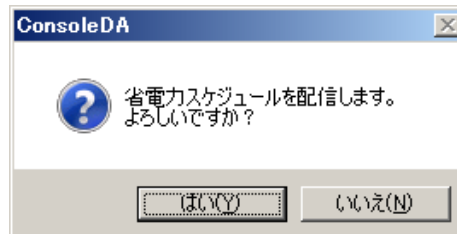
3-3-4 配信

・設定したスケジュールを各ブレードに配信するには次のように操作します。

1. 設定したスケジュールを各ブレードに配信する場合は「配信」ボタンをクリックしてください。



2. 確認ダイアログが次のように表示されるので、「はい」を選択してください。



3. 配信進行ダイアログが次のように表示され、配信が完了するとダイアログが消えます。



注意	<ul style="list-style-type: none"> 「サブグループにも配信する」がチェックされている場合、サブグループに属するクライアントブレードに対して省電力設定の配信を行います。この時、それぞれのサブグループの設定内容が配信されます。 「サブグループにも配信する」がチェックされていない場合、直下のクライアントブレードにのみ省電力設定を配信します。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 通信障害などで配信に失敗した場合、または配信時にブレードが稼働していなかった場合は、ブレード起動時に自動的に配信されます。 ここで配信した省電力設定を確認する方法については、「3-1-4 ブレードの省電力設定表示」を参照してください。

3-4 省電力効果レポートの表示

・省電力効果を確認するレポートを表示するには次のように操作します。

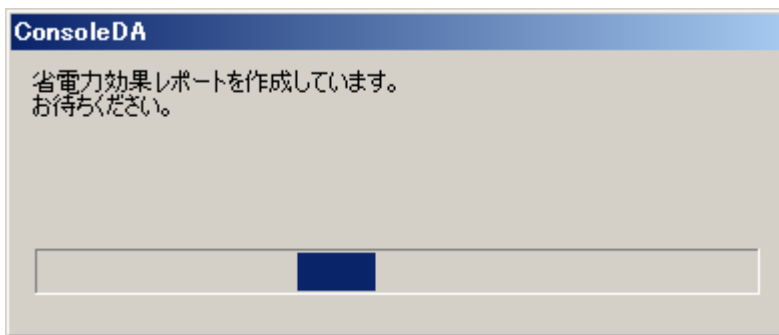
(※この機能は、ブレードに SAVINGDA Pro がインストールされている場合に有効です。また、サーバブレードでは本機能はご使用できません。)

3-4-1 グループごとの省電力効果レポート表示

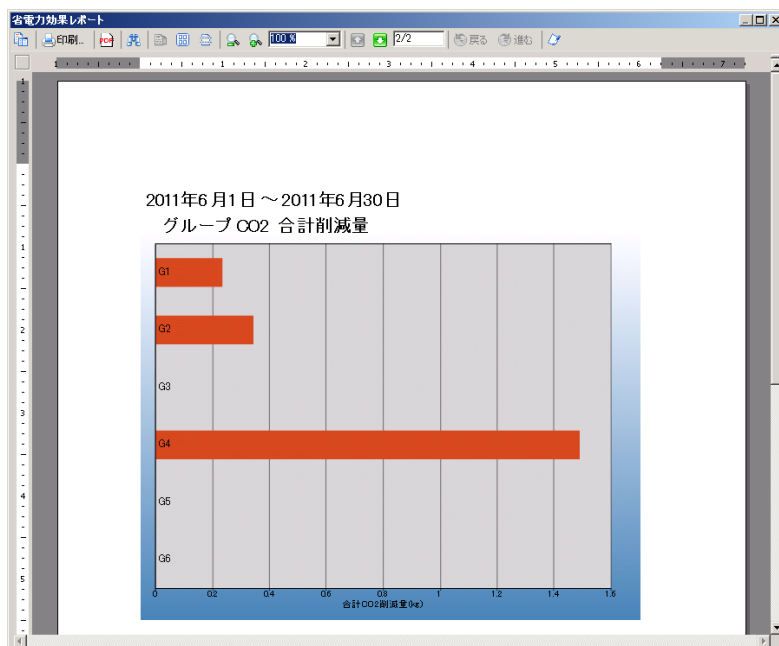
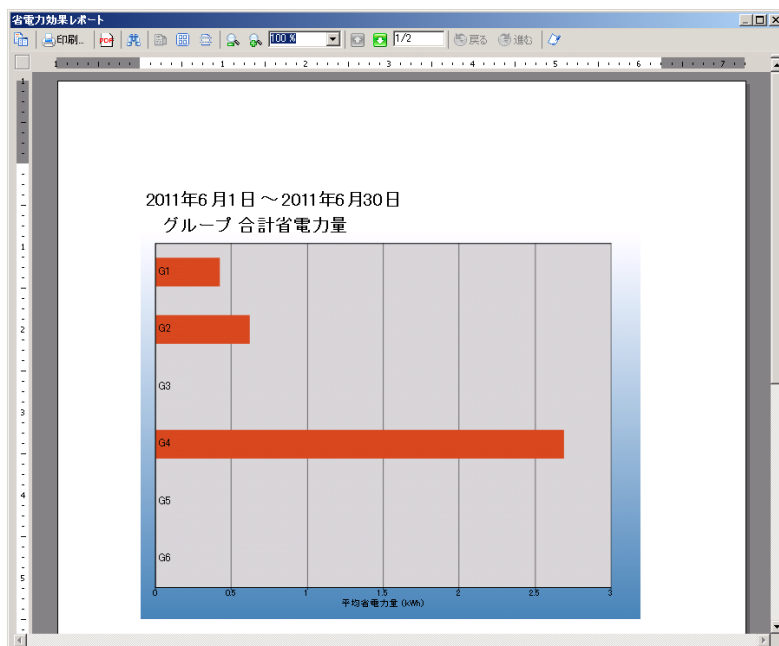
・グループに登録されているブレードの省電力効果レポートを表示するには次のように操作します。

1. 「ConsoleDA Default のプロパティ」または「各グループのプロパティ」を表示し、「SAVINGDA」タブを選択してください。
2. 省電力効果レポートを表示する期間を設定し、「表示」ボタンをクリックしてください。

3. 取得進行ダイアログが次のように表示されます。



4. 取得できると、次のような画面が表示されます。



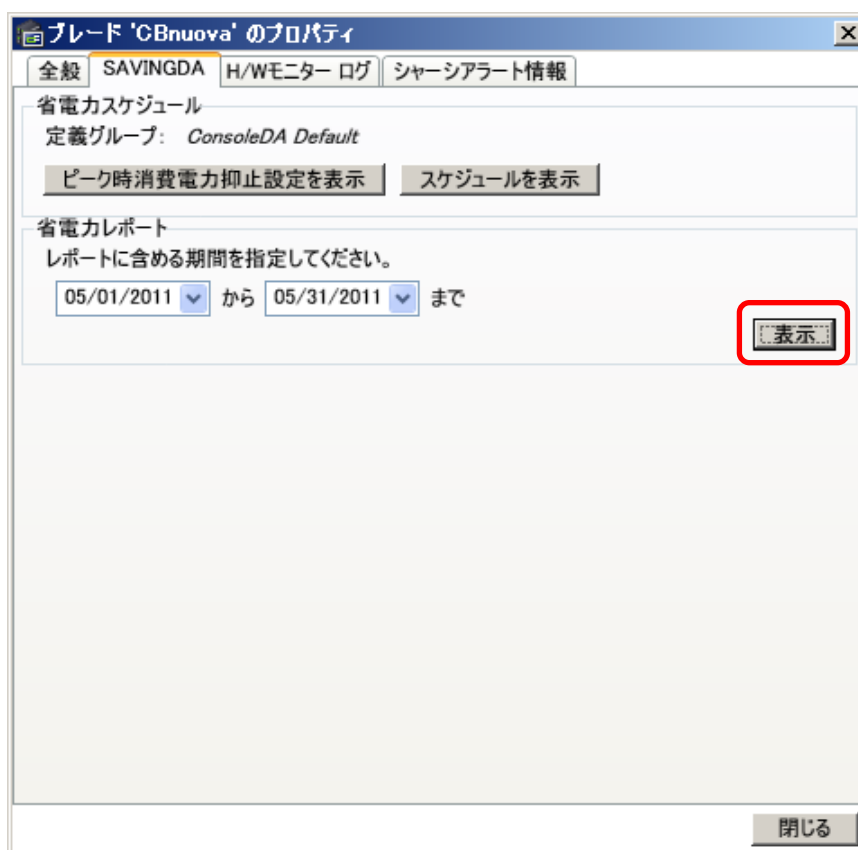
新しく作成したグループでも同様の操作で「省電力効果レポート」を表示します。

注意	<ul style="list-style-type: none">・省電力効果レポートを表示している日の省電力効果はレポートに反映されません。・稼働していないブレードについては最新の省電力効果が反映されません。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3-4-2 ブレードごとの省電力効果レポート表示

・各ブレードの省電力効果レポートを表示するには次のように操作します。

1. 「ブレードのプロパティ」を表示し、「SAVINGDA」タブを選択してください。
2. 省電力効果レポートを表示する期間を設定し、「表示」ボタンをクリックしてください。



3. 「省電力効果レポート」の画面については「[3-4-1 グループごとのレポート表示](#)」を参照してください。

3-5 ブレードの利用履歴表示

ブレードの動作履歴、およびユーザーの利用履歴をグラフと表を用いてレポート出力し、システムの稼働状況をまとめてとらえることができます。

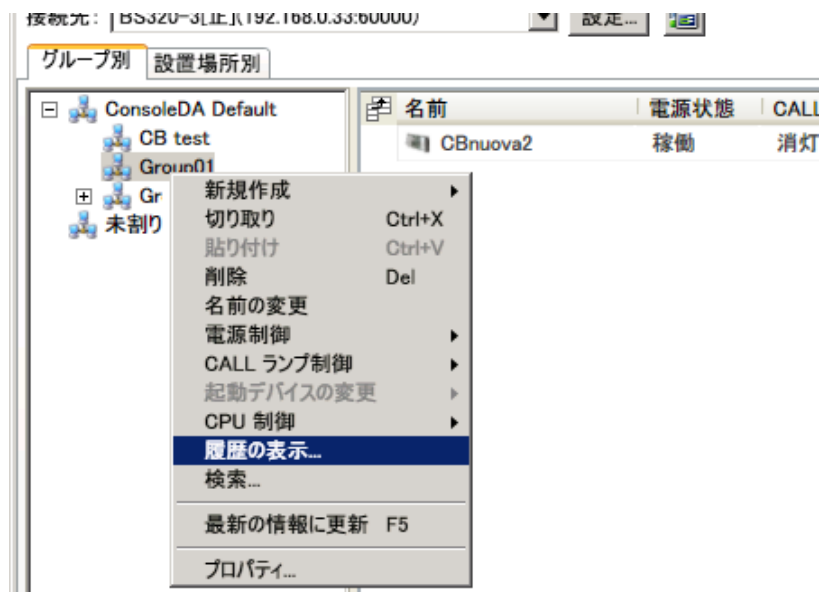
(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)

3-5-1 ブレードの接続履歴

・ブレードの接続履歴を表示するには、次のように操作します。

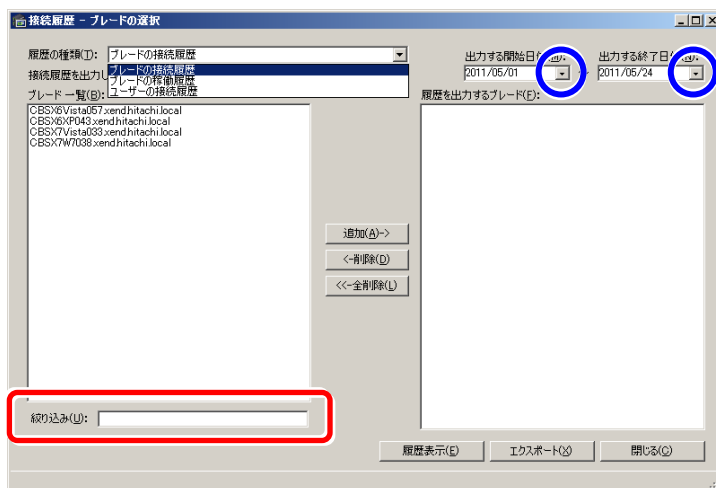
1. 「グループ」を右クリックし、「履歴の表示」を選択してください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

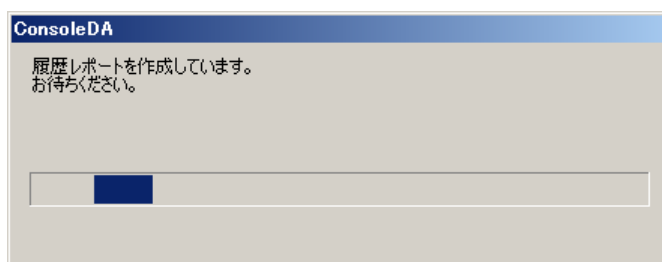


2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ブレードの接続履歴」を選択してください。

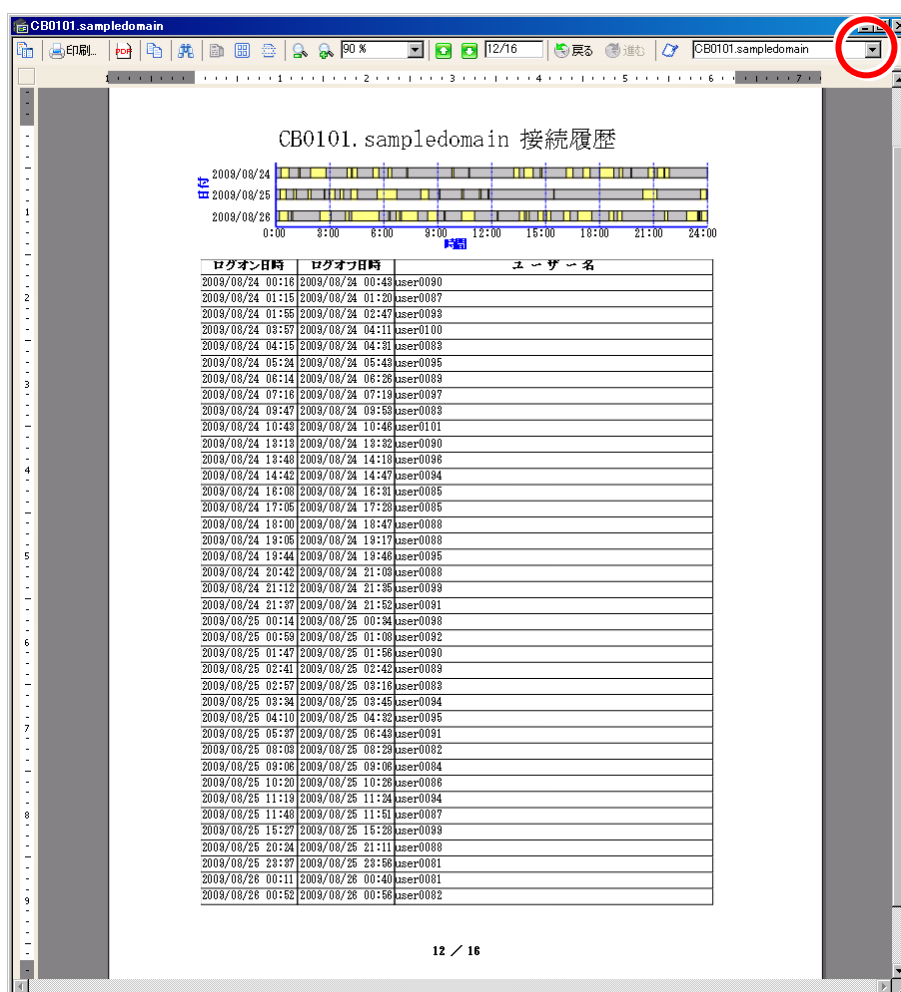
次に履歴を表示したいブレードおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレード名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「履歴表示」ボタンをクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ブレードの接続履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分はログオン状態、灰色部分はログオフ状態をそれぞれ示しています。ブレードを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてブレードを選択すると、表示を切り替えることができます。



注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を選択できる範囲は最大 2 年間 (731 日間) までです。 ・履歴を表示するブレードを選択できる数は最大 250 までです。 ・ユーザーがログオン中にブレードが休止状態やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・設置場所・ラック・シャーン・ブレードの右クリックメニューからも「履歴の表示」を行うことができます。 ・ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

3-5-2 ブレードの稼働履歴

・ブレードの稼働履歴を表示するには、次のように操作します。

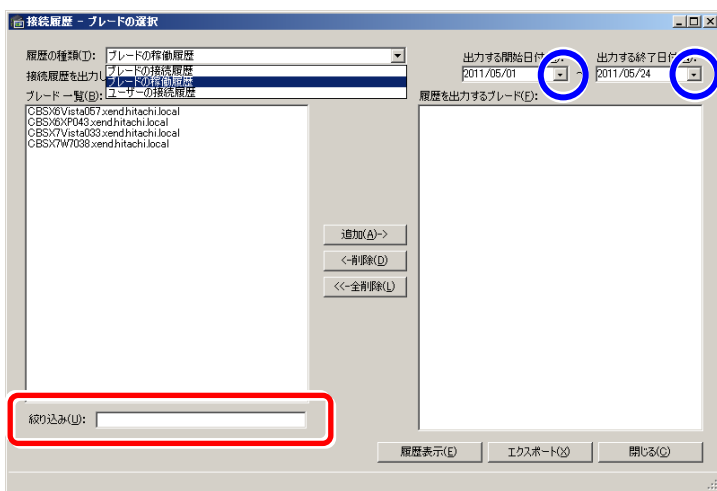
1. 「グループ」を右クリックし、「履歴の表示」を選択してください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

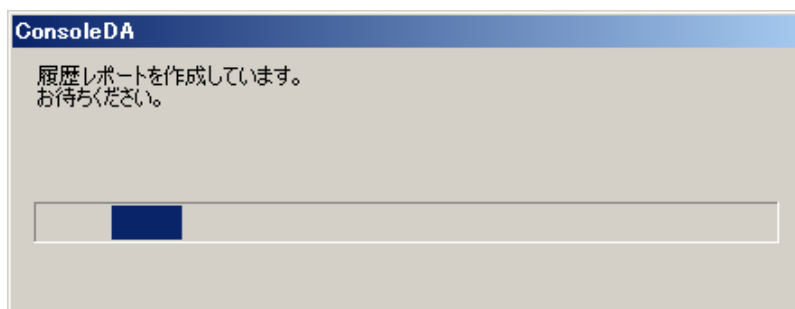


2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ブレードの稼働履歴」を選択してください。

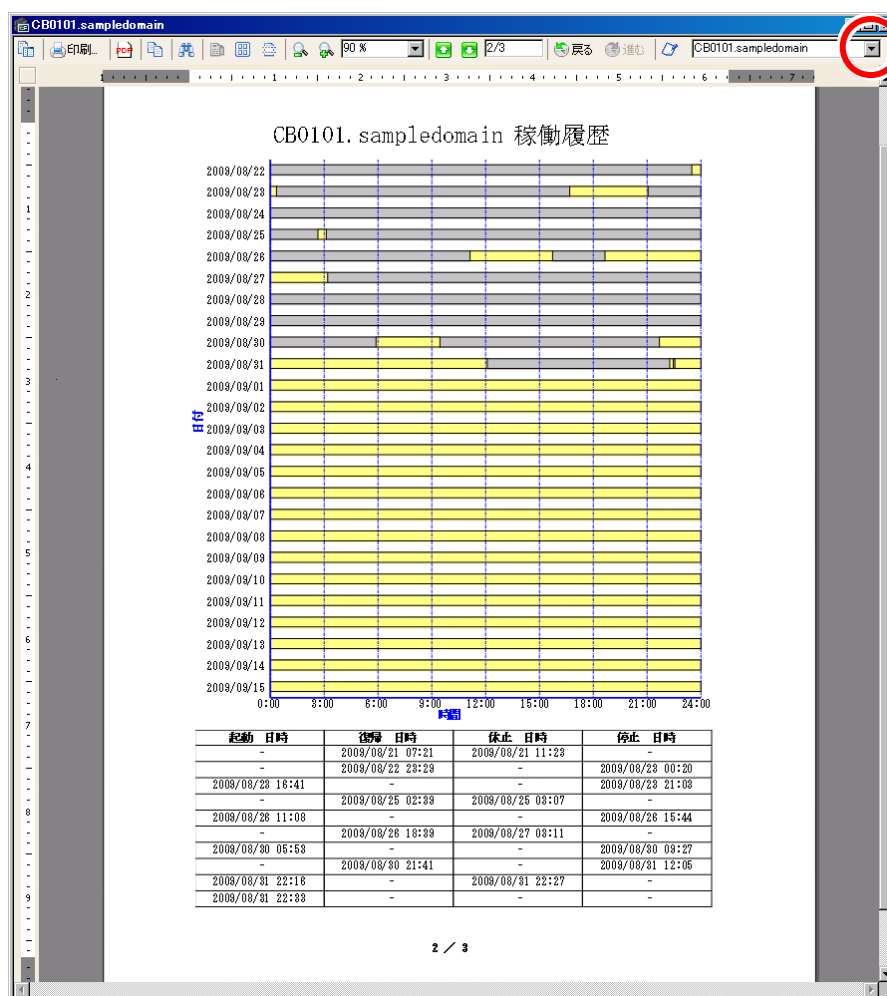
次に履歴を表示したいブレードおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレード名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了したら「履歴表示」をクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ブレードの稼働履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分は稼働状態、灰色部分は休止または停止状態をそれぞれ示しています。ブレードを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてブレードを選択すると、表示を切り替えることができます。



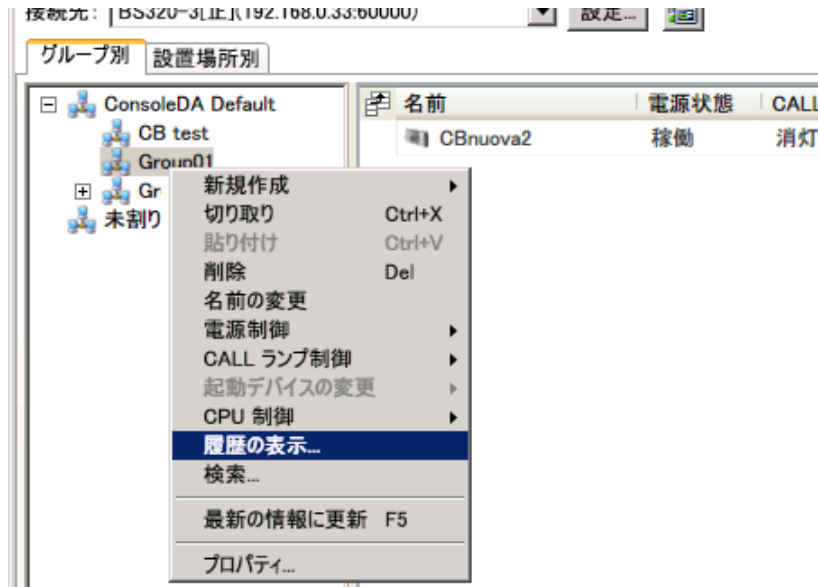
注意	<ul style="list-style-type: none"> 日付を選択できる範囲は最大2年間(731日間)までです。 履歴を表示するブレードを選択できる数は最大250までです。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所・ラック・シャーン・ブレードの右クリックメニューからも「履歴の表示」を行うことができます。 ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

3-5-3 ユーザーの接続履歴

・ユーザーの接続履歴を表示するには、次のように操作します。

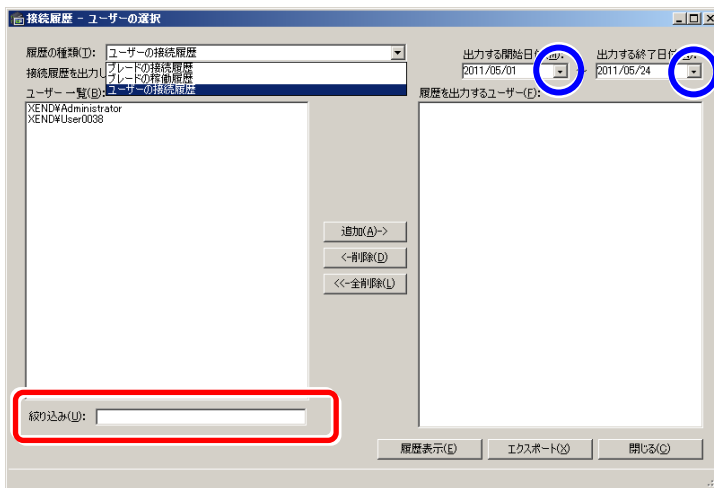
1. 「グループ」を右クリックし、「履歴の表示」を選択してください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

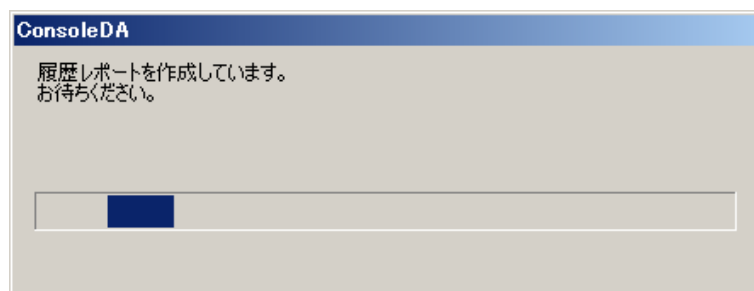


2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ユーザーの接続履歴」を選択してください。

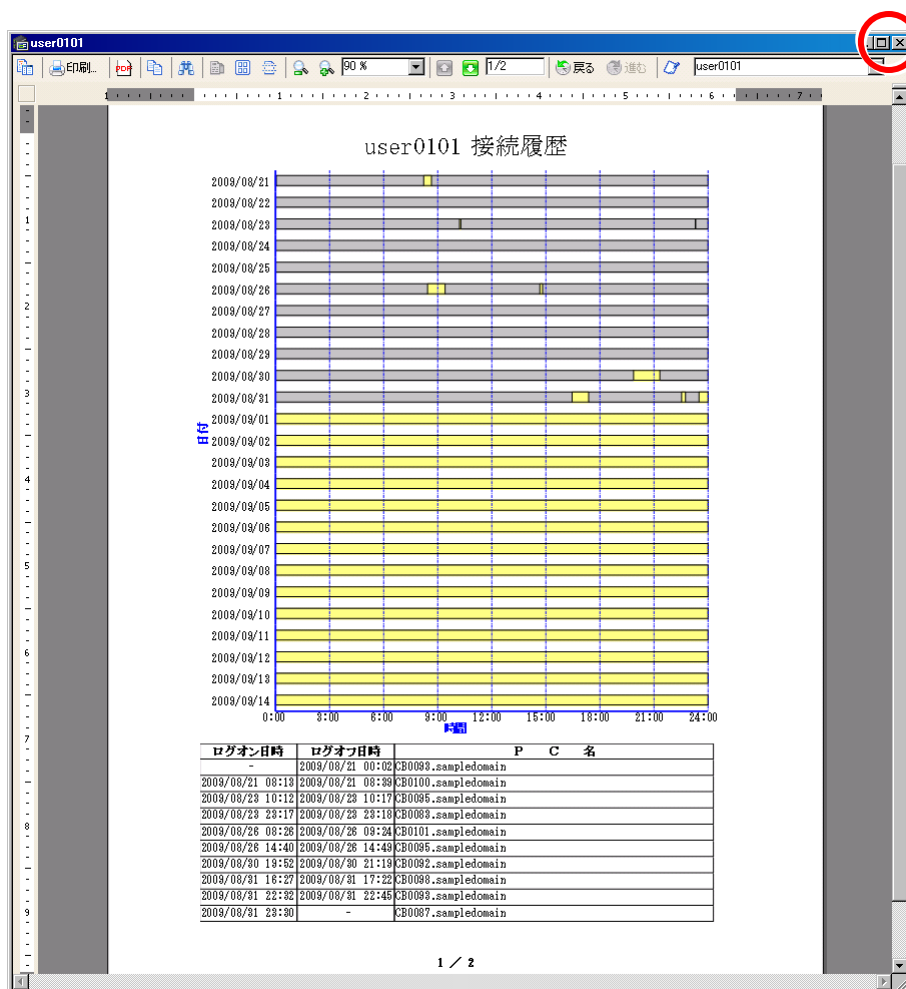
次に履歴を表示したいユーザーおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むユーザー名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼](青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「履歴表示」をクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ユーザーの接続履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分はログオン状態、灰色部分はログオフ状態をそれぞれ示しています。ユーザーを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてユーザーを選択すると、表示を切り替えることができます。



注意	<ul style="list-style-type: none"> • 日付を選択できる範囲は最大 2 年間 (731 日間) までです。 • 履歴を表示するユーザーを選択できる数は最大 250 までです。 • ユーザーがログオン中にブレードが休止状態やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> • 設置場所・ラック・シャーン・ブレードの右クリックメニューからも「履歴の表示」を行うことができます。 • ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

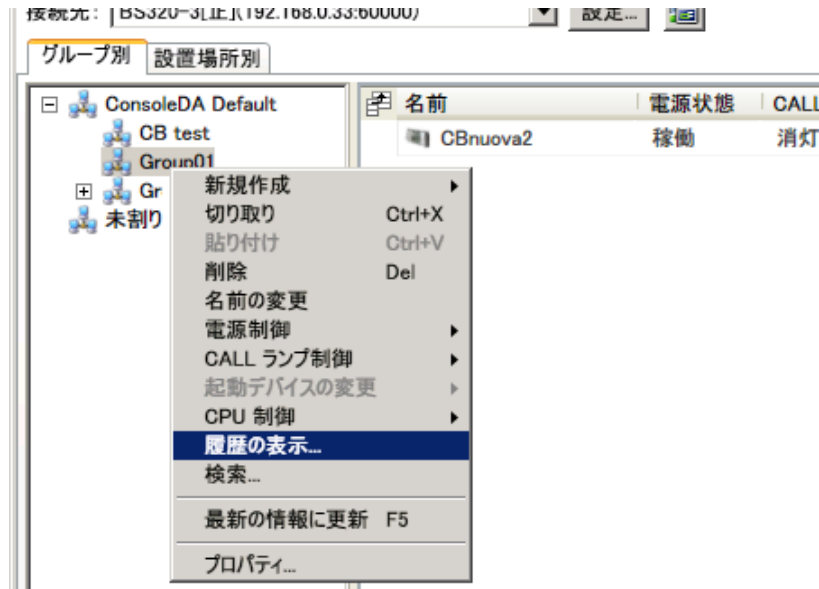
3-5-4 履歴データのエクスポート

ブレードまたはユーザー選択画面において「エクスポート」ボタンをクリックすると、ログオン・起動・停止などの履歴データを CSV 形式のファイルとして出力することができます。

・履歴データのエクスポートを行うには次のように操作します。

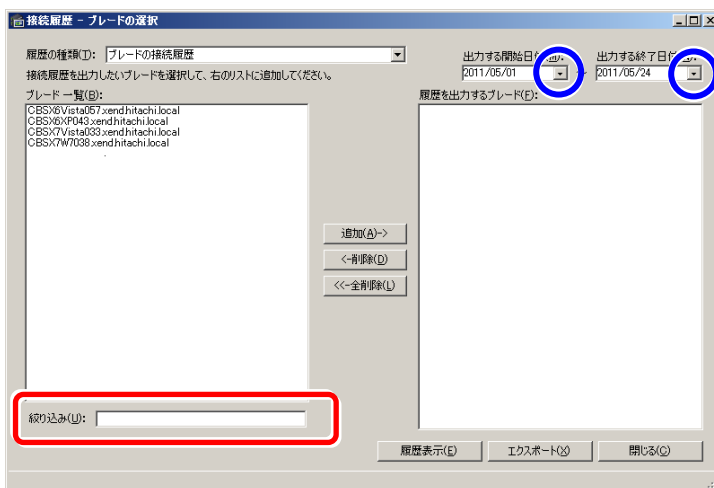
1. 「グループ」を右クリックし、「履歴の表示」を選択してください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

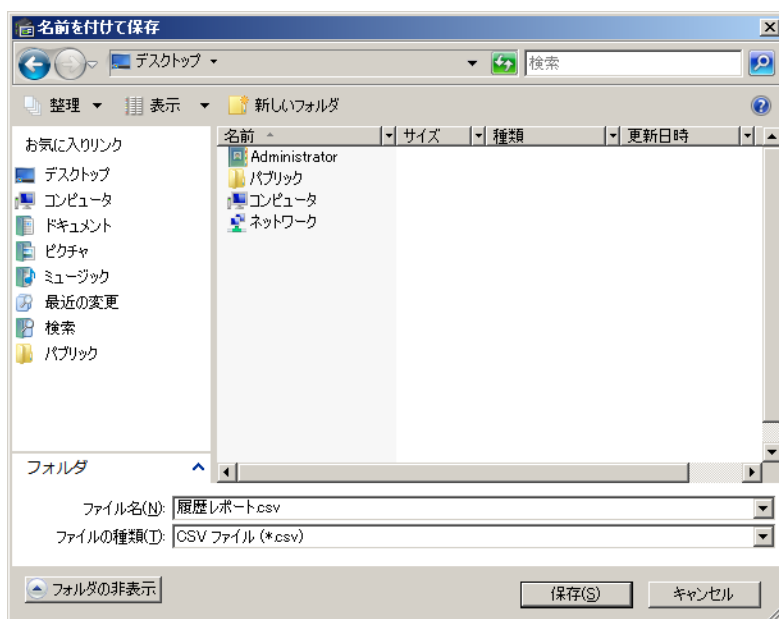


2. 選択画面が表示されましたら、エクスポートする履歴の種類を選択してください。

次に履歴データを出力したいブレードまたはユーザー、および期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレードまたはユーザー名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「エクスポート」をクリックしてください。



3. ファイルを出力する場所とファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックしてください。



以下、出力される CSV ファイルのフォーマット形式です。

```
REGIST_DATE, PC_NAME, USER_NAME, EVENT_ID, EVENT_NAME
2011/3/11 9:19:18, HITACHI16, HITACHI16¥Admin, 201, ログオン
2011/3/11 9:19:20, HITACHI16, HITACHI16¥Admin, 202, ログオフ
...
```

カラム列数	カラム名	説明
1	REGIST_DATE	イベントの日時
2	PC_NAME	ブレード名
3	USER_NAME	ユーザー名
4	EVENT_ID	イベント ID
5	EVENT_NAME	イベント ID に対応するイベント名 <ul style="list-style-type: none"> ・ ログオン ・ ログオフ ・ 起動 ・ 停止 ・ 休止 ・ 復帰

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を選択できる範囲は最大 2 年間 (731 日間) までです。 ・履歴を表示するブレードまたはユーザーを選択できる数は最大 250 までです。 ・ユーザーがログオン中にブレードが休止状態やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・設置場所・ラック・シャーシ・ブレードの右クリックメニューからも「履歴の表示」を行うことができます。

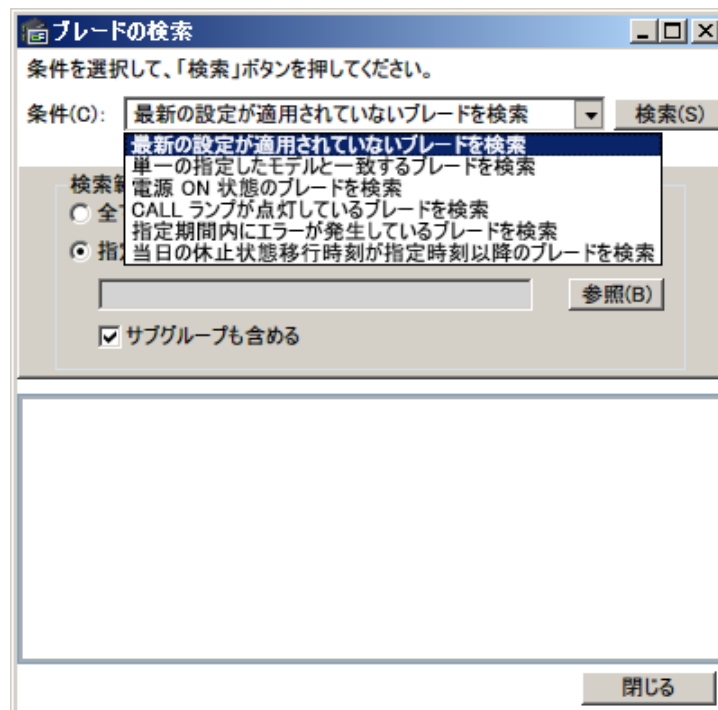
3-6 ブレードの検索

・ブレードを検索するには次のように操作します。

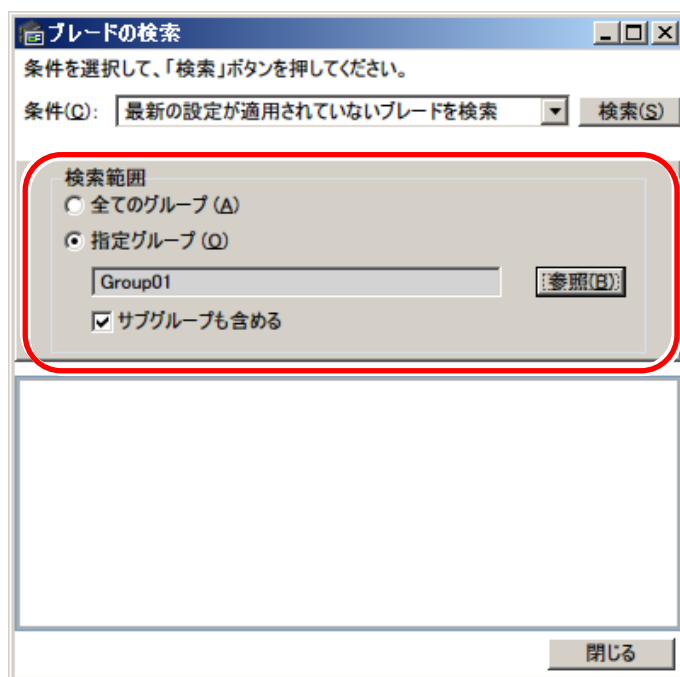
1. ブレードが登録されている「グループ」の上で右クリックし「検索」を選択してください。



2. ここでは例として、最新の設定が適用されていないブレードを検索します。検索するブレードの条件に「最新の設定が適用されていないブレードを検索」を選択してください。



3. 検索範囲を指定してください。



4. 上記の設定を完了後右上の「検索」ボタンをクリックして検索してください。

5. 下の枠内に検索条件に一致したブレードが表示されます。

注意	・「当日の休止状態移行時刻が指定時刻以降のブレードを検索」を行う際、起動スケジュールのみが設定され休止スケジュールが設定されていないブレードが存在していると、検索が実行できません。適切な休止スケジュールの設定・配信をした上で検索を行ってください。
補足	・「2.」の検索条件によって、「3.」で指定する項目は変化します。

検索条件表

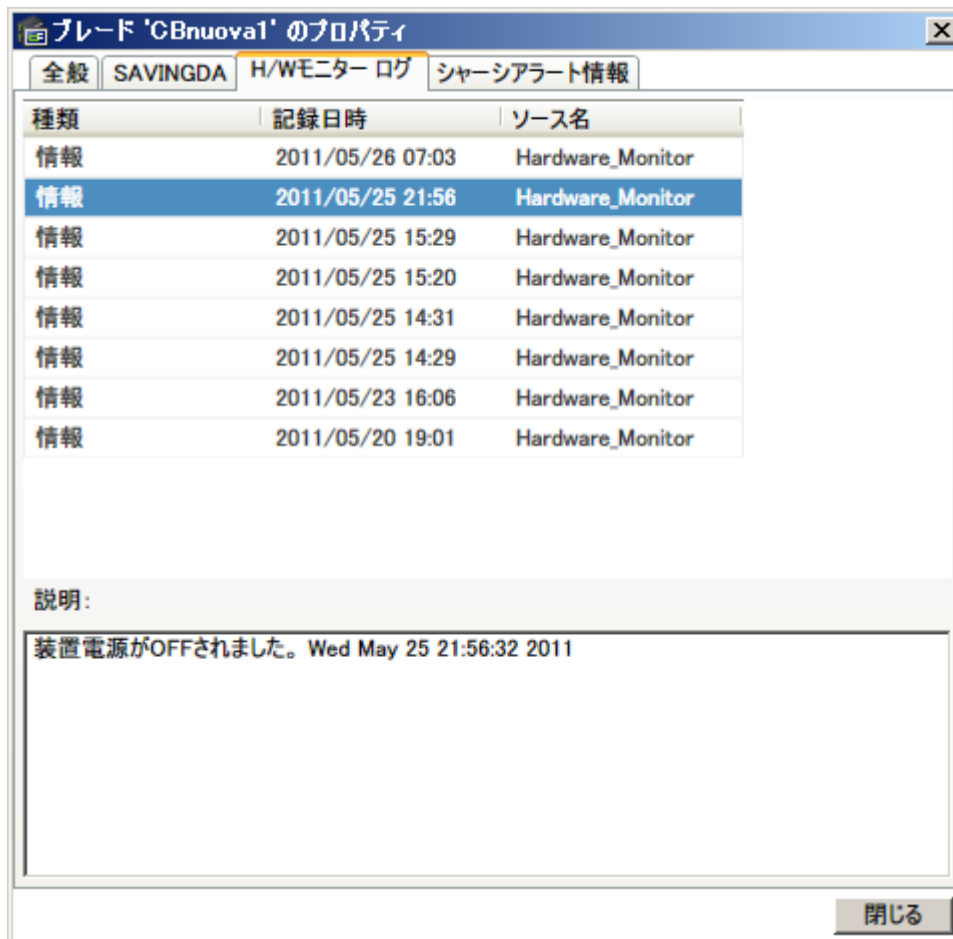
No	検索条件
①	最新の設定が適用されていないブレードを検索
②	単一の指定したモデルと一致するブレードを検索
③	電源 ON 状態のブレードを検索
④	CALL ランプが点灯しているブレードを検索
⑤	指定期間内にエラーが発生しているブレードを検索
⑥	当日の休止状態移行時刻が指定時刻以降のブレードを検索

3-7 ログの管理

3-7-1 表示

・ハードウェアモニターのログを見るには次のように操作します。

1. ブレードを右クリックし、「プロパティ」を選択してください。
2. 「ブレードのプロパティ」の「H/W モニター ログ」タブを選択してください。



制限	・異なるドメインに参加している同一 PC 名のブレードを管理している場合、各ブレードのログが混在して表示されます。
-----------	-----------------------------------------------------------

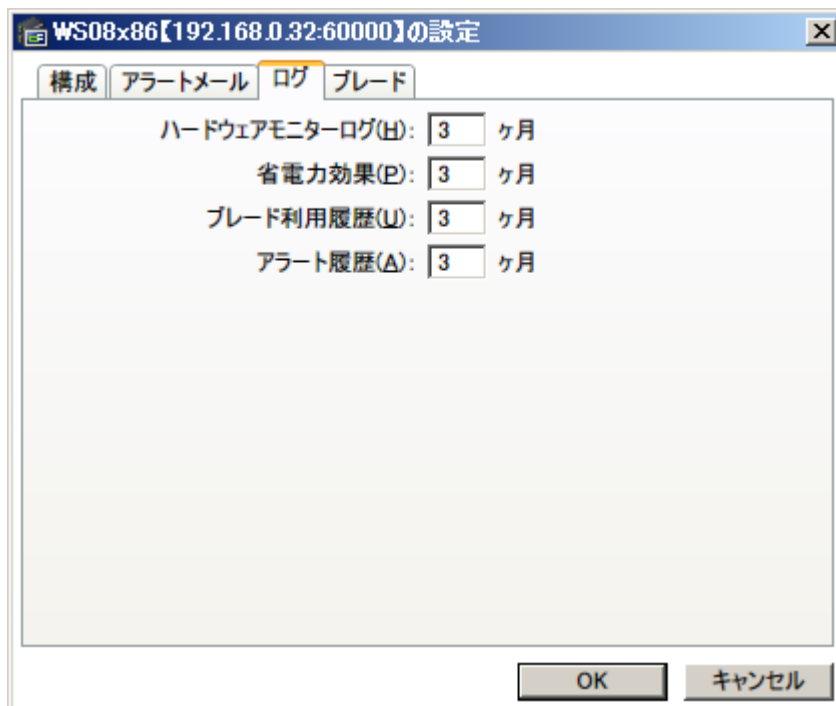
3-7-2 保存期間の変更

・ログの保存期間を変更するには次のように操作します。

1. 管理コンソール画面の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 現在接続している「ConsoleDA Manager」の設定画面が表示されます。「ログ」タブを選択し、ログを保存する期間を「ヶ月」単位で選択してください。



3. 「OK」ボタンをクリックして設定を反映してください。

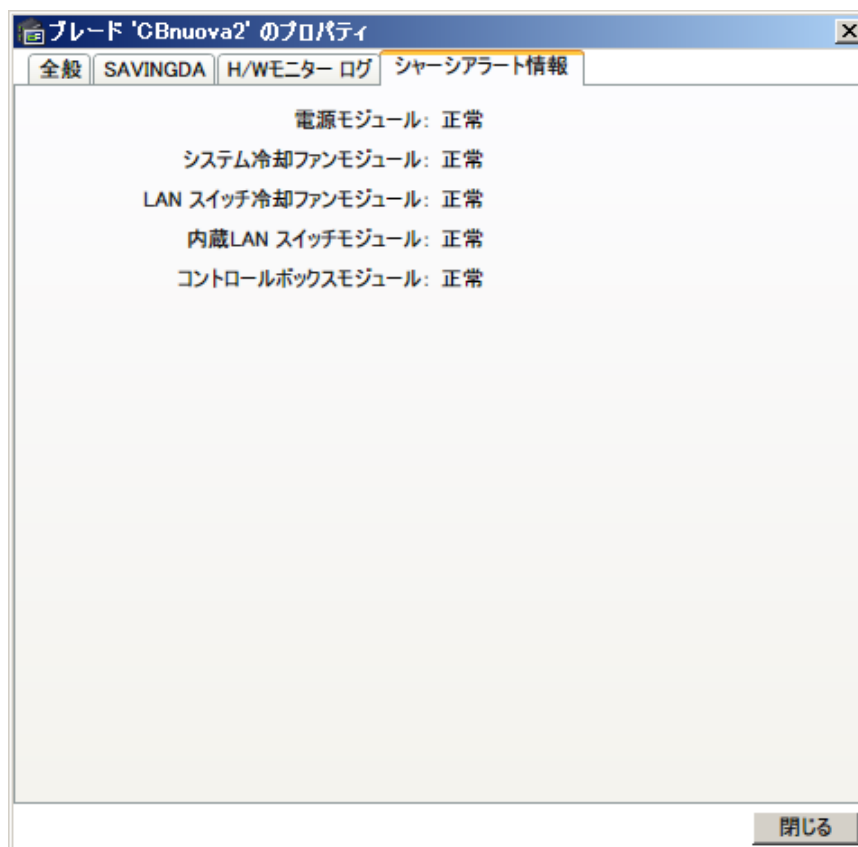
制限	・ログの保存期間は1～36ヶ月です。
注意	・設定は接続先(ConsoleDA Manager)ごとに行われます。

3-8 シャーシアラート情報

ブレードの STATUS ランプが点滅状態のとき、その原因がシャーシのモジュールにあるかどうかを確認することができます。

・シャーシの各モジュールのアラート情報を確認するには次のように操作します。

1. 「ブレードのプロパティ」を表示し、「シャーシアラート情報」タブを選択してください。
2. 選択したブレードをインストールしているシャーシの、各モジュールのアラート情報が確認できます。シャーシのモジュールに n 個のエラーが発生している場合は「異常 (n 台)」、エラーが発生していない場合は「正常」と表示されます。情報の取得に失敗した場合は、全項目「取得失敗」と表示されます。



注意

- ・ FLORA bd100 X6 のブレードでは、この機能はご利用になれません。(全項目「利用不可」と表示されます。)
- ・ 「アラート情報」の内容は、各ブレードではなく、シャーシのアラート情報です。そのため、ブレードのログには記録されません。
- ・ シャーシのエラーに関する詳細については、各モデルの「ユーザーズガイド」を参照してください。

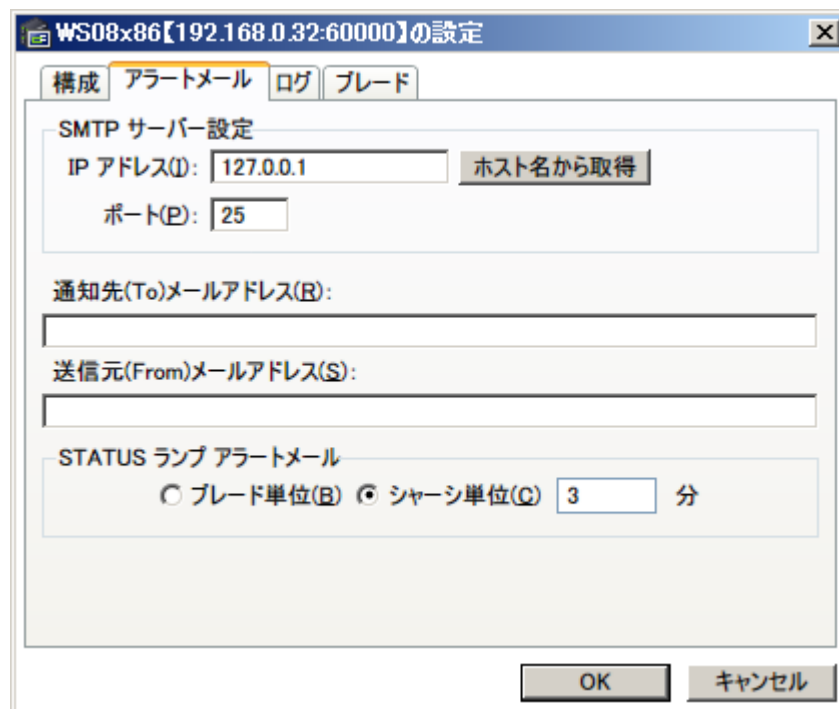
3-9 アラートメールの管理

・ブレードのハードウェアモニターがアラートを検出した時、および STATUS ランプが点灯した時にメールを受け取るようにするには次のように操作します。

1. 管理コンソール画面の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 現在接続している「ConsoleDA Manager」の設定画面で「アラートメール」タブを選択して、各欄に必要な情報を入力してください。



3. 「OK」ボタンをクリックして設定を反映してください。

以下は、送信されるアラートメールの内容です。

ハードウェアモニターによるアラート検出時

件名: ConsoleDA Alert Notification 内容: 20**/**/** **:*:*:* Error [マシン名] [エラーログの内容]

STATUS ランプ点灯時

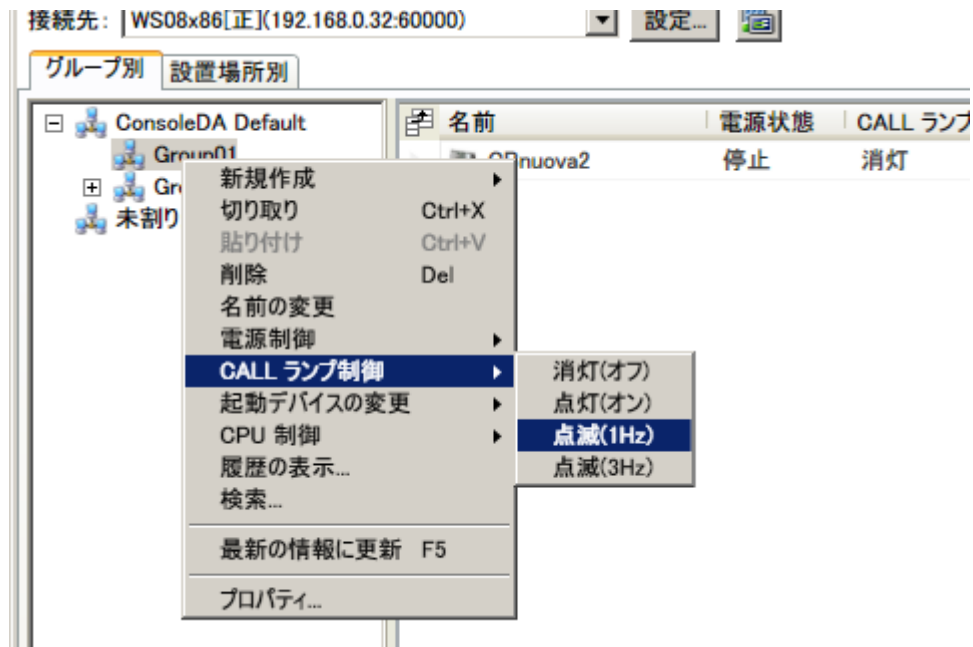
件名: ConsoleDA Alert Notification 内容: 20**/**/** **:*:*:* Status LED Alert [マシン名] STATUS ランプが点灯しています。ブレードにエラーが検出されました。

注意	<ul style="list-style-type: none">SMTP で使用されるポートのデフォルト値は「25」になっていますが、他のポートを使用されている場合は、変更したポート番号を指定してください。アラートメールを使用する場合は、専用のメールアカウントを用意してください。
補足	<ul style="list-style-type: none">SMTP サーバの設定は「IP アドレス」以外にサーバのホスト名からも設定ができます。通知先メールアドレスは、メールを受信するアドレスです。送信元メールアドレスは、メールを送信するアドレスです。

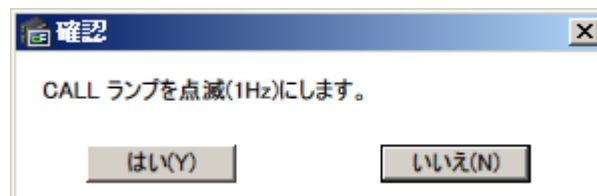
3-10 CALL ランプ制御

・グループ内の CALL ランプの制御するには次のように操作します。

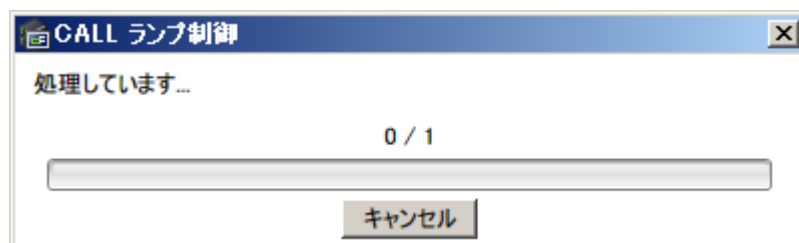
1. 「グループ別」タブを選択してください。
2. CALL ランプ制御をするグループを右クリックし、「CALL ランプ制御」から設定する CALL ランプの状態を選択してください。



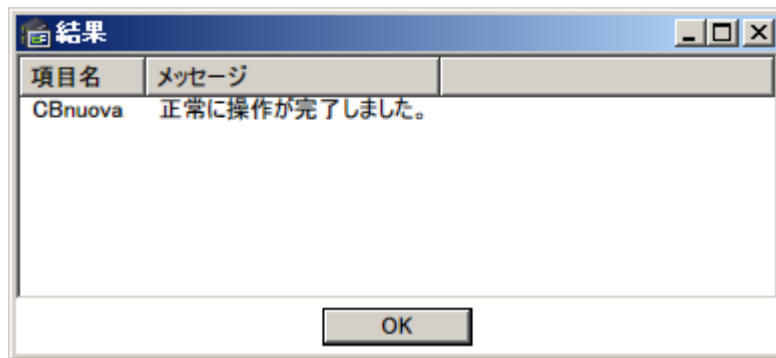
3. 確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックしてください。



4. CALL ランプ制御進行ダイアログが表示されます。



5. 操作が完了すると、結果が表示されます。



補足	<ul style="list-style-type: none">・ 設置場所・ラック・シャーシ・ブレードの右クリックメニューからも「CALL ランプ」の制御を行うことができます。・ 完了メッセージは、「ConsoleDA Manager」からブレードへの操作が完了したことを示します。制御がブレードに反映されたことを保証するものではありません。
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

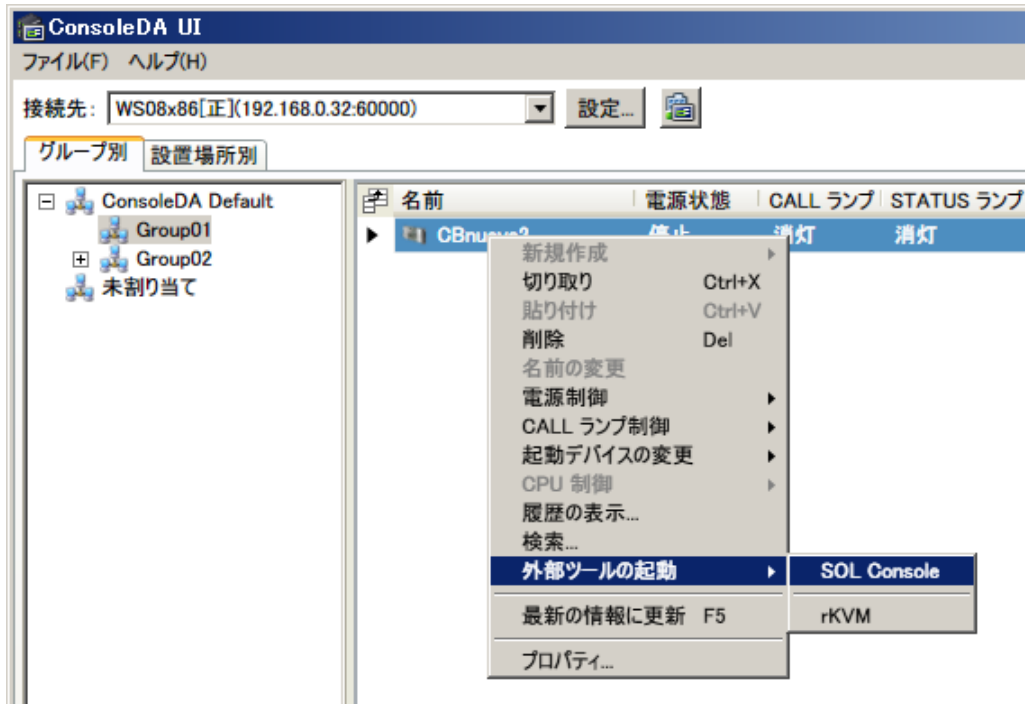
3-11 SOL(Serial Over LAN)画面の表示

ブレードに対して SOL(Serial Over LAN)通信を行うことができます。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)


• SOL 画面を表示するには次のように操作します。

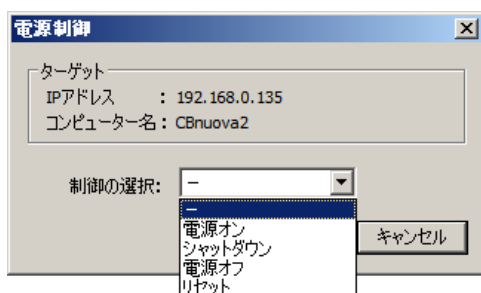
1. SOL 画面を表示したいブレード名を右クリックし、「外部ツールの起動」→「SOL Console」を選択してください。



2. SOL 画面が表示され、通信を開始します。

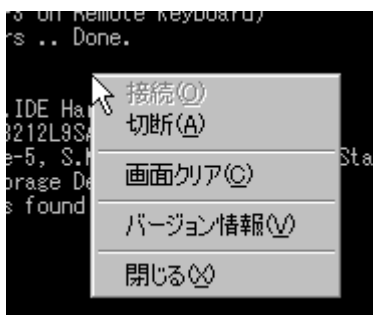


3. SOL 画面右下にある  アイコンをクリックすると、電源制御を行うことができます。



- ・電源オン …ブレードの電源を入れます。
- ・シャットダウン …OS によるシャットダウン処理を行います。
- ・電源オフ …強制的に電源を切ります。
- ・リセット …ハードウェア的に強制再起動を行います。

4. SOL 画面上を右クリックすると、以下のメニューが表示されます。




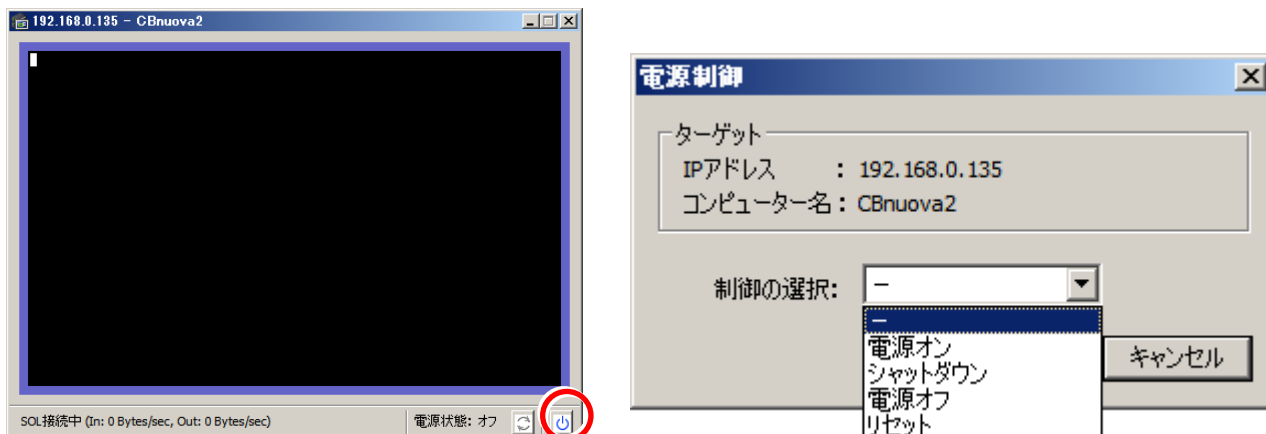
- ・接続 …SOL 通信を開始します。
- ・切断 …SOL 通信を切断します。
- ・画面クリア …画面の表示内容を消去します。
- ・バージョン情報 …バージョン情報を表示します。
- ・閉じる …SOL 画面を閉じます。

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ SOL 画面表示機能は BIOS やファームウェアのバージョンによっては動作しない場合があります。また、モデルによっては SOL は非サポートとしている場合があります。 ・ FLORA bd500 X8 以降および HA8000-bd/BD10 で SOL 通信を行うには、あらかじめ BIOS セットアップ画面にて以下の設定をしておく必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> (1)シリアルポートを Enabled に設定 (2)SOL 通信を Enabled に設定 (3)SOL 通信の Terminal Type を VT100+に設定 ・ Windows®動作中は SOL 通信データが出力されないため、画面の更新がされません。 ・ SOL 通信データが受信されない時に、画面に以前の表示内容が残っている場合があります。 ・ 2011 年 11 月以降に発売されたブレードのモデルによっては、「SOL Console」がメニューより選べない場合があります。その場合は、ConsoleDA UI インストールフォルダーの ConsoleDAUI.exe.config ファイルを編集し、 <CBModel>〜</CBModel>の間の行に「<add version="モデルバージョン番号" value="3" />」を追加して、ConsoleDA UI を再起動してください。「モデルバージョン番号」は、ConsoleDA UI のメイン画面のモデルバージョンの列で確認できます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源制御「電源オフ」「リセット」は、BIOS セットアップメニュー画面やブートデバイス選択画面から再起動をする場合に使用してください。 ・ 電源制御「シャットダウン」は、OS 起動中に停止する場合に使用してください。(OS の状態や設定によっては動作しない場合があります。その場合は OS の操作により処理を実行してください。)

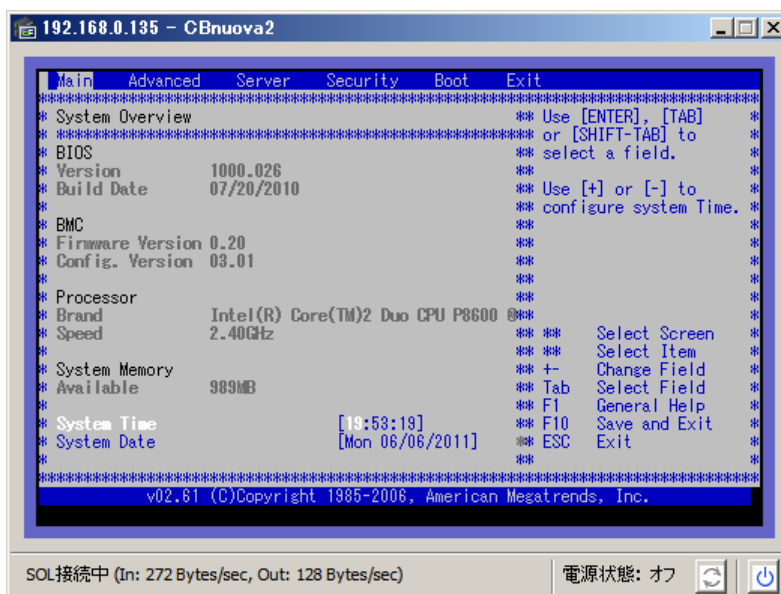
3-11-1 SOL による BIOS セットアップメニュー画面の表示

・接続先のブレードの BIOS セットアップメニュー画面を呼び出すには、次のように操作します。

1. SOL 画面右下にある  アイコンをクリックして電源制御画面を表示してください。そして「電源オン」を実行し、接続先のブレードを起動してください。ブレードが既に起動していて OS 起動中以外の場合(BIOS セットアップ画面等)は「リセット」を実行してください。ブレードが既に起動していて OS が起動中の場合は、「シャットダウン」で一旦停止した後、「電源オン」を実行してください。



2. SOL 画面が変化し、ブレードの起動が始まりましたら、すぐに Delete キー (FLORA bd500 X7 のブレードでは「F4」キーでも可能) を押下してください。すると BIOS セットアップメニュー画面へ移行します。




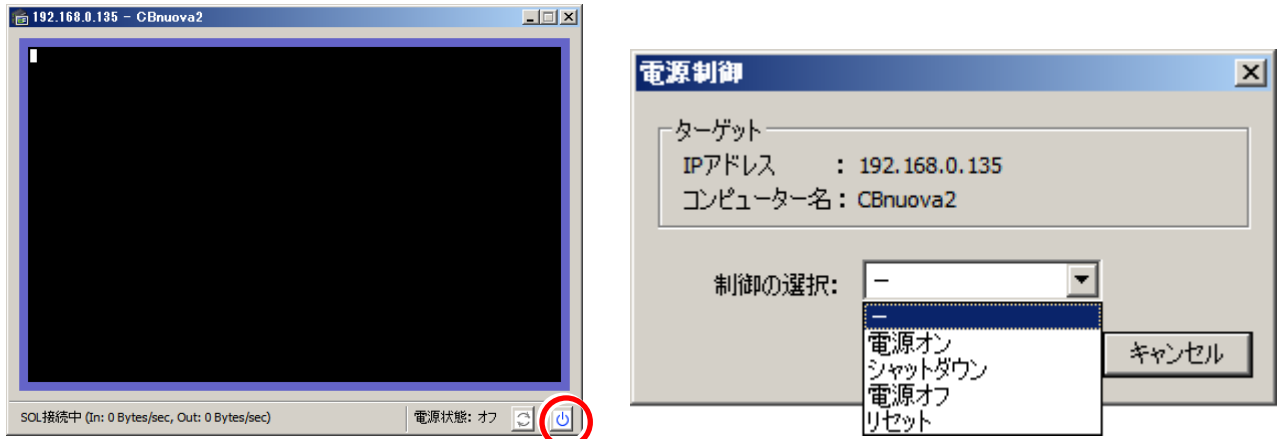
3. BIOS 設定を終了すると、OS が起動を開始します。この時 SOL 画面の更新が途中で止まりますが、異常ではありません。

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・「電源オン」操作実行後に BIOS セットアップメニュー画面へ移行した場合、ConsoleDA UI 上の電源表示が「起動処理中」のままになります。セットアップを終了し、OS が起動を完了すると「稼働中」になります。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・「電源制御」からもブレードの起動および再起動を行うことができます。「3-12 電源制御」を参照してください。 ・BIOS セットアップメニューについては、各ブレードのユーザーズガイドを参照してください。

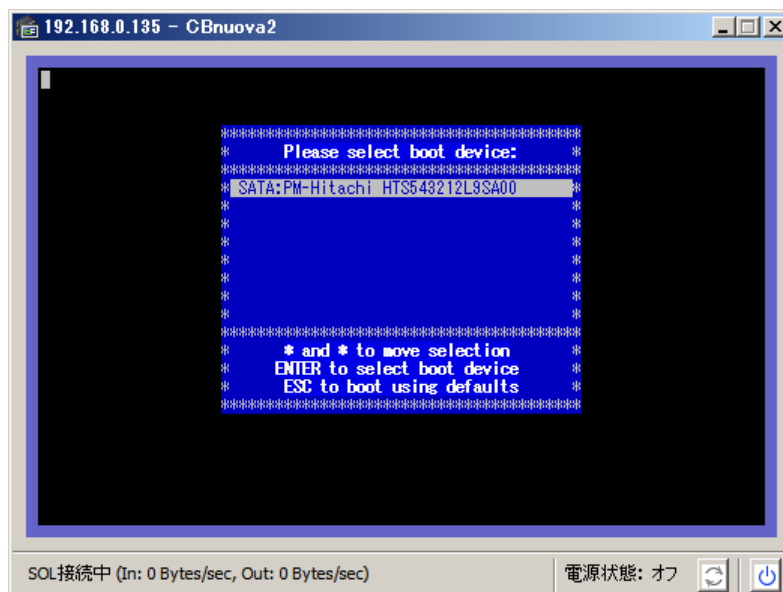
3-11-2 SOL によるブートデバイス選択画面の表示

・接続先のブレードのブートデバイスを切り替えるには、次のように操作します。

1. SOL 画面右下にある  アイコンをクリックして電源制御画面を表示してください。そして「電源オン」を実行し、接続先のブレードを起動してください。ブレードが既に起動していて OS 起動中以外の場合(BIOS セットアップ画面等)は「リセット」を実行してください。ブレードが既に起動していて OS が起動中の場合は、「シャットダウン」で一旦停止した後、「電源オン」を実行してください。



2. SOL 画面が変化し、ブレードの起動が始まりましたら、すぐに「F12」キー（FLORA bd500 X7 のブレードでは「F3」キーでも可能）を押下してください。するとブートデバイス選択画面が表示されます。



3. ブートデバイス選択を終了すると、OS が起動を開始します。この時 SOL 画面の更新が途中で止まりますが、異常ではありません。

注意	・「電源オン」操作実行後にブートデバイス選択画面を表示した場合、ConsoleDA UI 上の電源表示が「起動処理中」のままになります。OS が起動を完了すると「稼働中」になります。
補足	・「電源制御」からもブレードの起動および再起動を行うことができます。「 3-12 電源制御 」を参照してください。

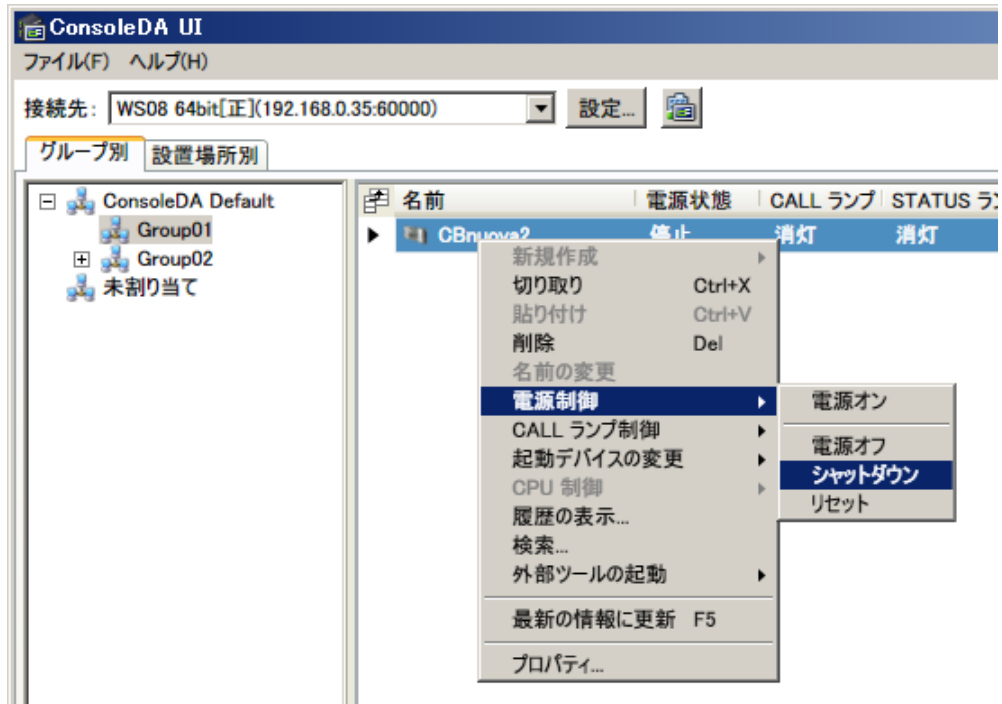
3-12 電源制御

ブレードの電源を遠隔制御することができます。

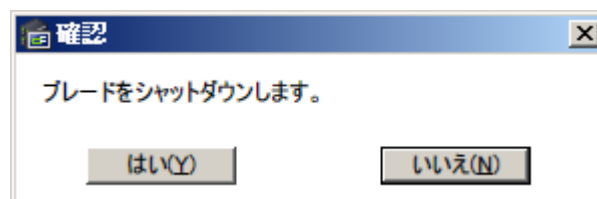
(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)

・電源制御をするには次のように操作します。

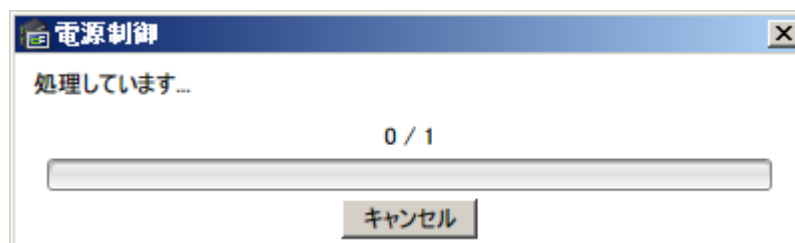
1. 電源制御をするブレード名の上で右クリックをし、「電源制御」から行う処理を選択してください。



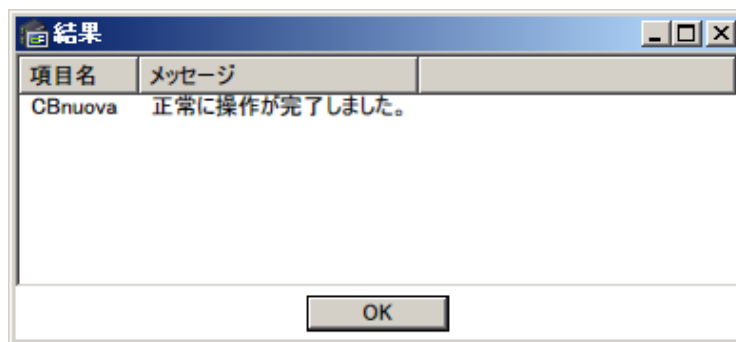
2. 確認ダイアログが次のように表示されるので、「はい」を選択してください。



3. 電源制御進行ダイアログが表示されます。



4. 制御が完了すると、結果が表示されます。



各操作の処理内容は次の通りです。

- 「電源オン」 ・・・電源を入れます。
- 「電源オフ」 ・・・強制的に電源を切ります。
- 「シャットダウン」・・・OS のシャットダウン処理を行います。
- 「リセット」 ・・・強制的に電源のリセットを行います。

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・「シャットダウン」操作を行ってもブレードがシャットダウンしなかった場合、電源状態表示が「停止処理中」のままになります。 ・Citrix® XenDesktop®をお使いの場合は、管理コンソールから「ログオフ」操作を行ったのち、「シャットダウン」操作を行ってください。 ・上記を行っても電源状態表示が「停止処理中」から変わらない場合は、ConsoleDA UI から「電源オフ」または「リセット」操作を行ってください。 ・再起動処理中は、電源状態表示が「停止処理中」となります。 ・ブレードの BIOS セットアップ画面やブートデバイス選択画面の表示中は、電源状態が「起動処理中」または「停止処理中」のままになります。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・設置場所・ラック・シャーシ・グループからも「電源制御」を行うことができます。この場合、選択した機器・グループに含まれる全てのブレードに対して電源制御を行います。 ・完了メッセージは、「ConsoleDA Manager」からブレードへの操作が完了したことを示します。制御がブレードに反映されたことを保証するものではありません。

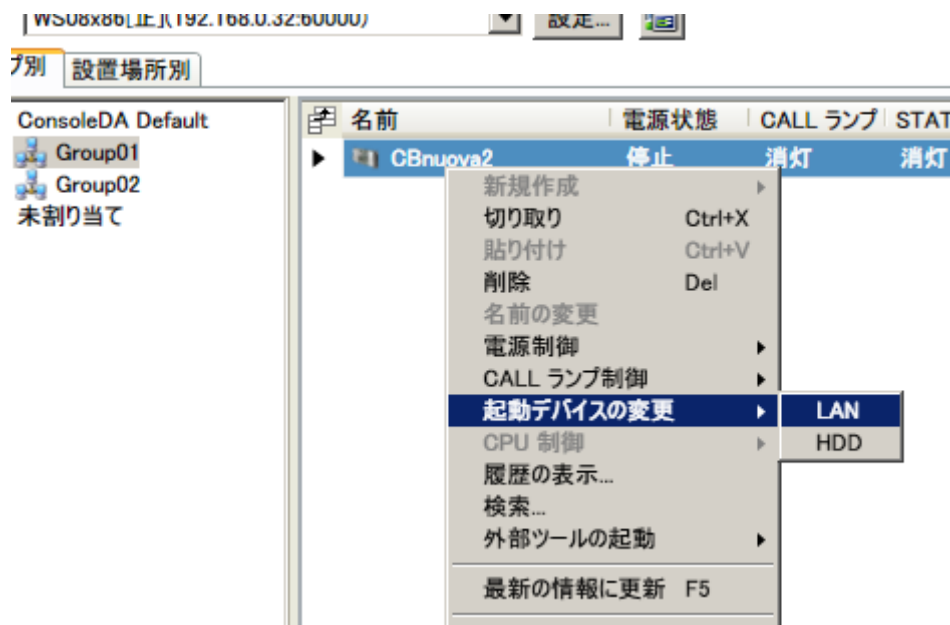
3-13 起動デバイスの変更

ブレードの次回の起動を、内蔵 HDD ブート・ネットワークブートから選択し設定することができます。

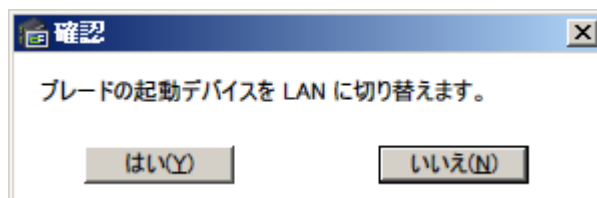
・起動デバイスを変更するには次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)

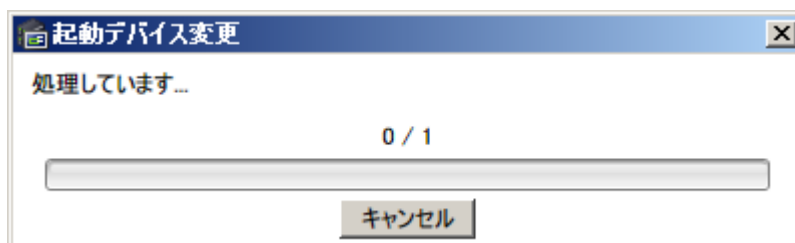
1. ここでは例として、ブレードの次回の起動をネットワークブートに設定します。起動デバイスを変更したいブレードを右クリックし、「起動デバイスの変更」→「LAN」を選択してください。



2. 確認メッセージが表示されますので「はい」をクリックしてください。



3. 進行ダイアログが次のように表示され、完了するとダイアログが消えます。次回起動時、この設定が反映され、ブレードはネットワークブートします。



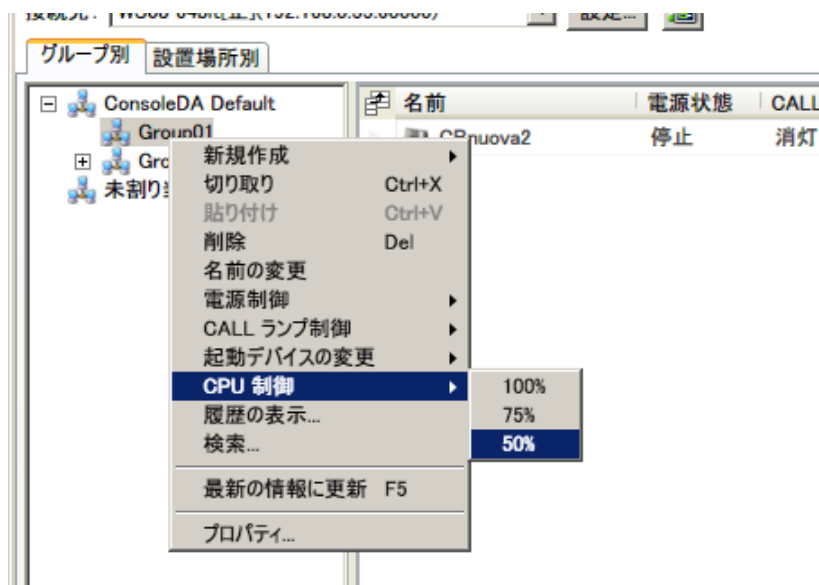
<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> この機能は、FLORA bd100 X6 のブレードでは動作しません。 設定は次回起動時 1 回のみ有効です。それ以降は通常のデバイスから起動します。 ネットワークブート用サーバから起動させるには、あらかじめ BIOS セットアップメニューで Network Boot を Enabled に設定しておく必要があります。BIOS セットアップメニューについては各モデルの「ユーザーズガイド」を参照してください。 2011 年 11 月以降に発売されたブレードのモデルによっては、「起動デバイスの変更」がメニューより選べない場合があります。その場合、ConsoleDA UI インストールフォルダーの ConsoleDAUI.exe.config ファイルを編集し、<CBModel>~</CBModel>の間の行に、「<add version="モデルバージョン番号" value="3" />」を追加して、ConsoleDA UI を再起動してください。“モデルバージョン番号”は、ConsoleDA UI のメイン画面のモデルバージョンの列で確認できます。
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所・ラック・シャーシ・グループからも「起動デバイスの変更」を行うことができます。

3-14 CPU制御

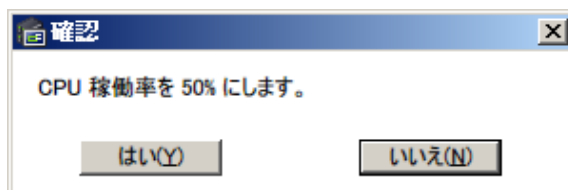
・グループ内のクライアントブレードの CPU を制御するには次のように操作します。

(※この機能は、クライアントブレードに SAVINGDA Pro がインストールされている場合に有効です。)

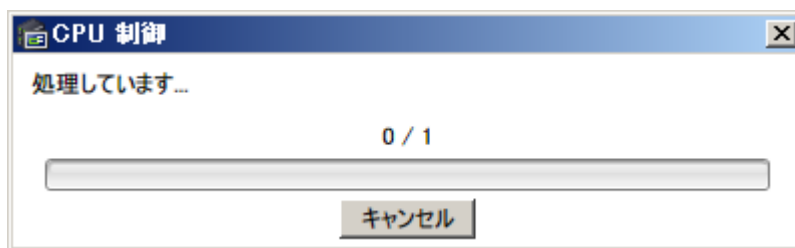
1. 「グループ」を右クリックし、「CPU 制御」から、制御する CPU の稼働率を選択してください。



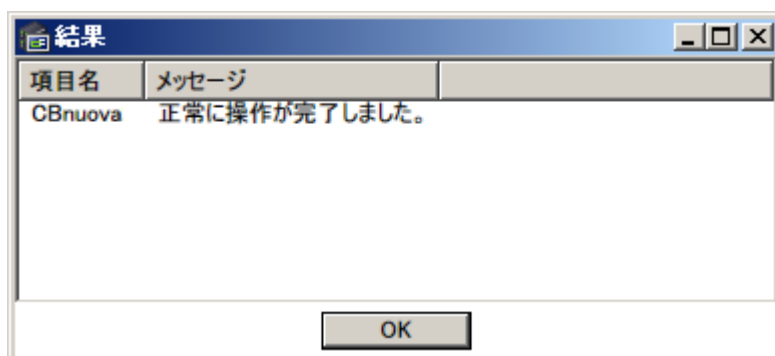
2. 確認メッセージが表示されるので、「はい」をクリックしてください。



3. CPU 制御進行ダイアログが次のように表示されます。



4. 制御が完了すると、結果が表示されます。



<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 上記の操作を行っても、制御対象のブレードに SAVINGDA Pro がインストールされていない場合、制御が行われません。 • ブレードの電源が一度 OFF になると CPU 稼働率は「100%」に戻ります。 • 同一のブレードに連続して CPU 制御を行うと、正しく設定されません。1 分以上時間を置いて制御を行ってください。 • CPU 稼働率 50% に設定しているブレードに 75% を設定することはできません。一度、CPU 稼働率を 100% に設定してから、75% に設定してください。 • ConsoleDA UI からはブレードの CPU 制御の設定状況が分かりません。 • ブレードの使用環境によっては、既に CPU の稼働率に制限がかけられている場合があります。このような場合、ConsoleDA UI から制御を行っても設定が反映されないことがあります。
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 選択したグループ内のサブグループを含めた全てのブレードが制御の対象となります。 • 完了メッセージは、「ConsoleDA Manager」からブレードへの操作が完了したことを示します。制御がブレードに反映されたことを保証するものではありません。

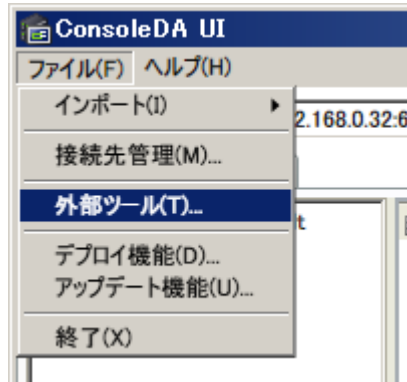
3-15 外部ツール起動

外部ツールを起動して、連携することができます。HA8000-bd/BD10のリモートコンソールと連携させる場合は本機能を使用します。

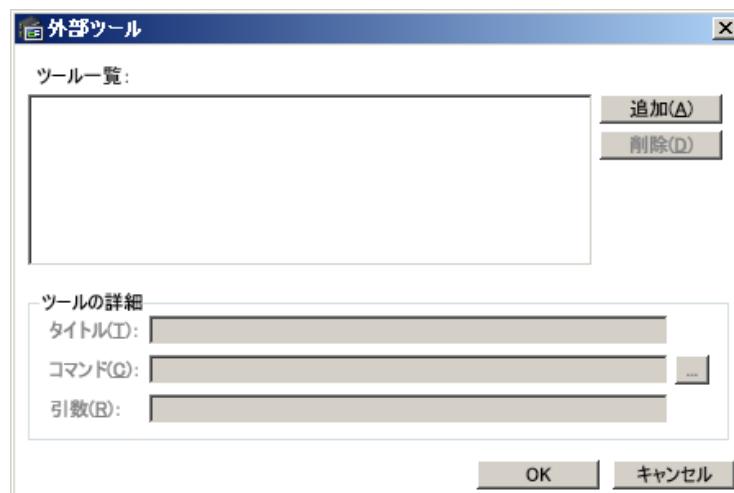
・外部ツールの設定は次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)

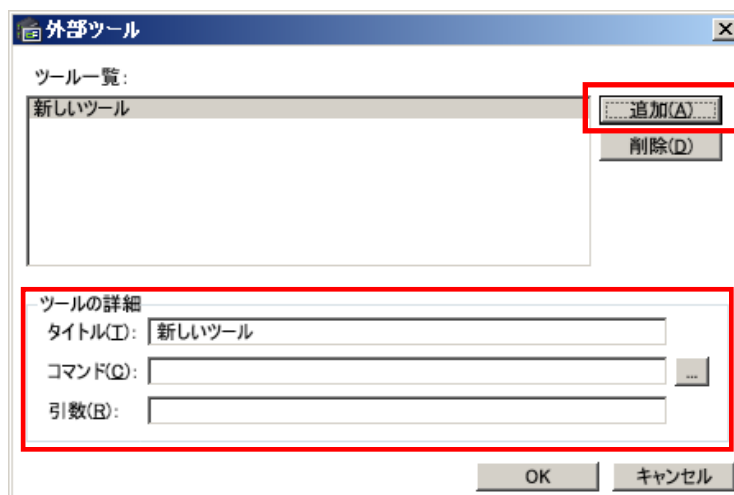
1. メインメニューから「ファイル」→「外部ツール」を選択してください。



2. 外部ツールの設定画面が表示されます。



3. 「追加」ボタンをクリックしてツールの詳細エリアに情報を入力してください。

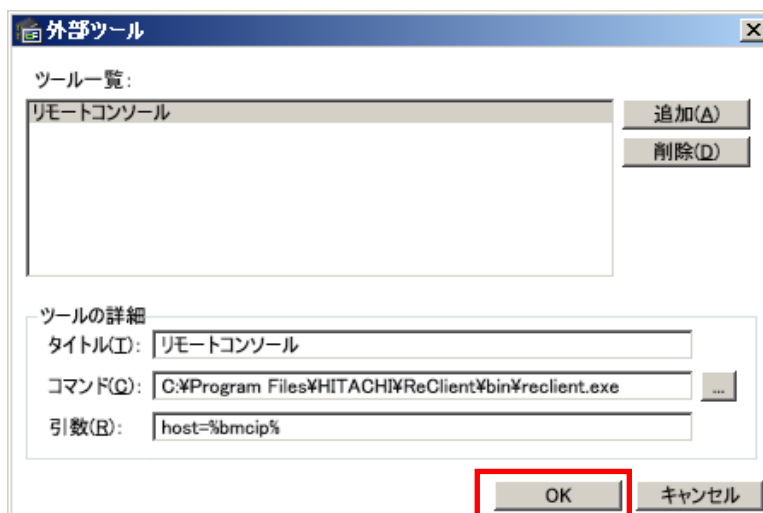


「タイトル」には、ツールのタイトルを入力してください。「コマンド」にはツールの実行パスを入力します。[...]ボタンでファイルを参照して入力することができます。

引数にはコマンドに渡すパラメーターを指定してください。下記の書式でツールに ConsoleDA で管理する各ブレードのパラメーターを引き渡すことができます。

No.	項目	パラメーター
1	IP アドレス 1	%ip1%
2	MAC アドレス 1	%mac1%
3	IP アドレス 2	%ip2%
4	MAC アドレス 2	%mac2%
5	BMC IP アドレス	%bmcip%
6	BMC MAC アドレス	%bmcmac%
7	IPMI パスワード	%bmcpass%
8	コンピューター名	%host%

4. 「OK」ボタンをクリックして設定ダイアログを閉じてください。



5. 設定した外部ツールは、ブレード選択後の右クリックメニューから「外部ツールの起動」を選択し、表示されるサブメニューからタイ
トルを選択することにより起動します。



<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登録した外部ツールによっては、多重起動ができない場合があります。ツールのマニュアル等を参照してご利用ください。
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> HA8000-bd/BD10 X1 のリモートコンソールと連携するには、コマンドに、リモートコンソールインストール先フォルダーの <code>reclient.exe</code> を選択してください。引数パラメーターは下記のいずれかの形式で指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> 形式 1: <code>host=%bmcip%</code> 形式 2: <code>IP=%bmcip%,[ニックネーム],ユーザーID,パスワード,ポート番号,</code> <code>[パスワードの記憶有無],</code> <code>[CD="ISO イメージファイル"] [FD_IN="FD イメージファイル"]</code> (リモートコンソールの引数や使い方の詳細については、HA8000-bd/BD10 X1 に添付されているリモートコンソールのマニュアルを参照してください。) HA8000-bd/BD10 X2 のリモートコンソールと連携するには、コマンドに「<code>C:\Program Files (x86)\Internet Explore\iexplore.exe</code>」を、引数に、「<code>%bmcip%/cgi-bin/lanchrkvm.cgi</code>」を設定してください。 「削除」ボタンで設定済みのツールを削除することができます。

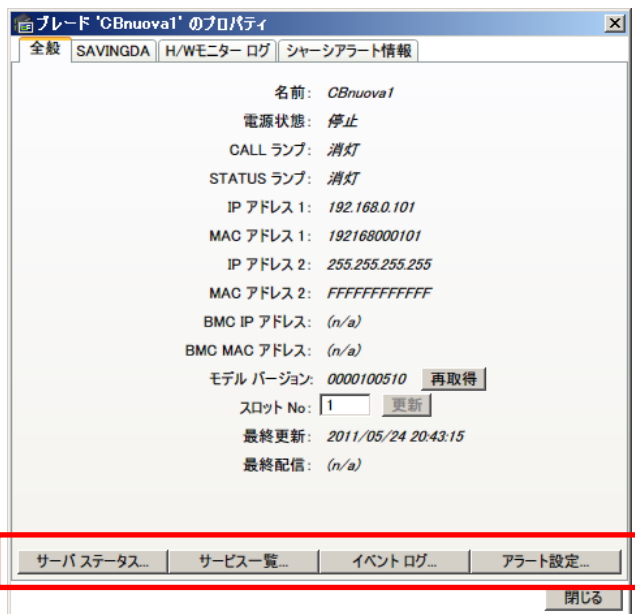
3-16 サーバブレードの管理

サーバブレード (FLORA gd500 X7, HA8000-bd/BD10) に対して、サーバステータス (パフォーマンスモニター、ネットワーク使用率、ディスク使用率)、サービス一覧、イベントログの表示、およびアラート設定を行うことができます。

・サーバブレードの管理の各機能は次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。また、サーバブレードには「Hitachi bd Link /SV」の ConsoleDA Agent For Server がインストールされている必要があります。)

各機能は「ブレードのプロパティ」画面の全般タブより呼び出します。



3-16-1 サーバステータス

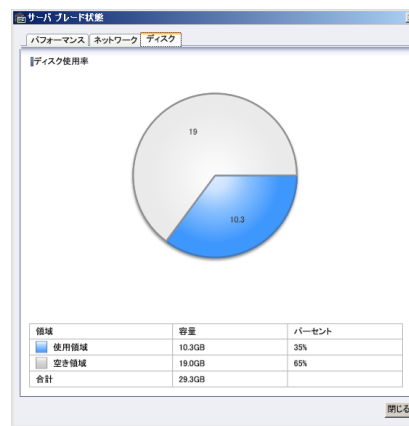
1. プロパティ画面の「全般」タブより「サーバステータス」ボタンをクリックしてください。
2. 「サーバブレード状態」画面が開き、「パフォーマンス」、「ネットワーク」、および「ディスク」の各タブをクリックすることにより各ステータスを表示することができます。



(パフォーマンス)



(ネットワーク)



(ディスク)

3. 「閉じる」ボタンをクリックすると「サーバブレード状態」画面が閉じます。

注意	<ul style="list-style-type: none"> ステータスが表示されない場合は、ConsoleDA UIをインストールしたマシンのFirewallやネットワーク設定を調整する必要があります。Firewallを設定されている場合は、ConsoleDA UIをFirewallの例外プログラムに指定してください。さらに表示されない場合は、ネットワーク接続の詳細設定でLAN接続の優先順位をConsoleDA Managerと通信しているLAN接続が優先されるように設定する必要があります。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 「パフォーマンス」タブのCPU使用率の値は、CPUのコア数に関係なく使用率の平均値を示します。

3-16-2 サービス一覧

- プロパティ画面の「全般」タブより「サービス一覧」ボタンをクリックしてください。
- サービス一覧画面が開き、各サービスの状態とスタートアップの種類が表示されます。



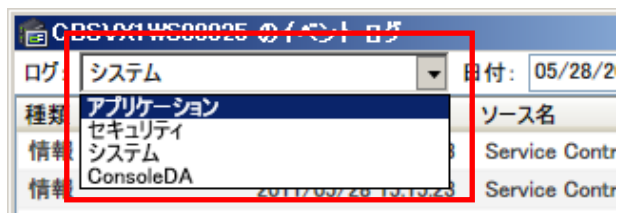
- 「最新に更新」ボタンをクリックすると、サービスの状態の表示を更新します。「閉じる」ボタンをクリックするとサービス一覧画面が閉じます。

3-16-3 イベントログ

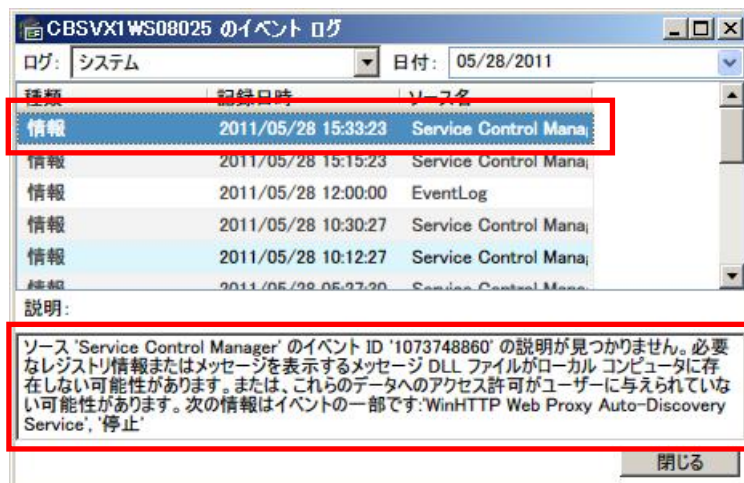
- プロパティ画面の「全般」タブより「イベント ログ」ボタンをクリックしてください。
- イベントログ一覧画面が開きます。



3. 「ログ」のコンボボックスをクリックして、ログの種類を選択することができます。



4. リスト内の各イベントログをクリックすると、説明エリアのログの詳細が表示されます。



5. 「閉じる」ボタンをクリックするとイベントログの画面が閉じます。

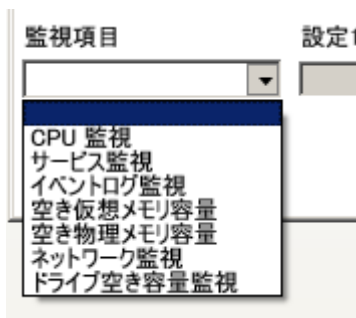
3-16-4 アラート設定

1. プロパティ画面の「全般」タブより「アラート設定」ボタンをクリックしてください。

2. アラート設定画面が開きます。



3. 「監視項目」のコンボボックスをクリックして、監視項目の種類を選択してください。



4. 監視内容の設定を行います。監視項目ごとの設定項目およびアラートが発生する条件は以下の通りです。

	監視項目	設定項目	アラート発生条件
1	CPU 監視	CPU 稼働率閾値(%)	CPU 稼働率が閾値を超えたとき
2	サービス監視	サービス名	指定したサービスが停止・再起動したとき
3	イベントログ監視	ログ名, 種類, ソース名, イベント ID	指定したイベントログが記録されたとき
4	空き仮想メモリ容量	空きメモリ閾値(MB)	空き仮想メモリ容量が閾値を下回ったとき
5	空き物理メモリ容量	空きメモリ閾値(MB)	空き物理メモリ容量が閾値を下回ったとき
6	ネットワーク監視	ネットワーク使用率閾値(%)	ネットワーク使用率が閾値を超えたとき
7	ドライブ空き容量監視	ドライブ名, 閾値(MB)	指定したドライブの空き容量が閾値を下回ったとき

補足	<ul style="list-style-type: none"> ・「CPU 監視」では、CPU のコア数に関係なく使用率の平均値を監視します。 ・「ネットワーク監視」では、全ての NIC が監視対象になります。ただし、NIC 名称に「*」, 「isatap」を含むものを除きます。
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. 「追加」ボタンをクリックして、現在の設定リストに追加してください。



6. 追加が完了しましたら「適用」ボタンをクリックして、設定をサーバブレードに送信してください。



注意

- ・ 「適用」ボタンをクリックするまで、設定がサーバブレードに反映されません。
- ・ サーバブレードの「ConsoleDA Agent For Server」を再インストールすると、サーバブレード側の設定がクリアされます。再度、アラート設定画面から「適用」ボタンをクリックして、設定をサーバブレード側へ反映させてください。


7. 「閉じる」ボタンをクリックするとアラート設定画面が閉じます。

3-17 データセンターのビジュアル表示(VDC Viewer)

データセンターの物理位置を仮想的に表示し、直感的な状況の把握と操作ができるようになります。「VDC Viewer」のご使用方法については「VDC Viewer 操作マニュアル」を参照してください。

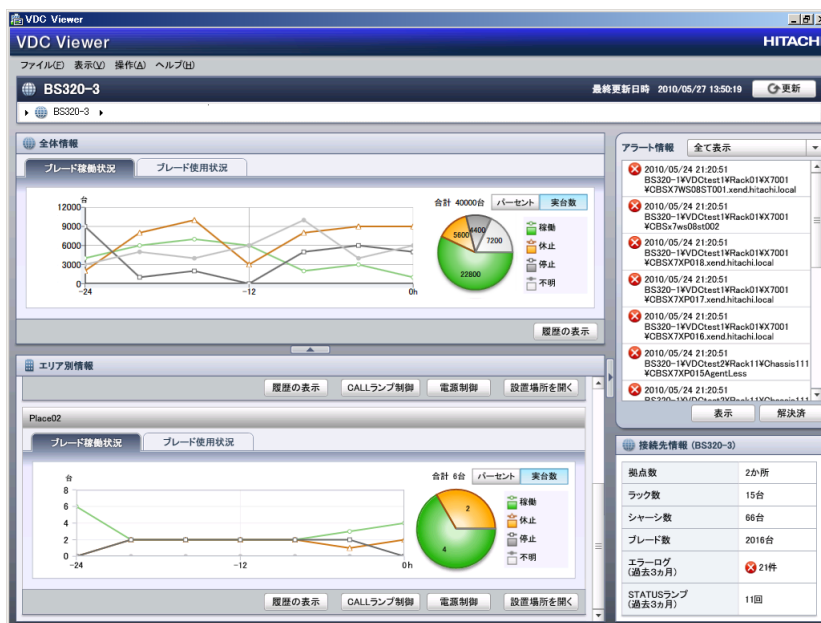
・VDC Viewer を実行するには、次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)

1. 「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「ConsoleDA」→「ConsoleDA Tools」→「VDC 設定ツール」を選択して「VDC 設定ツール」を起動してください。
2. 「VDC 設定ツール」での設定完了後、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「ConsoleDA」→「VDC Viewer」を選択して「VDC Viewer」を起動してください。ConsoleDA UI が起動中であれば、次の図の  ボタンをクリックしても起動できます。



3. 「VDC Viewer」が起動します。



「VDC Viewer」および「VDC 設定ツール」の詳しい操作方法については、「VDC Viewer 操作マニュアル」を参照してください。

補足	・ConsoleDA UI と VDC Viewer は独立して起動が可能です。
-----------	------------------------------------------

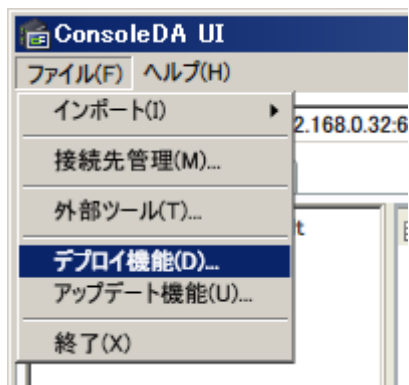
3-18 デプロイ機能

システムイメージをリモートで展開する機能を有するデプロイ用ソフトウェアと連携し、複数のブレードを指定して、個別アプリケーションを含めた OS 環境を容易に再構築することが可能になります。デプロイ機能のご使用方法については「デプロイ機能取扱説明書」を参照してください。

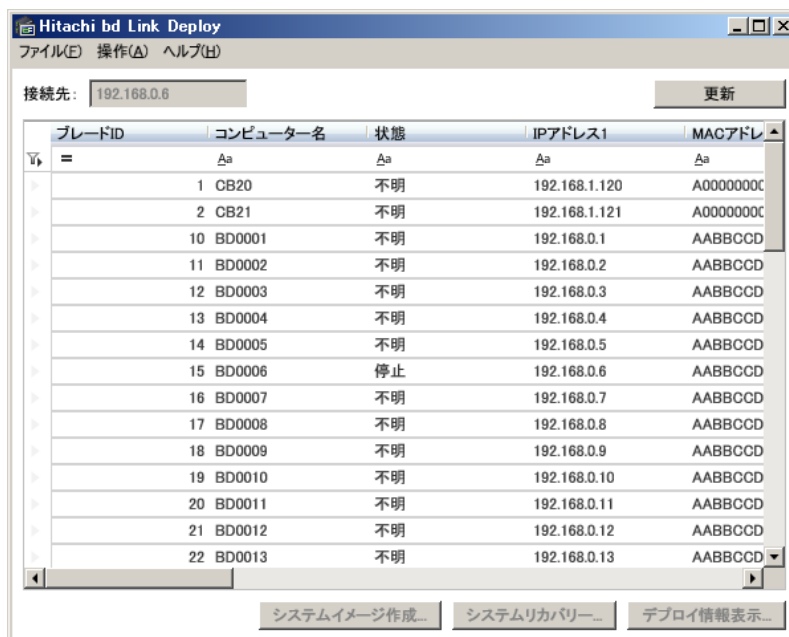
- ・デプロイ機能を実行するに次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)

1. メインメニューから「ファイル」から「デプロイ機能」を選択してください。



2. 「Hitachi bd Link Deploy」画面が起動します。

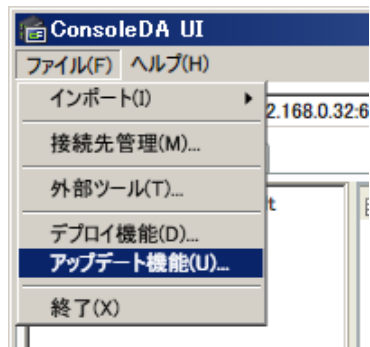


デプロイ機能の使用方法については「デプロイ機能取扱説明書」を参照してください。

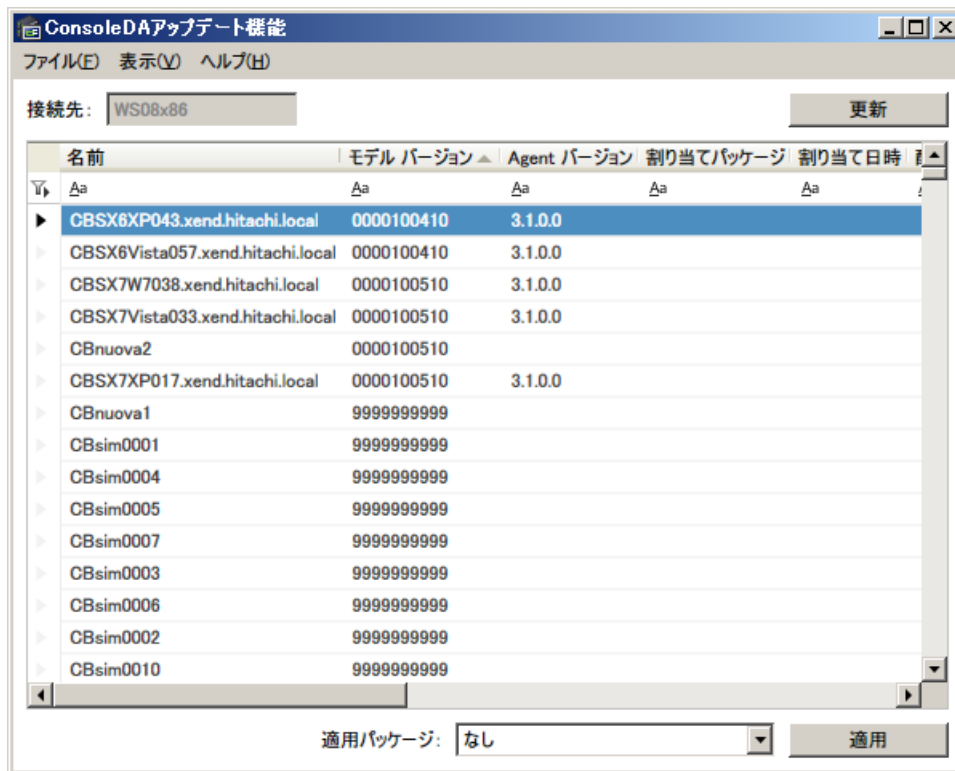
3-19 アップデート機能

ブレードへのソフトウェアのインストールや、ブレードにインストールされているソフトウェアの更新・削除を行うことができます。

1. メインメニューの「ファイル」から「アップデート機能」を選択してください。



2. 「ConsoleDA アップデート機能」画面が起動し、ConsoleDA UI で登録したブレードの情報が一覧表示されます。



3. アップデートは、主に次のような流れで行います。詳細な操作方法は後述します。

アップデートパッケージの作成・登録を行う

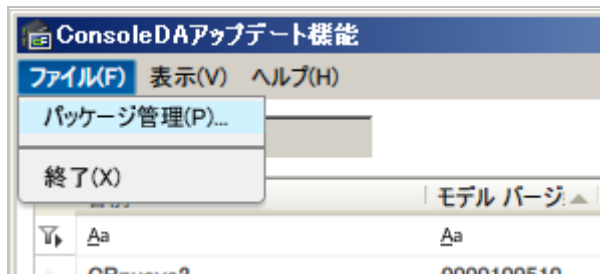
アップデートパッケージをブレードに割り当てる

パッケージがブレードに配信され、アップデートが実行される

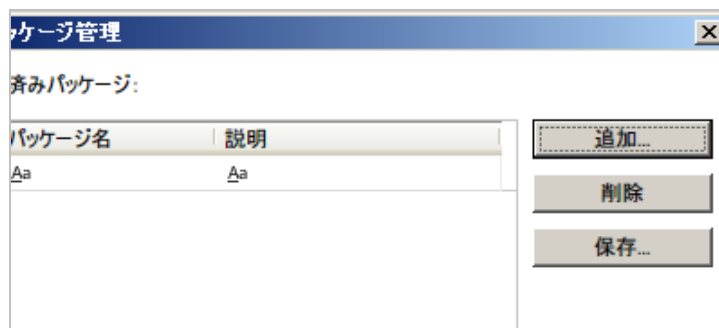
3-19-1 アップデートパッケージの作成

・アップデートパッケージを作成するには、次のように操作します。

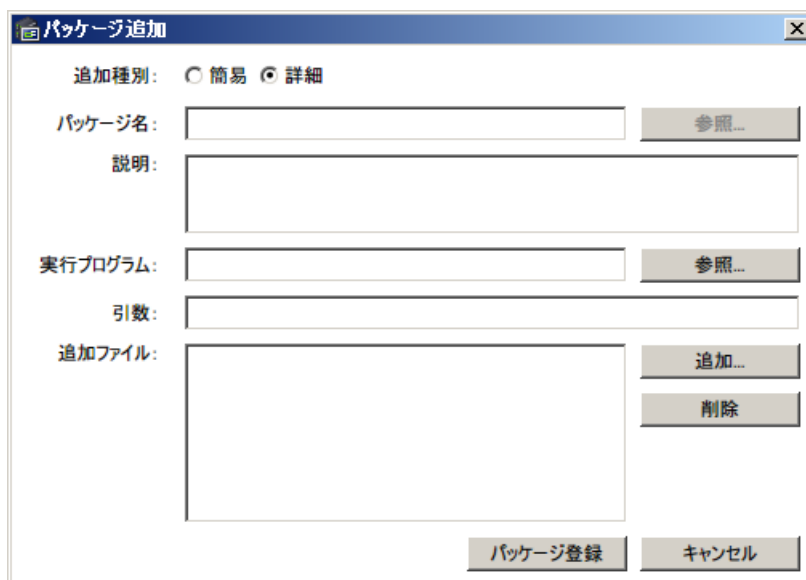
1. ConsoleDA アップデート機能 画面のメニューの「ファイル」から「パッケージ管理」を選択してください。



2. 「追加」をクリックしてください。



3. 追加種別は「詳細」を選択してください。



4. パッケージ名、およびパッケージの説明文を入力してください。(この情報は登録パッケージリストで表示されます。)

パッケージ追加

追加種別: 簡易 詳細

パッケージ名: AgentUpdate 参照...

説明: ConsoleDA Agentをバージョンアップ

実行プログラム: 参照...

引数:

5. 実行させるプログラムを指定します。「参照」ボタンをクリックしてファイルを選択してください。

実行プログラム: AgentUpdate.bat 参照...

引数:

6. 5.で指定したプログラムを実行させる際に引数が必要であれば、入力してください。
7. 5.で指定したプログラムを実行させる際に他に必要なファイルがあれば、「追加ファイル」に指定します。「追加」ボタンをクリックしてファイルを選択してください。追加したファイルを削除する場合は、削除したいファイル名を選択して「削除」ボタンをクリックしてください。

引数:

追加ファイル:

- AgentSetup.exe
- AgentSetupB1.exe
- setup.iss
- uninstall.iss

追加...

削除

パッケージ登録

キャンセル

8. 「パッケージ登録」をクリックすると、パッケージの作成・登録が完了します。

パッケージ管理

登録済みパッケージ:

パッケージ名	説明
AgentUpdate	ConsoleDA Agentをバージョンアップ

追加...

削除

保存...

閉じる

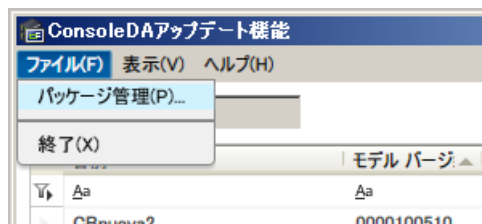
注意	<ul style="list-style-type: none"> ・本機能のご使用前にあらかじめ十分な試験を行った上で、プログラムの配信・適用を実行してください。 ・実行が可能なプログラムは、開始後から終了までの間にユーザーの操作を必要とせずに実行できるものに限られます。 ・配信プログラムはローカルシステムアカウント権限で実行されます。ローカルシステムアカウント権限での実行に対応していないプログラムの配信はできません。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージが配信されると、実行プログラムファイルおよび追加ファイルはブレード上の一時フォルダーに展開され、実行されます。 ・作成したパッケージは、「保存」ボタンで任意の場所にファイル出力することができます。また、以後、保存したパッケージファイルを使用してパッケージの簡易作成ができます。 ・作成したパッケージは、「削除」ボタンで削除することができます。

3-19-2 アップデートパッケージの簡易作成

一度作成したパッケージをファイルとして保存しておくと、以後同一内容のパッケージを簡易作成することができます。

・アップデートパッケージを簡易作成するには、次のように操作します。

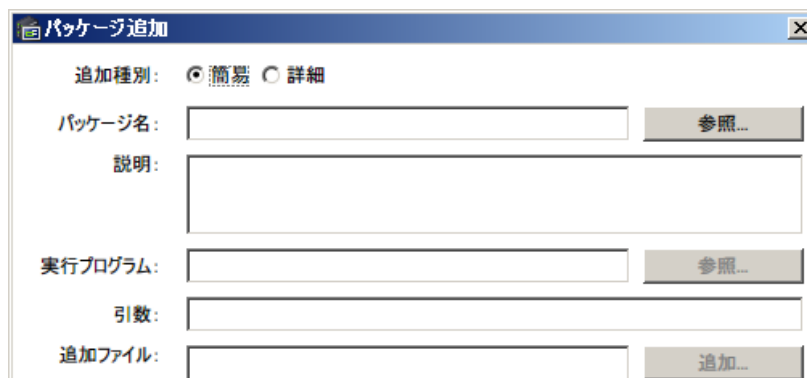
1. ConsoleDA アップデート機能 画面のメニューの「ファイル」から「パッケージ管理」を選択してください。



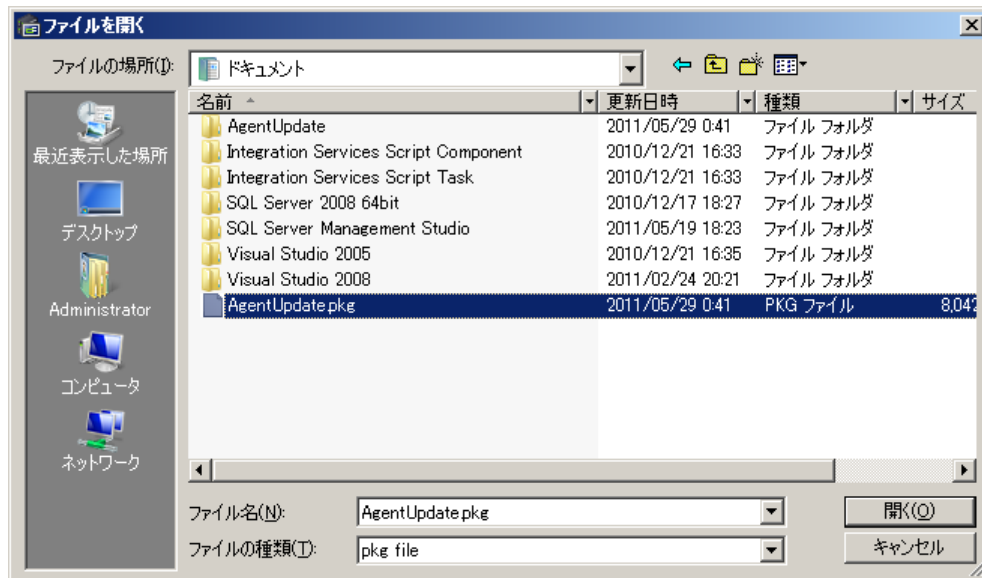
2. 「追加」をクリックしてください。



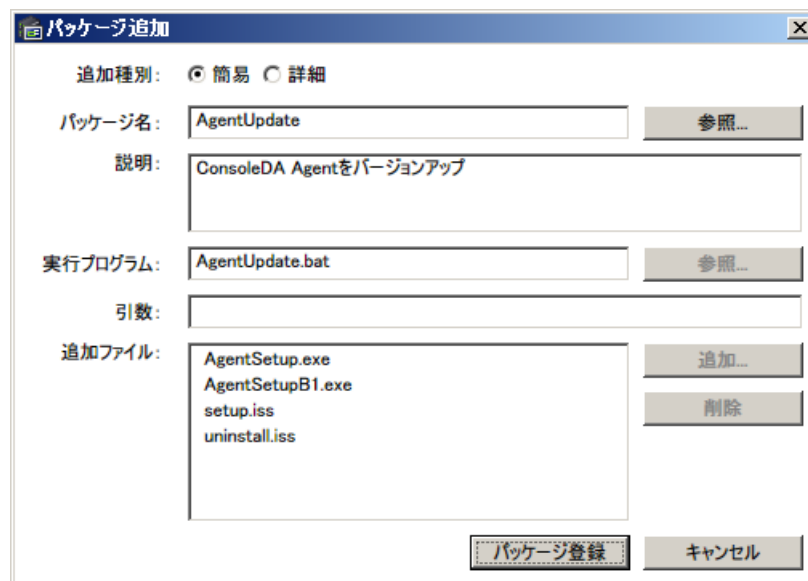
3. 追加種別は「簡易」を選択してください。



4. パッケージ名の「参照」をクリックし、あらかじめ作成し保存しておいたパッケージファイル(拡張子が.pkg)を選択してください。



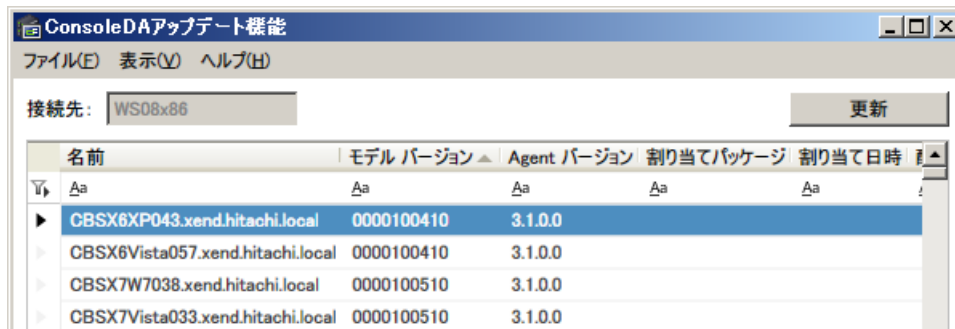
5. 「パッケージ登録」をクリックすると、パッケージの簡易作成・登録が完了します。



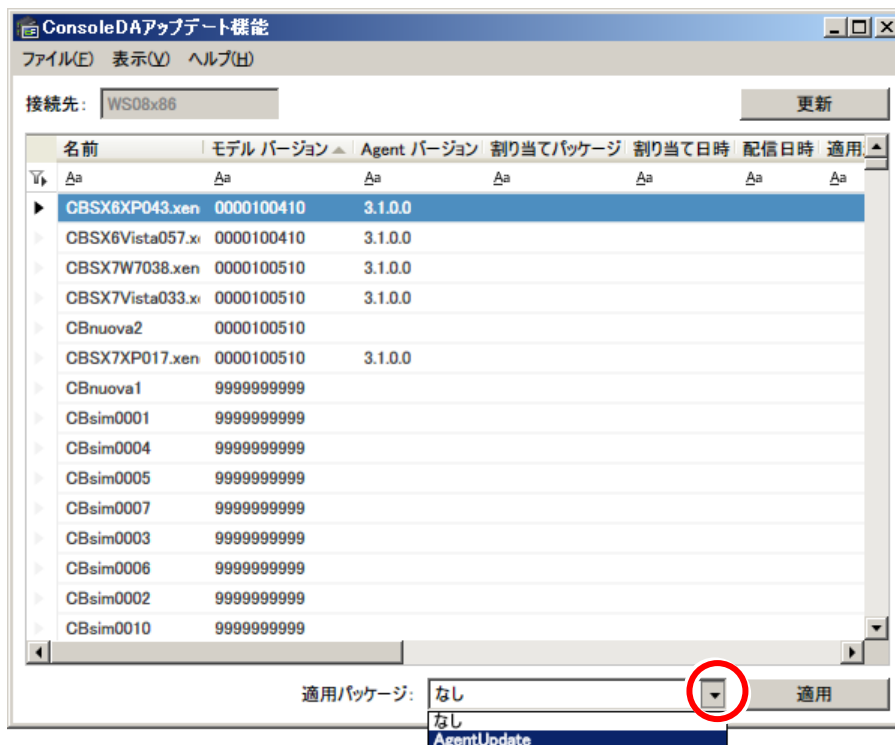
3-19-3 アップデートパッケージの割り当て

・アップデートパッケージをブレードに適用するには、次のように操作します。

1. パッケージを適用するブレードを一覧から選択してください。Ctrl キーを使用して複数のブレードを選択することもできます。



2. 画面下部「適用パッケージ」右側の[▼] (赤枠部分)をクリックして、適用するパッケージを選択してください。



3. 「適用」ボタンをクリックしてください。パッケージが割り当てられ、「割り当てパッケージ」「割り当て日時」にパッケージ名と割り当てた日時がそれぞれ表示されます。



4. パッケージを割り当てたブレードが起動するか、休止状態から復帰すると、パッケージがブレードに配信され、アップデートが実行されます。この時、パッケージが配信された日時が「配信日時」に表示されます。

ファイル(E) 表示(V) ヘルプ(H)

接続先: WS08x86 更新

名前	割り当てパッケージ	割り当て日時	配信日時	適用済みパッケージ	適用日時	終了コード
AgentUpdate		2011/05/28 23:57:44	2011/05/28 23:59:33			=

5. アップデートが完了すると、「適用済みパッケージ」「適用日時」「終了コード」にパッケージ名、アップデートの完了日時、パッケージ内の実行プログラムの返り値がそれぞれ表示されます。

ファイル(E) 表示(V) ヘルプ(H)

接続先: WS08x86 更新

パッケージ	割り当て日時	配信日時	適用済みパッケージ	適用日時	終了コード
date	2011/05/28 23:57:44	2011/05/28 23:59:33	AgentUpdate	2011/05/28 23:59:42	0

3-19-4 ConsoleDA Agent のアップデート

アップデート機能を利用して、ブレードにインストールされている ConsoleDA Agent の一括バージョンアップを行うことができます。ここではその方法の一例を示します。(ConsoleDA Agent For Server の場合も同様です。)

1. 次のようなバッチファイルを作成してください。

```
@echo off
AgentSetup_old.exe /s /x /f1"%uninstall.iss"
IF %ERRORLEVEL%==0 GOTO INST
EXIT 99
:INST
AgentSetup_new.exe /s
IF %ERRORLEVEL%==0 GOTO END
EXIT 999
:END
EXIT 0
```

2. アップデートパッケージを作成します。1.で作成したバッチファイルを「実行ファイル」に指定し、「追加ファイル」に以下のファイルを指定します。「引数」は設定しません。

- AgentSetup_old.exe

アップデート前の ConsoleDA Agent のインストールに使用した Hitachi bd Link /CB CD-ROM に収録されている AgentSetup.exe (ファイル名を AgentSetup_old.exe にリネームしてください。)

- AgentSetup_new.exe

新しいバージョンの ConsoleDA Agent のインストールに使用する Hitachi bd Link /CB CD-ROM に収録されている AgentSetup.exe (ファイル名を AgentSetup_new.exe にリネームしてください。)

- setup.iss

新しいバージョンの ConsoleDA Agent のサイレントインストールに必要な設定ファイル

- uninstall.iss

アップデート前の ConsoleDA Agent のサイレントアンインストールに必要な設定ファイル

3. アップデートパッケージの割り当てを行ってください。

4. ブレードが起動するか、休止状態から復帰すると、ConsoleDA Agent のアップデートが行われます。
終了コードの意味は次の通りです。

終了コード	内容
0	正常終了
99	旧バージョンの ConsoleDA Agent のアンインストールに失敗
999	新バージョンの ConsoleDA Agent のインストールに失敗

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ アップデート機能は、Hitachi bd Link Version3 (Ver.3.10)よりサポートされています。従って、Ver3.10 より前のバージョンの ConsoleDA Agent をこの方法でアップデートすることはできません。 ・ ここで示した方法では、ConsoleDA Agent のサイレントアンインストールおよびサイレントインストールを行っているため、それぞれに必要な設定ファイル (setup.iss および uninstall.iss ファイル) をあらかじめ作成しておく必要があります。サイレントインストール、サイレントアンインストール、および設定ファイルの作成方法については、「ConsoleDA Agent インストールガイド」または「ConsoleDA Agent For Server インストールガイド」を参照してください。 ・ ConsoleDA Agent のアンインストールをサイレントで行うにはインストールしたバージョンの AgentSetup.exe を使用する必要があります。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ ConsoleDA Agent For Server の場合も同様に、アップデート前後それぞれのバージョンの Hitachi bd Link /SV CD-ROM に収録されている AgentForServerSetup.exe を使用してください。

3-20 コマンドラインインタフェース

コマンドラインから「Hitachi bd Link」の一部の機能を実行することができます。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。)

ConsoleDA UI のインストールフォルダーにある「ConsoleDACmd.exe」を使用します。

■コマンド書式

ConsoleDACmd.exe [[-h *address:port*] -f *command parameters*]

■引数

-h *address:port* 接続先 ConsoleDA Manager の IP アドレスとポートを指定します。

省略した場合、127.0.0.1:60000 となります。

address ConsoleDA Manager の IP アドレスを指定します。

port ConsoleDA Manager のポート番号を指定します。

-f *command parameters* 下記仕様となります。

■ *command* の仕様

(1) **error log** ブレードのエラーログ情報を表示します。

・*parameters* の仕様

-c *computer-name* ブレードのコンピューター名を指定します。

-s *yyyyMMdd* エラーログの検索開始年月日を指定します。

-e *yyyyMMdd* エラーログの検索終了年月日を指定します。

-o *filename* エラーログの出力ファイル名を指定します。

省略した場合、画面に表示されます。

・戻り値

0 成功

1000 エラー (パラメーター不正)

1001 エラー (取得失敗)

(2) **lampstatus** ブレードのランプ状態を取得します。

・*parameters* の仕様

-i *bmc-ip-address* ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。

・戻り値

0~255	成功
bit[8]	1(固定)
bit[7:6]	STATUS ランプ状態 00b:Off、01b:On、10b:Blink
bit[5:4]	STATUS ランプ Blink タイミング 01b:1Hz、11b:3Hz
bit[3:2]	CALL ランプ状態 00b:Off、01b:On、10b:Blink
bit[1:0]	CALL ランプ Blink タイミング 01b:1Hz、11b:3Hz
1000	エラー(パラメーター不正)
1001	エラー(取得失敗)

(3) `calllampctrl` ブレードの CALL ランプを制御します。

・*parameters* の仕様

-i <i>bmc-ip-address</i>	ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。
-m (on blink1 blink3 off)	制御モード(下記)を指定します。 on:点灯、blink1:点滅(1Hz)、blink3:点滅(3Hz)、off:消灯

・戻り値

0	成功
1000	エラー(パラメーター不正)
1001	エラー(制御失敗)

(4) `powerstatus` ブレードの電源状態を取得します。

・*parameters* の仕様

-i <i>bmc-ip-address</i>	ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。
--------------------------	----------------------------

・戻り値

0	成功(電源オフ状態)
1	成功(電源オン状態)
1000	エラー(パラメーター不正)
1001	エラー(取得失敗)
1002	エラー(/CB-AP または/SV が未インストール)

(5) `powerctrl` ブレードの電源を制御します。

・*parameters* の仕様

-i <i>bmc-ip-address</i>	ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。
-m (on soft off reset)	制御モード(下記)を指定します。 on:電源オン、soft:シャットダウン、off:強制電源オフ、reset:リセット

・戻り値

0	成功
1000	エラー(パラメーター不正)
1001	エラー(取得失敗)
1002	エラー(/CB-AP または/SV が未インストール)

(6) bootdev

ブレードのブートデバイスを制御します。

・*parameters* の仕様

- i *bmc-ip-address* ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。
- d (disk|pxe) ブート デバイス(下記)を指定します。
disk: 内蔵 HDD、pxe: ネットワークブート用サーバ

・戻り値

- 0 成功
- 1000 エラー (パラメーター不正)
- 1001 エラー (制御失敗)
- 1002 エラー (/CB-AP または /SV が未インストール)

(7) history

履歴情報を CSV ファイル形式で取得します。

・*parameters* の仕様

- s *yyyyMMdd* エラーログの検索開始年月日を指定します。
- e *yyyyMMdd* エラーログの検索終了年月日を指定します。
- u *computer-name%account* ユーザー名を指定します。
省略した場合、全てのユーザーが対象となります。
- c *full-computer-name* ブレードのフルコンピュータ名を指定します。
省略した場合、全てのブレードが対象となります。
- o *filename* エラーログの出力ファイル名を指定します。
省略した場合、画面に表示されます。

・戻り値

- 0 成功
- 1000 エラー (パラメーター不正)
- 1001 エラー (取得失敗)
- 1002 エラー (/CB-AP または /SV が未インストール)

注意	・ネットワークの環境や状態により、状態取得や電源制御に失敗することがあります。BAT ファイルなどでお使いいただく場合は、コマンドの実行結果をエラーレベルで判別するようにしてください。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------

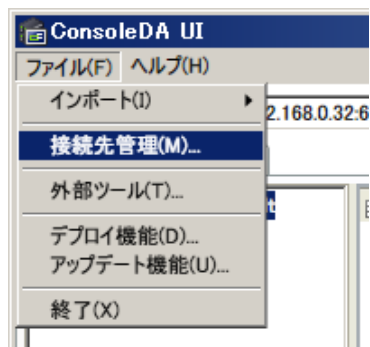
4 環境設定

4-1 接続先の管理

4-1-1 接続先の登録設定

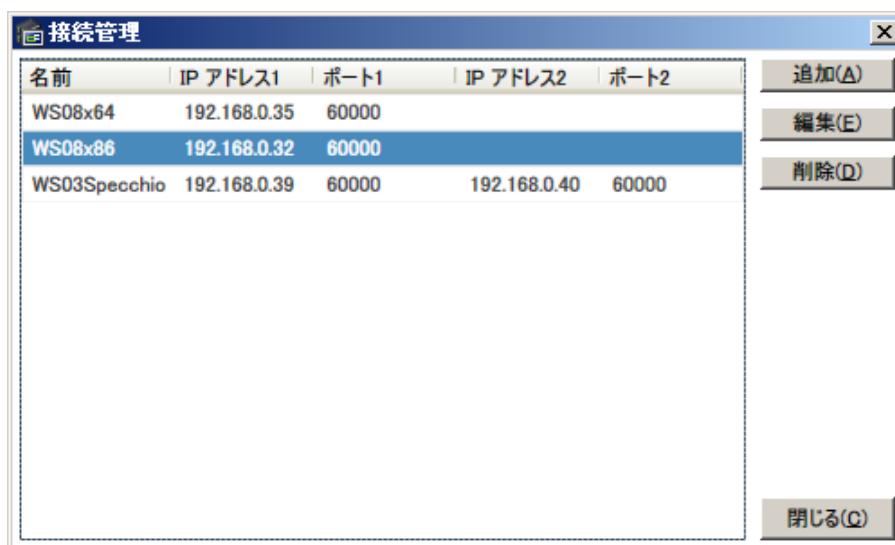
• ConsoleDA UI は複数の管理サーバ(ConsoleDA Manager)と接続できます。接続先の登録設定を行うには、次のように操作します。

1. メインメニューの「ファイル」から「接続先管理」を選択してください。



2. 「接続管理」画面が表示されます。

「追加」・「編集」ボタンで接続管理画面が表示され、管理サーバを追加・編集できます。また、「削除」ボタンで選択した管理サーバを削除できます。



3. 「追加」ボタンまたは「編集」ボタンをクリックすると、接続管理の設定画面が表示されます。以下の各項目を設定してください。

- ・「名前」欄 接続先の管理用の、任意の名前(サーバのコンピュータ名など)
- ・「IP アドレス 1」欄 ConsoleDA Manager がインストールされているサーバの IP アドレス
- ・「ポート 1」欄 ConsoleDA Manager の受信ポート

正副冗長構成を組んでいる場合は「冗長構成」にチェックを入れ、以下の各項目を追加設定してください。

- ・「IP アドレス 2」欄 副側の ConsoleDA Manager がインストールされているサーバの IP アドレス
- ・「ポート 2」欄 副側の ConsoleDA Manager の受信ポート

接続先 編集

名前(N):

ConsoleDA Manager

IP アドレス1(A):

ポート1(P): 60000

冗長構成

IP アドレス2(D):

ポート2(Q): 60000

OK キャンセル

4. 「OK」ボタンをクリックし接続管理画面を開じてください。

5. 「閉じる」ボタンをクリックして接続管理設定を終了します。

補足	<ul style="list-style-type: none">・接続の名前として使用できる文字について、英数字は半角文字のみ、カタカナは全角文字のみとなります。・「ConsoleDA Manager」に設定されるポートのデフォルト値は「60000」です。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4-1-2 接続先の切り替え

・ConsoleDA UI の接続先を切り替えるには、次のように操作します。

1. 接続先サーバ名右側の[▼] (赤枠部分)をクリックして、接続するサーバを選択してください。



2. 選択を変更すると、ブレード一覧表示が選択した管理サーバの内容に切り替わります。

注意

・接続元の ConsoleDA UI が、接続先のサーバに接続を許可されている必要があります。
(「[4-3 接続認証の設定](#)」参照)

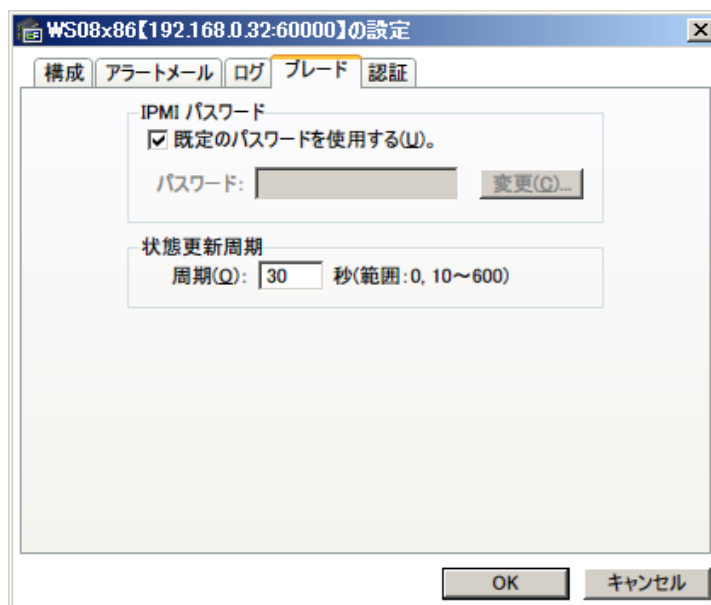
4-2 IPMI の設定

・IPMIのパスワードや電源と CALL ランプの状態を更新する周期を設定するには次のように操作します。

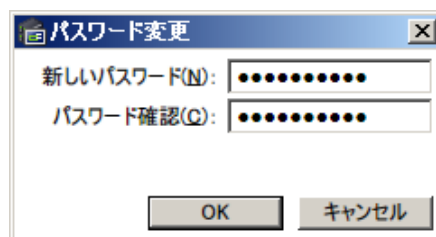
1. 基本画面の、次の図の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 設定画面の「ブレード」タブを選択してください。「IPMIパスワード」を設定する場合は、「既定のパスワードを使用する。」のチェックを外し、「変更」ボタンをクリックしてください。



3. 「新しいパスワード」欄と「パスワード確認」欄に新しく設定するパスワードを入力してください。



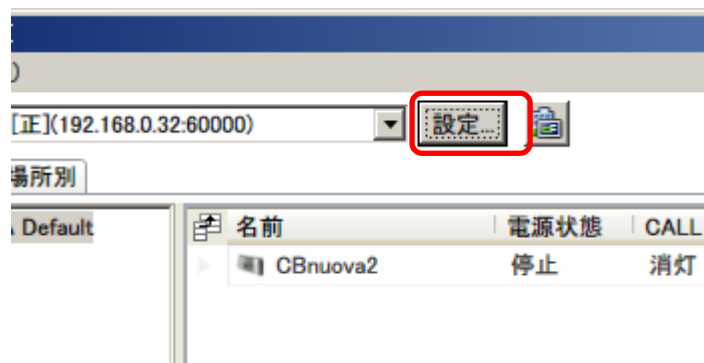
4. 「状態更新周期」は 0 秒および 10~600 秒の範囲で設定できます。設定が済みましたら「OK」ボタンをクリックして設定画面を終了してください。(0 秒に設定すると、状態更新が無効になります)

注意	<ul style="list-style-type: none">・各ブレードにて BMC (Baseboard Management Controller) のパスワードが出荷状態から変更されている場合は、IPMI パスワードの設定が必要です。(管理サーバが管理する全てのブレードに同じパスワードが設定されている必要があります。)・「状態更新周期」を 0 秒に設定した場合、画面の更新が止まり、ブレードの状態情報が反映されなくなります。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

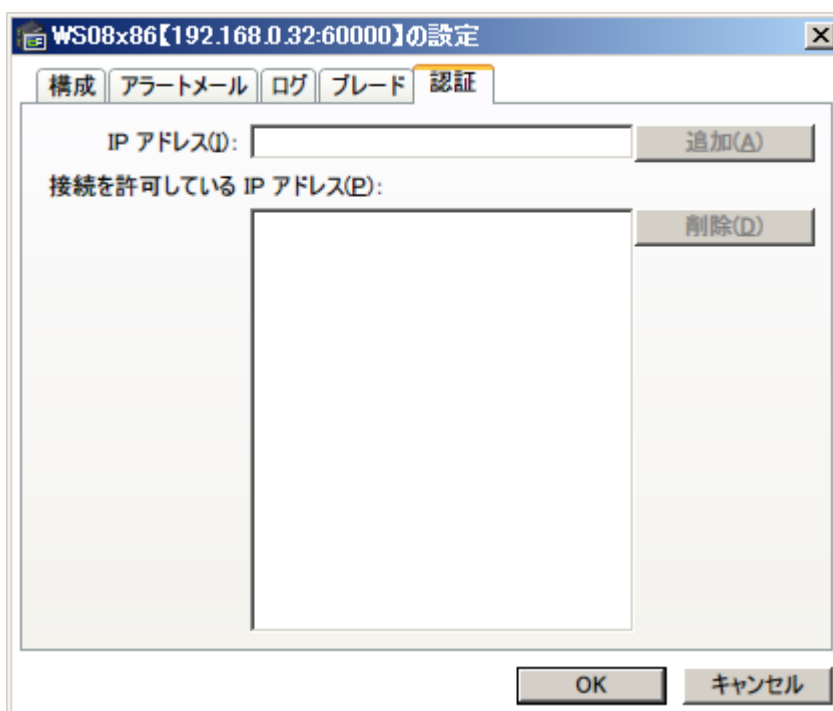
4-3 接続認証の設定

・指定した IP アドレスを持つマシン上で動作する「ConsoleDA UI」以外からの要求を拒否することができます。

1. 管理コンソール画面の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 設定画面の「認証」タブを選択してください。



3. 接続を許可する IP アドレスを入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。

接続を許可している IP アドレスを削除するには、削除する IP アドレスを選択して「削除」ボタンをクリックしてください。

注意	・ConsoleDA Manager への接続を許可する IP アドレスの設定は、ConsoleDA Manager と同じ環境にインストールした ConsoleDA UI からのみ行うことができます。
補足	・接続を許可する IP アドレスを 1 つも登録していない場合、要求拒否は行わず全ての接続が許可されます。 ・ConsoleDA Manager と同じ環境にインストールした ConsoleDA UI は、無条件に接続することができます。

5 困ったときは

No	現象	原因	対策
①	CALL ランプの制御を行うと「CALL ランプの制御に失敗しました。」というエラーが表示された。	回線が接続されていない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 各機器の接続を確認してください。
②	グループを移動させようとする「移動後のグループが深すぎるため移動できません。」というエラーが表示された。	グループの最大階層は「6 階層」です。	<ul style="list-style-type: none"> グループ階層が「6 階層」以下になるようにしてください。
③	「ネットワーク接続でエラーが発生しました。接続を確認してください。」というエラーが表示された。	「ConsoleDA Manager」の IP アドレスが間違っている可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA Manager」がインストールされているサーバの IP アドレスを確認してください。
		「ConsoleDA Manager」が起動していない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA Manager」のサービスを起動してください。 <p>確認方法: 管理サーバの「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を開き、「ConsoleDA Manager」の状態が「開始」になっているか確認してください。</p> <p>「開始」状態になっていない場合は「ConsoleDA Manager」を右クリックして「開始」を選択してください。</p>
		回線が繋がっていない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 回線を確認してください。
④	「ConsoleDA Manager」をインストールしたサーバの IP アドレスを変更したら、接続できなくなった。	「 ConsoleDA UI 」が「 ConsoleDA Manager」に接続できなくなったためです。	<ul style="list-style-type: none"> 接続先を再設定する必要があります。「4-1-1 接続先の登録設定」を参照して再設定してください。
⑤	「ConsoleDA Manager」をインストールしたサーバの IP アドレスを変更したら、ブレードの電源状態が変更されなくなった。	ブレードにインストールした「ConsoleDA Agent」が「ConsoleDA Manager」に接続できなくなったためです。	<ul style="list-style-type: none"> ブレードの ConsoleDA Agent のインストール先にある設定ファイルを編集して ConsoleDA Agent のサービスを再起動してください。 設定ファイルについてはセットアップ手順書を参照してください。

No	現象	原因	対策
⑥	「ConsoleDA Manager」が起動しなくなった。	設定ファイルが正しくない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA Manager」の設定ファイルを確認してください。 設定ファイルについては「ConsoleDA Manager インストールガイド」を参照してください。
		「SQL Server®」が起動していない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「SQL Server®」を起動してください。 <p>確認方法: 管理サーバの「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を開き、「SQL Server®」の状態が「開始」になっているか確認してください。「開始」状態になっていない場合は「SQL Server®」を右クリックして「開始」を選択してください。</p>
⑦	「ConsoleDA UI」が起動しなくなった。	設定ファイルが正しくない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA UI」のユーザー設定保存ファイル(user.config ファイル)を削除します。 <p>(user.config ファイルの場所)</p> <p>Windows® XP/Windows Server® 2003/Windows Server® 2003 R2 の場合:</p> <p>C:\¥Documents and Settings¥(ユーザーアカウント名)\¥Local Settings¥Application Data¥Hitachi, Ltd¥ConsoleDAUI.exe Uri_xxxx¥3.1.0.0</p> <p>Windows Vista®/Windows® 7/Windows Server® 2008/Windows Server® 2008 R2 の場合:</p> <p>C:\¥Users¥(ユーザーアカウント名)\¥AppData¥Local¥Hitachi, Ltd¥ConsoleDAUI.exe Uri_xxxx¥3.1.0.0</p>
⑧	管理サーバの ConsoleDA イベントログに同じエラーログが連続して多数記録されていた。	各ブレードにアクセスごとのエラーが記録される可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、イベントビューアの設定にてログサイズを変更してください。 または、ログ出力をオフに設定してください。設定ファイルについては各インストールガイドを参照してください。

No	現象	原因	対策
⑨	サーバブレード管理画面、イベントログ、サービスが表示できない。	IP アドレス 1 の値が正しく設定されていないためです。	<ul style="list-style-type: none"> IP アドレス 1 に適切な値を持つブレードを作成してください。
		「ConsoleDA Agent For Server」がファイアウォールの例外に設定されていない可能性があります。	<p>ブレードで次の操作を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> コントロールパネルから「Windows ファイアウォール」画面を開く。 「例外」に「ConsoleDA Agent For Server」インストールフォルダーの「Agent2.exe」を追加する。 (Windows Server 2003/Server 2003 R2 の場合の操作)
		サーバブレードのサーバステータス (パフォーマンス、ネットワーク、ディスク)だけが表示されない場合、「ConsoleDA UI」がファイアウォールの例外に設定されていない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> ConsoleDA UI インストールマシンで次の操作を行ってください。 <ol style="list-style-type: none"> コントロールパネルから「Windows ファイアウォール」画面を開く。 「例外」に「ConsoleDA UI」を追加する。 (Windows® XP/Windows Server® 2003/Windows Server® 2003 R2 の場合の操作)

6 制限事項

1. 「ConsoleDA UI」を複数の PC・サーバにインストールしてお使いいただく場合、同時に使用しないでください。
2. 「ConsoleDA Default」及び「未割り当て」グループは削除できません。
3. 「既定の設置場所」「既定のラック」「既定のシャーシ」は削除できません。
4. ブレードが LAN に接続されていない場合、「ConsoleDA UI」で表示される「電源状態表示」や「CALL ランプ表示」「STATUS ランプ表示」は正しくない場合があります。
5. Citrix® XenDesktop®環境でブレードを統合管理する場合、ブレードが休止状態になっていても、ConsoleDA UI 上で表示されるブレードの「状態」(電源状態表示)は「停止中」と表示されます。
6. 「ブレードの利用履歴」「SOL 画面の表示」「電源制御」「起動デバイスの変更」「データセンターのビジュアル表示」「デプロイ機能」各機能については、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にお使いいただけます。
7. 「ConsoleDA UI」は、画面サイズが 1024×768 ドット以上の環境でご使用ください。

7 付録

メインメニュー

No	表記		説明	参照先
①	ファイル(F)	インポート (I)	ファイルから インポート(L)	CSV ファイルからブレードをインポートしま す。 2-4 CSVファイルのインポート
			JP1 宛先ファ イルからイン ポート(J)	JP1 宛先ファイルからブレードの構成情報をイ ンポートします。 2-3 JP1 宛先ファイルのインポ ート
		接続先管理(M)	ConsoleDA Manager の接続先を設定します。	4-1 接続先の管理
			ConsoleDA Manager の構成、アラートメール、 ログ、ブレードの IPMI の設定をします。	3-1-3 ConsoleDAの構成表示 3-9 アラートメールの管理 3-7 ログの管理 4-2 IPMIの設定 4-3 接続認証の設定
		外部ツール(T)	外部ツールの登録を行います。	3-15 外部ツール起動
		デプロイ機能(D)	デプロイ画面を起動します。	3-18 デプロイ機能
		アップデート機能(U)	ConsoleDA アップデート機能のメイン画面を 表示します	3-19 アップデート機能
		終了(X)	ConsoleDA UI を終了します。	
②	ヘルプ(H)	バージョン情報(A)	ConsoleDA UI のバージョン情報を表示しま す。	